# PDF-XChange Printer Standard

操作ガイド

Jungle

1. PDF-XChange プリンター標準 V10 ..... 4
2. インストール ..... 6
3. PDF-XChange Printer Standard の特徴 ..... 7
4. PDF-XChange Printer Standard プリンター設定 ..... 9
4-1. 用紙 ..... 12
4-2. カスタムフォーム ..... 15
4-3. 一般 ..... 17
4-4. 圧縮 ..... 20
4-5. グラフィック ..... 22
4-6. フォント ..... 24
4-7. 透かし ..... 26
4-8. オーバーレイ ..... 30
4-9. セキュリティ ..... 32
4-10. リンク ..... 37
4-11. ブックマーク ..... 38
4-12. 既定のファイル追加 ..... 40
4-13. ヘッダとフッタ ..... 41
4-14. ドキュメント情報 ..... 44
4-15. 保存 ..... 45
4-16. メール ..... 47
4-17. 最適化 ..... 49
5. MS Office ツールバー・アドイン ..... 52
5-1. 設定 ..... 54
5-2. リンク ..... 56
5-3. ブックマーク ..... 58
5-4. Word/Excel/PowerPoint オプション ..... 60
5-5. 詳細設定 ..... 63
6. MS Outlook アドイン ..... 65
7. Office2PDF ..... 70
8. マクロ ..... 72
8-1. アプリケーション名 ..... 74
8-2. ドキュメント名 ..... 76
8-3. ドキュメントパス ..... 79
8-4. 日付と時刻のマクロ ..... 82
8-5. コンピューター名 ..... 86

**8-6. ユーザー名** ..... 88
**8-7. ページ番号** ..... 90
**8-8. ページ数** ..... 93
**8-9. 環境変数** ..... 95

# 1. PDF-XChange プリンター標準 V10

**PDF-XChange Printer Standard** は、業界標準のファイル形式を PDF に変換するために使用される仮想プリンターです。**Microsoft Word、Excel、AutoCAD** など、ほぼすべての **Windows** アプリケーションのファイルとの互換性をもちます。最適化されたハイブリッド・エンジンの搭載により、画像と画像ベースのテキスト文字の変換品質を大幅に向上させ、GDI と XPS の両方への印刷をします。**PDF-XChange Printer Standard** は、完全に互換性のある業界標準のネイティブ PDF ファイルを生成する仮想プリンターとしてインストールされます。そして標準プリンターと同じ方法で使用します － ネイティブアプリケーションでファイルを開き、**印刷**のオプションを選択してから、使用可能なプリンターのリストから **PDF-XChange Printer Standard** を選択するだけです。その後、ドキュメントは PDF に変換されます。Web ページを右クリックして **PDF に変換**をクリックすれば、Web ページを PDF に変換することもできます。このマニュアルの後の章で詳しく説明するように、変換されたドキュメントを向上および編集するために使用できるその他、さまざまなカスタマイズ可能な設定があります。

**PDF-XChange Printer Standard** は、追加の「プラグイン」やソフトウェアを必要としません。ただし、**PDF-XChange Printer Standard** を使用して作成されたファイルを表示、操作するには、別の製品である **PDF-XChange Editor** をインストールすることをお勧めします。完全に無料で、2 つの製品は連携して動作するように設計されています。

また、**MS Office ツールバー・アドイン**は **PDF-XChange Standard** でインストールされ、**Microsoft Word**、**Excel**、および **PowerPoint** ツールバーに表示されます。すなわち、これらのアプリケーションに対して異なる印刷設定を必要に応じて決定でき、異なるアプリケーションからドキュメントを印刷するときに設定を毎回変更する必要がなくなります。

このマニュアルは、次のセクションで構成されています。

- **インストール** ソフトウェアのインストールのプロセス、システム要件、インストールスイッチ・オプション、およびライセンスの詳細について説明します。
- **PDF-XChangePrinter Standard ユーザーマニュアル** ソフトウェアが実行する操作と関連する設定の詳細が記載されています。
    - **PDF-XChangePrinter Standard の特徴** **PDF-XChange Printer Standard** の主な機能について詳しく説明します。
    - **プリンター設定** **PDF-XChange Printer Standard** のカスタマイズ可能な機能の詳細が記載されており、ソフトウェアの UI に合わせて構成されています。
    - **PDF Saver** **PDF-XChange Printer Standard** の設定を決定し、コマンドラインから印刷ジョブを実行するために使用される **PDF Saver** の機能について詳しく説明します。
    - **MS Office ツールバー・アドイン** **Microsoft Office** アプリケーション用の **PDF-Xchange Printer Standard** のツールバー・アドインについて詳しく説明します。
    - **MS Outlook アドイン** 電子メールを PDF に変換するために使用される Microsoft Outlook アドインについて詳しく説明します。
    - **OFFice2PDF** **Microsoft Excel/Word** および **(*.html)** ドキュメントを PDF にバッチ変換できる **OFFice2PDF** の機能について詳しく説明します。
    - **バージョン 10 で追加された機能** この項では、ソフトウェアのバージョン 10 で追加されたすべての機能について詳しく説明します。

---

# 2. インストール

PDF-XChanger Printer Standard をインストールする際は、次の手順に従ってください。

1. 購入または製品ページの無料トライアルの評価版をダウンロードしてください。

2. ダウンロードが完了したら、ダブルクリックして、**実行/キャンセルのダイアログ**ボックスを開きます。

3. **実行**をクリックして、**セットアップ**を開きます。

4. **インストール**をクリックします。

注:
インストーラーを初めて実行したときに、登録番号/アクティベーションキーの入力を求めるプロンプトが表示されます。領収書からこの情報をコピー＆ペーストすることをお勧めします。

**重要**
シリアルキー/アクティベーションキーは厳重に保管してください。著作権の侵害にあたり、違法となるため、これらを他者とは共有しないでください。不正使用の証拠が見つかった場合、アカウントの更新は無効となります。Web サイトで無料および違法なソフトウェアの配布等の提供が見つかった場合、それに対応するシリアルキー/アクティベーションキーは、直ちに無効となります。当社は、そのような Web サイトを毎日監視しています。将来的にも製品開発を可能とするために、製品の完全性の保護にご協力お願いいたします。ソフトウェアに関わる盗難は、すべてのクライアントの利益のために行っている製品の改善に対する投資を損なう結果につながります。

## 3. PDF-XChange Printer Standard の特徴

**PDF-XChange Standard** は、世界中で利用可能な最も機能豊富な仮想プリンターの 1 つです。高品質の変換と最適化された圧縮を組み合わせて、比較的小さなサイズのプロ仕様のドキュメントを作成します。**PDF-XChange Standard** の主な機能について、以下で詳しく説明します。

- **AES 暗号化** セキュリティのオプションが強化されます。
- **小冊子モード** 小冊子(ブックレット)や類似の文書が印刷できます。
- **ブックマーク** 変換されたファイルのブックマーク機能。
- **圧縮オプション** 画像とテキストの設定と規格に関するオプションです。
- **変換** カラー画像をグレースケール/モノクロに変換して、圧縮を改善し、ファイルサイズを縮小します。
- **カスタマイズされた印刷プロファイル** その後使用するためのユーザー用の設定を保存できます。
- **デジタル署名** 真正性を証明するための文書のデジタル署名を施します。
- **ドキュメント情報** **XMP メタデータ**を追加するオプションなど、基本設定と詳細設定をサポートしています。
- **DPI 削減** ファイルサイズを縮小します。
- **フォントの埋め込み** すべてのコンピューターでの互換性を確保するために使用します。中国語、日本語、韓国語のフォントが利用可能です。
- **保存の拡張機能** ファイルの保存方法/名前付け方法を決定する保存オプションです。ワークフローの効率を高めるために**マクロ**が導入されました。
- **ヘッダとフッタ** 変換されたファイルにそれぞれ挿入できます。
- **ハイブリッド変換エンジン** GDI と XPS の両方に印刷します。
- **言語** 幅広い言語をサポートするオプションです。
- **MAPI** および **SMTP** .zip 圧縮機能を含む、ファイルを電子メールで送信するためのオプションです。

- **MRC** MRC(混合ラスターコンテンツ＝高圧縮)をサポートしています。
- **MS Office ツールバー・アドイン** 自動的にインストールされ、コンピューター上の **Microsoft Office** のプログラムにタブを作成します。
- **n-UP** この印刷オプションを使用すると、ページの拡縮やサイズ変更、および各印刷シート上での複数ページ配置が可能になります。
- **Office2PDF** この機能では、ファイルのバッチ変換と、指定したフォルダ/ファイルの PDF への自動変換を可能にする「監視ディレクトリ」の使用が可能になります。
- **オーバーレイ** PDF ページをオーバーレイとして使用できるようにします。
- **用紙プロパティ** 用紙サイズ、解像度、拡大縮小、出力のオプションです。
- **PDF/A 1a、1b+2a、2b、2u(RGB)** が変換オプションとして、サポートされています。
- **セキュリティ** ドキュメントとパスワードのアクセス権を決定するオプションです。
- **ツールチップ** 機能/プロパティにカーソルポイントを合わせると表示されます。
- **URL と電子メールリンク** ファイルの変換時に追加できます。
- **透かし** テキスト/画像形式でドキュメントに追加できます。

---

# 4. PDF-XChange Printer Standard プリンター設定

以下の手順に従って **PDF-XChange Standard** でのプリンター設定を表示/編集：

1. **Windows の検索ボックス**に「プリンターとスキャナー」と入力し、検索結果で**プリンターとスキャナー**をクリックします。

**図 1.** Windows 検索ボックスからの結果

2. **PDF-XChange Standard** をクリックします。

3. **印刷設定**をクリックします。

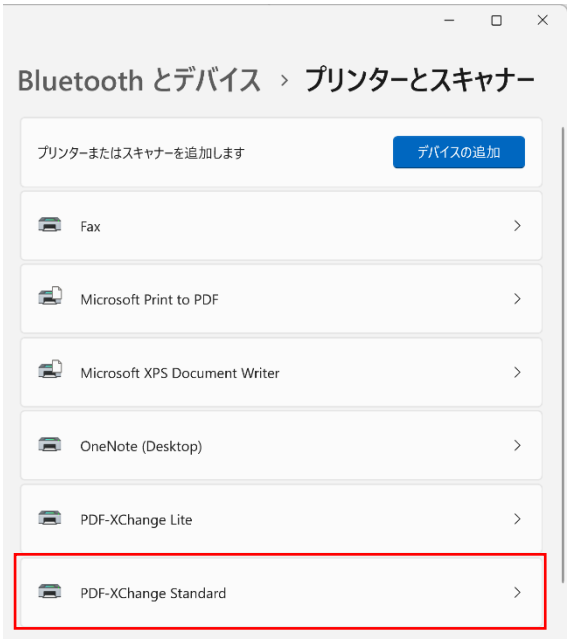


**図 2.** [プリンターとスキャナー] タブ

**図 3.** [PDF-XChange Standard]タブ、印刷設定

**PDF-XChangeStandard 印刷設定**ダイアログボックスが開きます。これらの設定は、**PDF-XChange Standard** のすべてのオプションを決定するために使用されます。

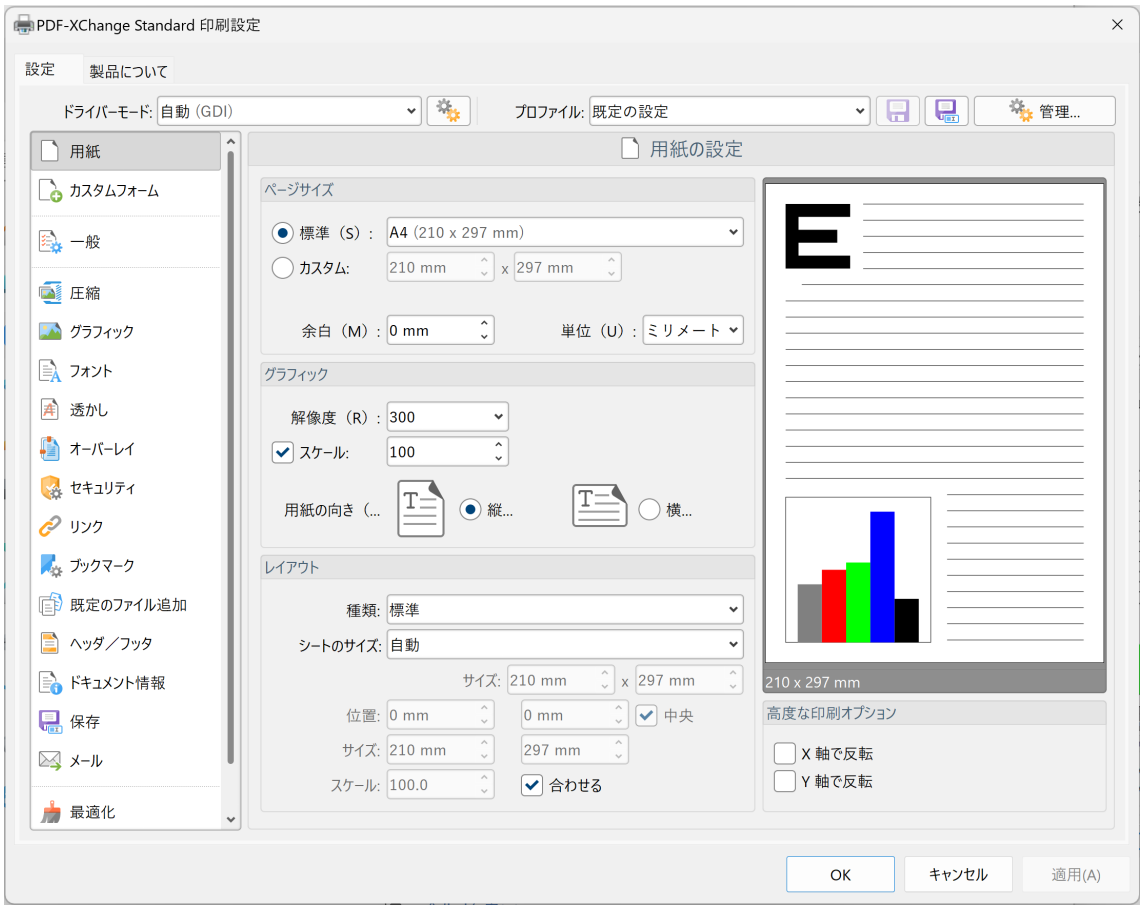


**図 4.** [PDF-XChange Standard 印刷設定]ダイアログボックス

4. 左側の設定リストでオプションをクリックして、**PDF-XChange Standard** プリンターの設定を表示/編集します。

# 4-1. 用紙

**用紙**設定では、ページのサイズ、向き、余白、拡大/縮小率、ページのレイアウトと印刷順序、および画像の **DPI** 解像度を決定します。ただし Microsoft Word などの一部のプログラムが、**用紙**の設定で決定されたプロパティより優先される場合があることに注意してください。これは、それら独自のパラメータ内で決定された値を使用し、それらの値を **PDF-XChange Standard** のオプションよりも優先するためです。

メインウィンドウの左側にあるメニューの**用紙**をクリックして、**用紙設定**をカスタマイズします。

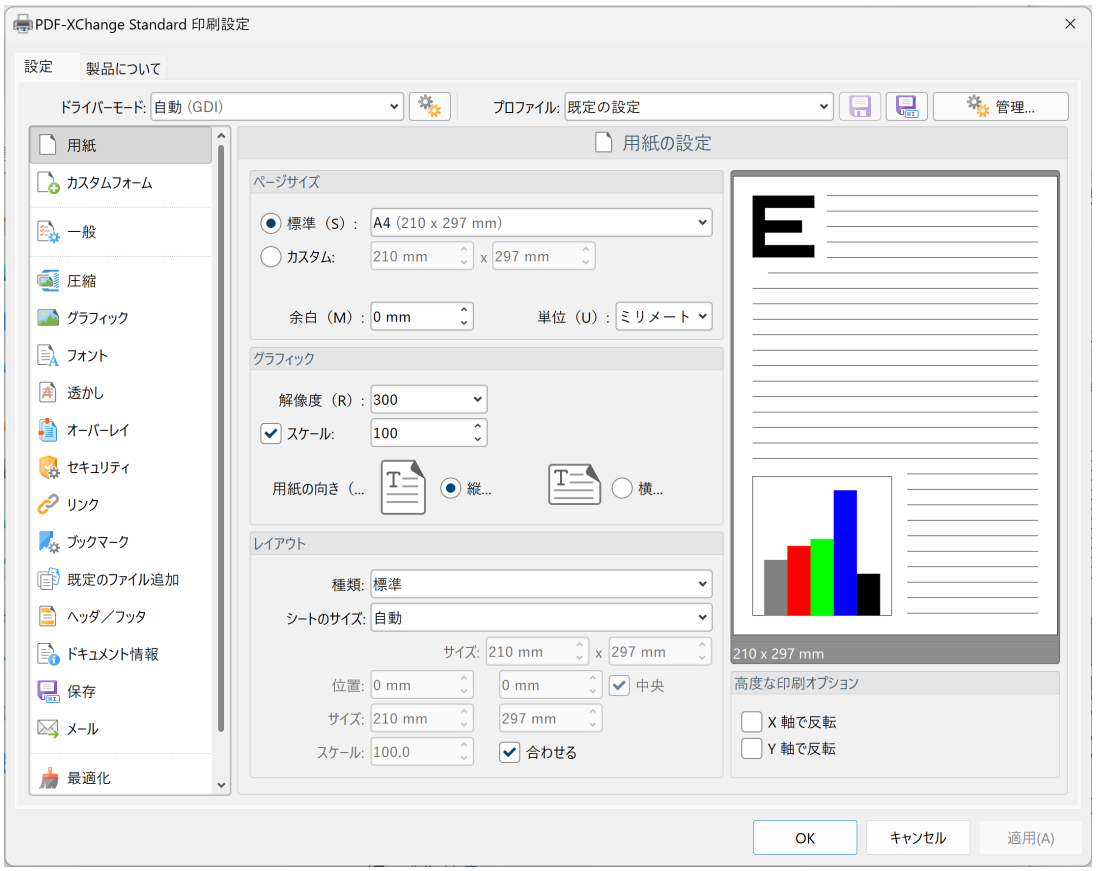


**図 1.** [用紙設定]ダイアログボックス

### ページサイズ

- **標準規格**　業界規格の標準化されたサイズであり、**カスタムフォーム**機能を使用して作成したカスタムのプロファイルも含みます。
- **カスタム**　カスタムの寸法が有効になります。数値ボックスを使用して、ドキュメントの寸法を決定します。ドロップダウンリストを使用して、数量単位を決定します。
- **余白**　ドキュメントの余白のサイズを調整します。

**AutoCAD** については、印刷時、特に PDF-XChange Standard などの仮想印刷ドライバに出力する場合に問題が発生する場合があることに注意してください。問題が発生した場合、特に定義された余白/ページ制限を超える出力の部分に関しては、少なくとも 3.2mm の余白を設定することをお勧めします。

### グラフィック

- **解像度**　**DPI**(ドット/インチ) で測定されます。**解像度**の数値ボックスを使用して **DPI** を確定します。(なお、**DPI** は印刷する内容に応じて、ファイルサイズを増減する場合があります。コンテンツが主に描画(線、曲線、塗り潰し)またはテキストである場合、**DPI** を上げると、(特にテキストの場合)最終的なファイルサイズが小さくなる可能性があります。ただし、コンテンツが主に画像ベースの場合は、**DPI** を上げるとほとんどの場合、ファイルサイズが大きくなります。)
- **スケール**　元のコンテンツに対する変換されたドキュメントのサイズを決定します。
- **用紙の向き**　ページの向きを**縦**または**横**に設定します。

### レイアウト

- **種類**
    - **標準**　PDF のページごとに 1 ページのレイアウトになります。
    - **冊子**　隣接するページを配置し、小冊子や類似のドキュメントに使用されます。
    - **シートごとに複数ページ**　PDF のページごとに複数のドキュメントページを配置します。値を選択すると、プレビューウィンドウにレイアウトが表示されます。

- **シートのサイズ**
    - **自動**　シートのサイズを自動的に設定します。
    - **カスタムサイズ**　カスタムでの寸法が有効になります。
    - **残りのオプション**　業界標準規格の寸法です。

**高度な印刷オプション**

- **X 軸で反転** これを選択すると、水平軸で反転したドキュメントの反転バージョンが印刷されます。
- **Y 軸で反転** これを選択すると、垂直軸で反転したドキュメントの反転バージョンが印刷されます。

**OK** をクリックして変更を保存します。

---

# 4-2. カスタムフォーム

**カスタムフォーム**の設定は、後で使用するためにカスタムフォームを保存するために使用されます。

**図 1.** [カスタムフォーム]ダイアログボックス

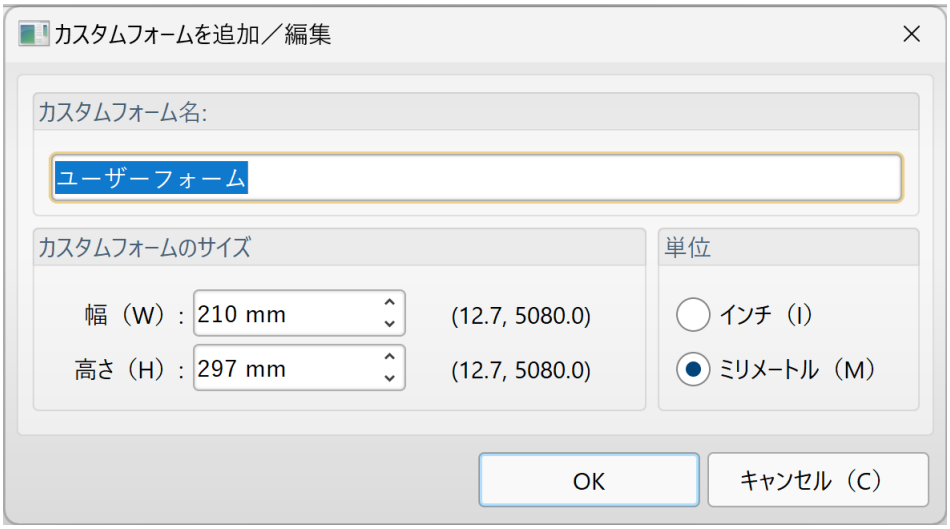


**図 2.** [カスタムフォームを追加/編集] ダイアログボックス

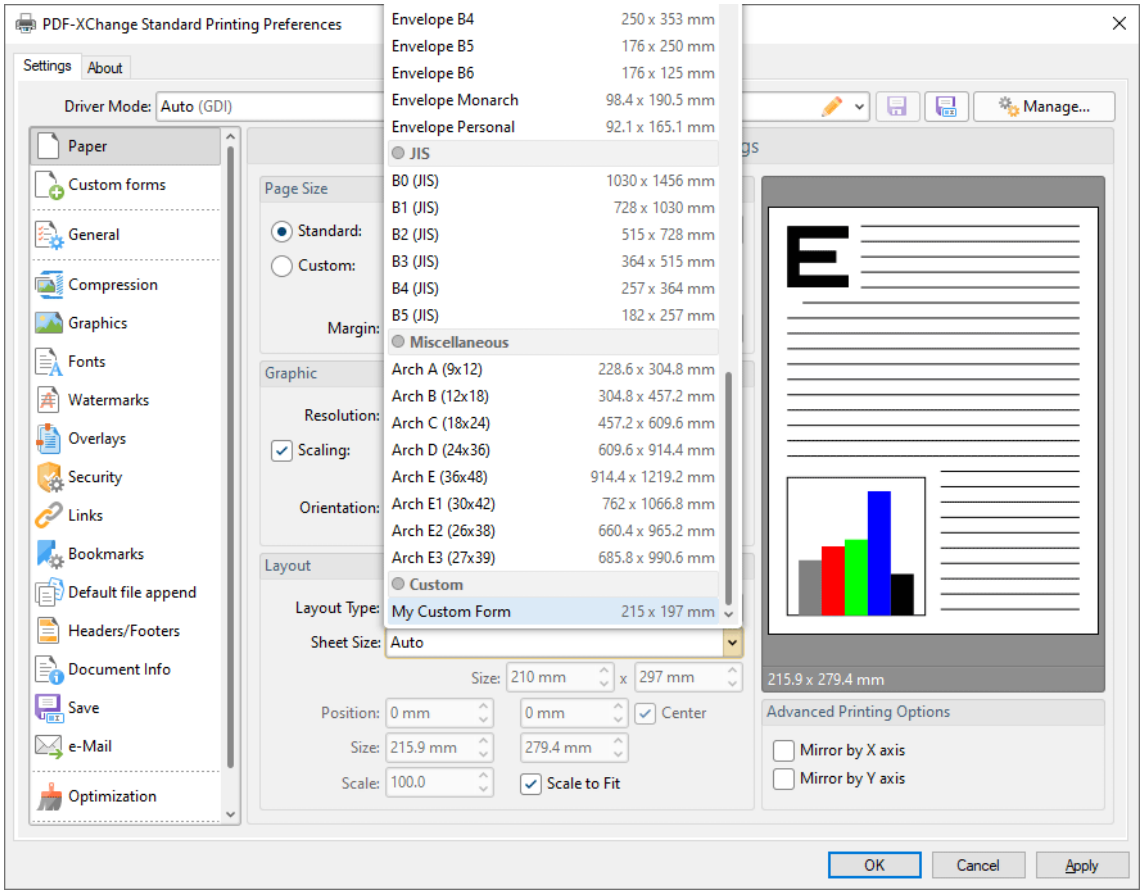


**図 3.** 用紙設定、シートサイズのドロップダウンメニュー、ユーザーフォーム

# 4-3. 一般

**一般**の設定では、印刷ドキュメントの一般的なドキュメント・パラメータを決定します。

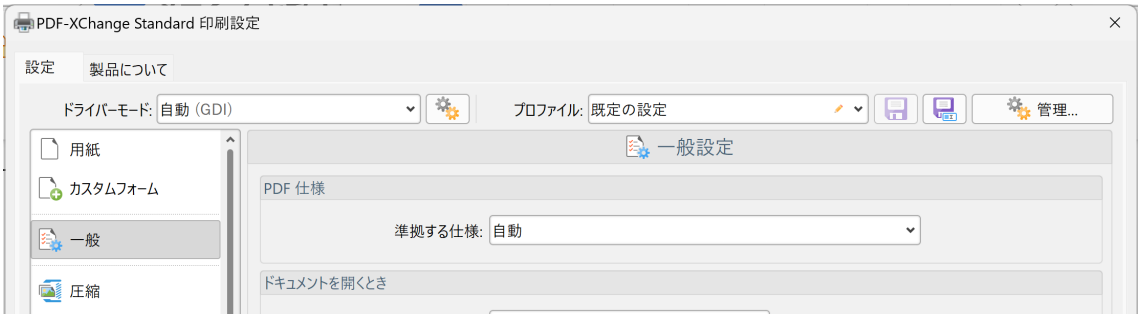


**図 1.** [一般]ダイアログボックス

- **準拠する仕様** ドロップダウンメニューを使用して、印刷ファイルが準拠する仕様を決定します。これらのオプションについては、以下の**(図 2.)**で詳しく説明します。
- **ページレイアウト** ドロップダウンメニューからオプションを選択し、ドキュメントを開いたときのページレイアウトを決定します。
  - **ビューアの既定** 印刷ドキュメントの表示に使用されるプログラムのデフォルトの設定でページをレイアウトします。
  - **単一ページ** ドキュメントを 1 ページ単位で表示します。
  - **連続** ドキュメントが 1 つのページに連続して表示されるため、スクロールして連続したページを同時に表示できます。
  - **2 列(表紙ページ)** 最初のページを表紙として表示し、残りのページを 2 列で表示します。
  - **2 列** ドキュメントを 2 列で表示します。
  - **2 ページ（表紙ページ）** 最初のページが表紙として表示され、残りのページは一度に 2 ページずつ表示されます。
  - **2 ページ** ドキュメントが一度に 2 ページずつ表示されます。
- **ページモード** ドロップダウンメニューからオプションを選択し、ドキュメントを開いたときに表示されるドキュメントのエレメンツを決定します。

- **ビューアの規定** 印刷ドキュメントの表示に使用されるプログラムのデフォルトの設定でドキュメントを表示します。
- **ページ表示のみ** ドキュメントページのみが表示されます。
- **ブックマークペインを表示** ドキュメントページと**ブックマーク**のペインのみが表示されます。
- **サムネイルペインを表示** ドキュメントページと**サムネイル**のペインのみが表示されます。
- **レイヤーペインを表示** ドキュメントページと**レイヤー**のペインのみが表示されます。
- **添付ファイルペインを表示** ドキュメントページと**添付ファイル**のペインのみが表示されます。
- **フルスクリーン** ドキュメントを全画面表示モードで表示します。

- **フルスクリーン時のページモード** ドロップダウンメニューでオプションを選択し、ドキュメントを全画面モードで開いたときに表示されるドキュメントのエレメンツを決定します。これらの設定は、全画面モードが有効な場合に追加のペインの表示をサポートする PDF ビューアにのみ適用されることに注意してください。次のオプションが使用できます。
  - **ビューアの規定** 印刷ドキュメントの表示に使用されるプログラムのデフォルトの設定でドキュメントを表示します。
  - **ページ表示のみ** ドキュメントページのみが表示されます。
  - **ブックマークペインを表示** ドキュメントページと**ブックマーク**のペインのみが表示されます。
  - **サムネイルペインを表示** ドキュメントページと**サムネイル**のペインのみが表示されます。
  - **レイヤーペインを表示** ドキュメントページと**レイヤー**のペインのみが表示されます。
  - **添付ファイルペインを表示** ドキュメントページと**添付ファイル**のペインのみが表示されます。
- **倍率** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、印刷ドキュメントを開いたときの倍率のレベルを決定します。
  - **デフォルト** ドキュメントをデフォルト（既定）の倍率で表示します。
  - **実際のサイズ** ドキュメントが物理的なサイズで表示されます。
  - **ページに合わせる** ドキュメントページをビューアウィンドウに合わせます。
  - **幅に合わせる** ビューアウィンドウの幅にドキュメントを合わせます。
  - **高さを合わせる** ビューアウィンドウの高さにドキュメントを合わせます。

- 数値オプションを選択して、印刷ドキュメントを開いたときの拡縮レベルを設定します。
- **開くページ**　印刷ドキュメントを開くページを指定します。
- **遷移の種類**　ドロップダウンメニューでオプションを選択し、ドキュメントを全画面モードで表示する際のページ切り替えスタイルを決定します。**ページの長さ**の数値ボックスを使用して、各ページを開いた状態のままにする時間を決定します。
- **遷移モード**　ドロップダウンメニューを使用して、複数のモードを備えた遷移の種類（スタイル）の遷移モードを決定します。**遷移の期間**の数値ボックスを使用して、遷移の長さを決定します。
- **ビューアの設定**　必要に応じて、このセクションのボックスを選択します。

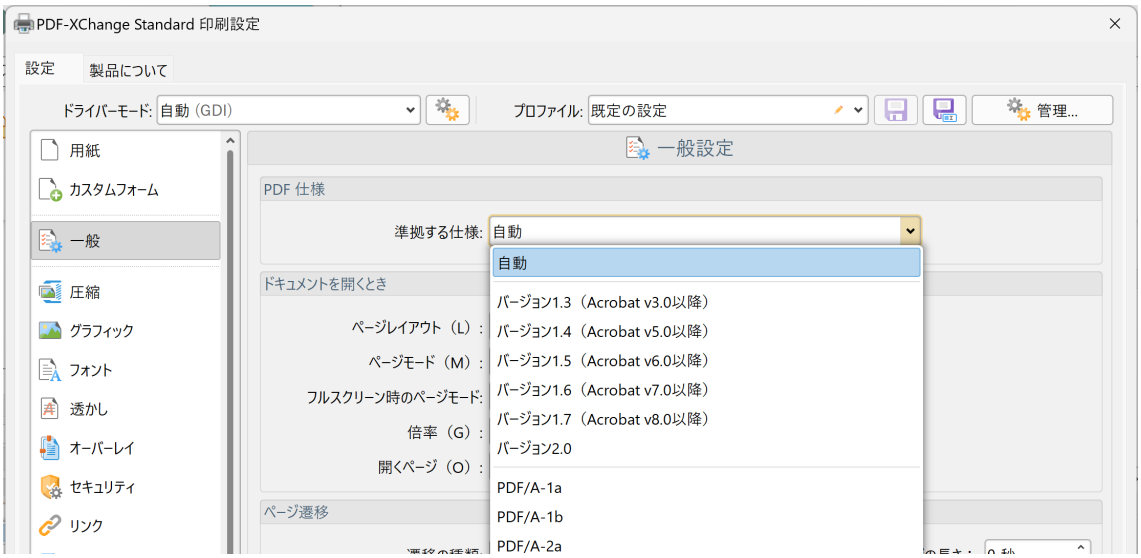


**図 2.** [一般] ダイアログボックス、[準拠する仕様] ドロップダウンメニュー

- **自動**　**PDF-XChange Standard** が有効になり、PDF の仕様が自動的に選択されます。
- **バージョン 1.3** から**バージョン 2.0** まで　PDF の仕様をこれらのバージョンの PDF 仕様に設定します。
- **PDF/A**（各種）　PDF の仕様をドキュメントのアーカイブ用に設計された PDF/A の形式に設定します。

**OK** をクリックして変更を保存します。

# 4-4. 圧縮

**圧縮**の設定では、印刷ドキュメントの圧縮パラメータを決定します。

**図 1.** [圧縮]ダイアログボックス

- **画像を圧縮** ボックスを選択して、印刷ドキュメントの画像を圧縮します。このボックスを選択すると、以下で詳しく説明するように、**ハイカラー/グレースケール**の画像、**インデックス付き**の画像、および**モノクロ**画像の圧縮オプションが有効になります。
- **ASCII フォーマット(大きなファイル)** これを選択すると、印刷ドキュメントを ASCII 文字エンコードに圧縮します。
- **テキストを圧縮する** ボックスを選択して、ドキュメントのテキストを圧縮します。

### ハイカラー/グレースケール画像

- **次の方法で圧縮** テキストボックスを選択して、これらの形式の画像の圧縮を有効にし、ドロップダウンメニューを使用して圧縮の種類を決定します。
- **JPEG 品質** 数値ボックスを使用して、高カラー/グレースケール画像の JPEG 画質を決定します。

**インデックス付きイメージ**

- **次の方法で圧縮** テキストボックスを選択して、インデックス付き画像の圧縮を有効にし、ドロップダウンメニューを使用して圧縮の種類を決定します。

**モノクロ画像**

- **次の方法で圧縮** テキストボックスを選択してモノクロ画像の圧縮を有効にし、ドロップダウンメニューを使用して圧縮の種類を決定します。
- **JBIG2 仕様** ドロップダウンメニューを使用して、使用する JBIG2 圧縮方法を決定します。

**OK** をクリックして変更を保存します。

---

## 4-5. グラフィック

**グラフィック**の設定は、印刷ドキュメント内の画像のダウンサンプリングと変換オプションを決定するために使用されます。

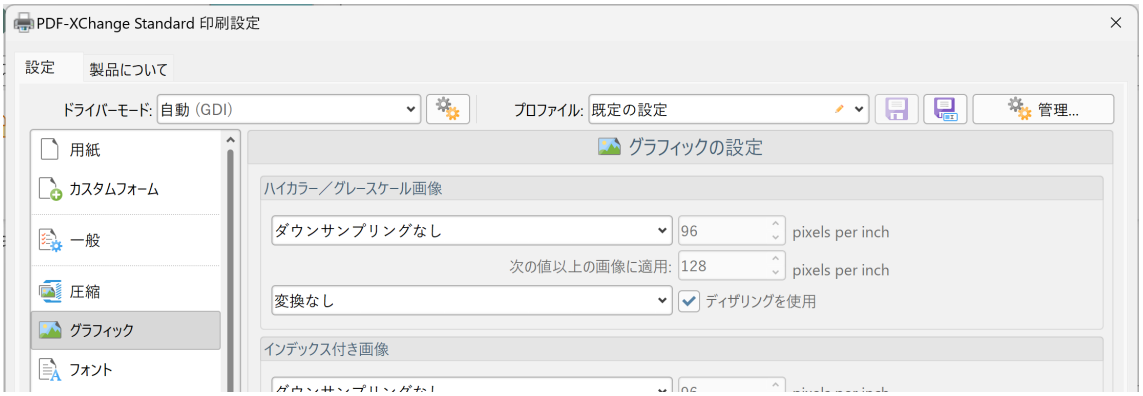


**図 1.** [グラフィック]ダイアログボックス

### ハイカラー/グレースケール画像

- 上部のドロップダウンメニューを使用して、ハイカラー／グレースケール画像のダウンサンプリング･オプションを決定します。
  - **ダウンサンプリングなし** ダウンサンプリングを無効にする場合に選択します。
  - **リニア**、**バイリニア**、または**バイキュービック**を選択し、これらのダウンサンプリング形式を有効にします。
  - 上段の数値ボックスを使用して、画像に対するダウンサンプリングの解像度を決定します。
  - 下段の数値ボックスを使用して、画像に対するダウンサンプリングの最小解像度を決定します。
- 下部のドロップダウンメニューを使用して、ハイカラー／グレースケール画像を変換する形式を決定します。必要に応じて、**ディザリングを使用**のボックスを選択します。

**インデックス付きイメージ**

- 上部のドロップダウンメニューを使用して、インデックス付き画像のダウンサンプリング・オプションを決定します。
  - **ダウンサンプリングなし** ダウンサンプリングを無効にする場合に選択します。
  - **リニア**、**バイリニア**、または**バイキュービック**を選択し、これらのダウンサンプリング形式を有効にします。
  - 上段の数値ボックスを使用して、画像に対するダウンサンプリングの解像度を決定します。
  - 下段の数値ボックスを使用して、画像に対するダウンサンプリングの最小解像度を決定します。
- 下部のドロップダウンメニューを使用して、高解像度インデックス付き画像の変換形式を決定します。必要に応じて、**ディザリングを使用**のボックスを選択します。

**モノクロ画像**

- 上部のドロップダウンメニューを使用して、モノクロ画像のダウンサンプリング・オプションを決定します。
  - **ダウンサンプリングなし** ダウンサンプリングを無効にする場合に選択します。
  - **リニア**、**バイリニア**、または**バイキュービック**を選択し、これらのダウンサンプリング形式を有効にします。
  - 上段の数値ボックスを使用して、画像に対するダウンサンプリングの解像度を決定します。
  - 下段の数値ボックスを使用して、画像に対するダウンサンプリングの最小解像度を決定します。
- 下部のドロップダウンメニューを使用して、高解像度モノクロ画像を変換する形式を決定します。**しきい値**の数値ボックスを使用して、モノクロ画像を白黒に変換する場合のしきい値を決定します。このボックスに入力した値よりも大きい値のピクセルは白に変換され、他のすべてのピクセルは黒に変換されます。

**OK** をクリックして変更を保存します。

---

# 4-6. フォント

**フォント**の設定は、印刷ドキュメントにフォントを埋め込むオプションを決定するために使用されます。

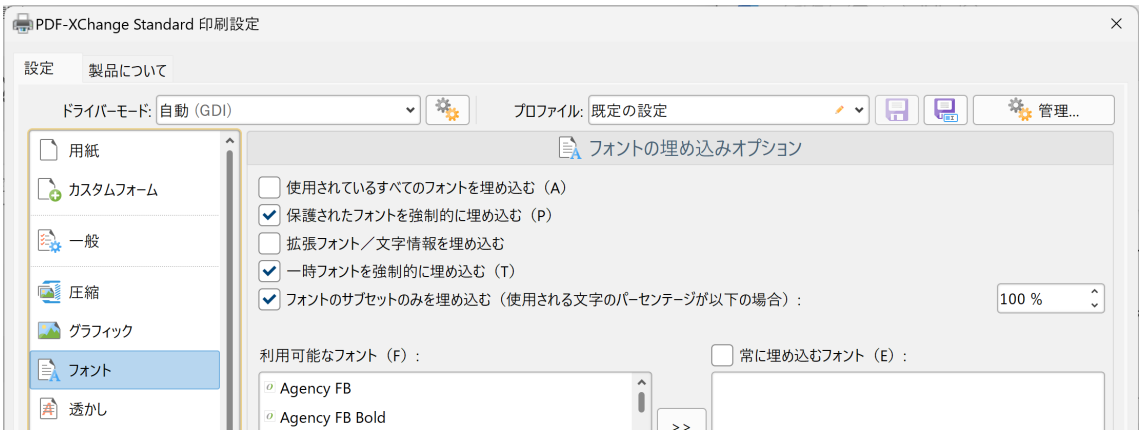


**図 1.** [フォント]ダイアログボックス

- **使用されているすべてのフォントを埋め込む** ボックスを選択すると、すべてのフォントを埋め込みます。これにより、ファイルサイズは大きくなりますが、すべてのマシンでフォントを表示できるようになります。
- **保護されたフォントを強制的に埋め込む** ボックスを選択すると、保護されたフォントをドキュメントに強制的に含めるようにします。一部のフォントは広く配布するためのライセンスが付与されていないため、このオプションを使用する場合はライセンスの許可について確認する必要があることに注意してください。
- **拡張フォント/文字情報を埋め込む** ボックスを選択すると、拡張フォントと文字情報を埋め込みます。
- **一時フォントを強制的に埋め込む** ボックスを選択すると、ドキュメントに一時フォントを強制的に含めます。
- **フォントのサブセットのみを埋め込む（使用される文字のパーセンテージが以下の場合）** ボックスを選択すると、フォントのサブセットがファイル内で表されるフォントの合計に対する割合が、隣接する数値ボックスに入力された割合よりも小さい場合に、フォントのサブセットが埋め込まれます。これにより、文字セット全体ではなくフォントのサブセットが保存

されるため、ファイルのサイズが最適化されますが、後でドキュメントを編集する予定がない場合にのみ使用してください。

- **利用可能なフォント** ウィンドウには、埋め込み可能なすべてのフォントが表示されます。フォントを選択し、矢印アイコンを使用して、**常に埋め込むフォント**または**常に埋め込まないフォント**のペインに追加します。ファイルサイズを最適化するために、一般的でないフォントを埋め込み、一般的なフォントを埋め込まないままにしておくのが最善の方法です。これは、一般的なフォントがその他のユーザーのコンピューターで使用できる可能性が高いため、これらのフォントを埋め込むとファイルのサイズが不必要に大きくなるためです。

**OK** をクリックして変更を保存します。

---

# 4-7. 透かし

**透かし**の設定は、印刷ドキュメントに透かしを追加するために使用されます。

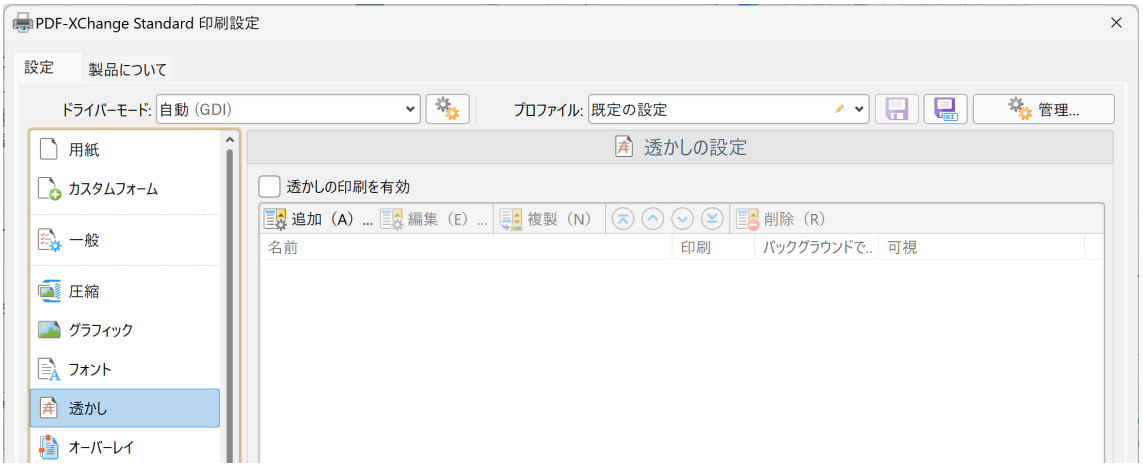


**図 1.** [透かし]ダイアログボックス

- **透かしの印刷を有効** ボックスを選択して、透かしの印刷を有効にします。透かしのペインで選択した透かしは、ドキュメントの印刷時に追加されます。**印刷**、**バックグラウンドで…**、および**可視**の列には、透かしのパラメータの概要が表示されます。**編集**をクリックして、以下の**(図 2.)**で詳しく説明するように、これらのパラメータを調整します。
- **追加/編集** 透かしを追加/編集します**(図 2.)**。
- **複製** 選択した透かしを複製します。
- **削除** 選択した透かしを削除します。
- 青い矢印を使用して、リスト内の透かしの順序を調整します。

## 透かしの追加/編集

このダイアログボックスのオプションは、透かしの内容とスタイルを決定するために使用されます。

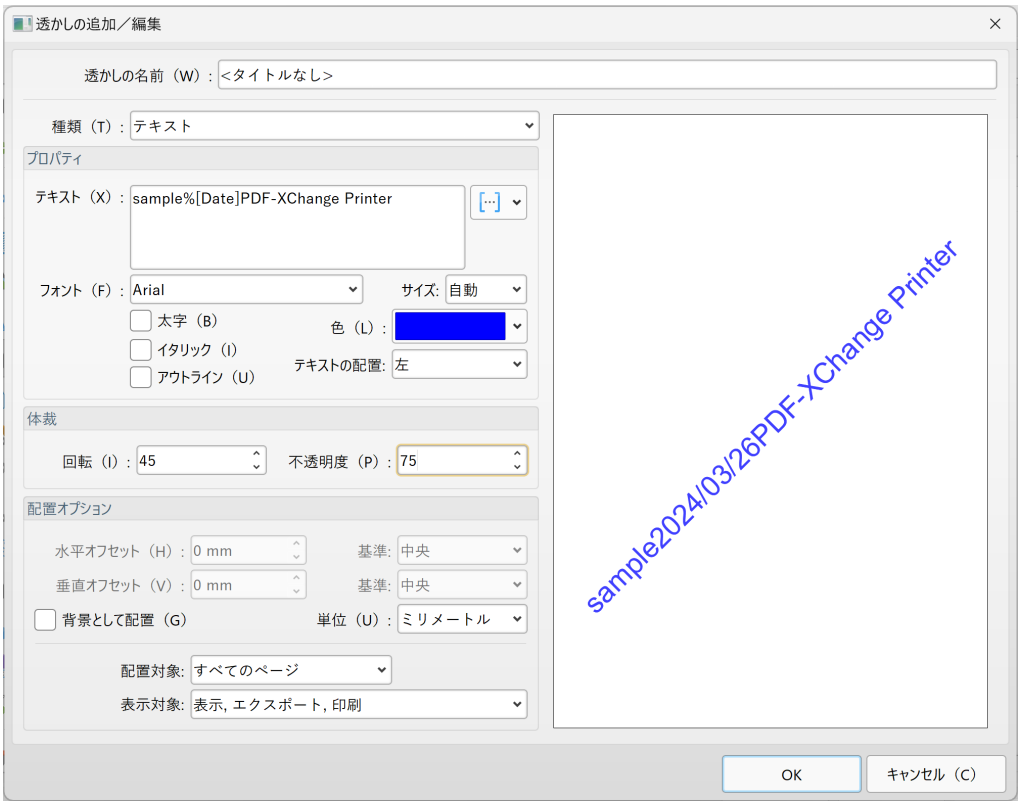


**図 2.** [透かしの追加/編集] ダイアログボックス

- **透かしの名前** テキストボックスを使用して、透かしの名前を編集します。
- **種類** ドロップダウンメニューを使用して、必要に応じて透かしの種類を**テキスト**または**画像**から選択します。テキストと画像の透かしでは、異なるプロパティのセットを備えていることに注意してください。テキスト透かしのプロパティについては、以下および**(図 2.)**で説明します。画像の透かしのプロパティについては、**(図 3.)**で詳しく説明しています。
- **テキスト** テキストボックスを使用して、透かしのテキストを編集します。青色の[…]アイコンをクリックして、必要に応じて**マクロ** を追加します。**(図 2.)**のサンプル透かしは、**%[Date]**のマクロを使用しています。
- **フォント** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、透かしのフォントを編集します。
- **サイズ** ドロップダウンメニューを使用して、透かしフォントのサイズを決定します。

- 必要に応じて、**太字**、**イタリック**、および/または**アウトライン**ボックスを選択します。
- **色** ドロップダウンメニューを使用して、フォントの色を決定します。
- **テキストの配置** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、透かしのテキストの配置を決定します。
- **回転**と**不透明度** 数値ボックスを使用して、透かしの回転と透明度を決定します。
- 水平/垂直オフセット 数値ボックスを使用して、水平軸と垂直軸の透かしのオフセットを決定します。**基準**のドロップダウンメニューでオプションを選択して、オフセットを行う場所を決定します。
- **背景として配置** ボックスを選択して、透かしを背景として追加します。
- **配置対象** ドロップダウンメニューを使用して、透かしを配置するページを決定します。
- **表示対象** ドロップダウン メニューを使用して、透かしをいつ表示するかを決定します。

## 透かし画像のプロパティ

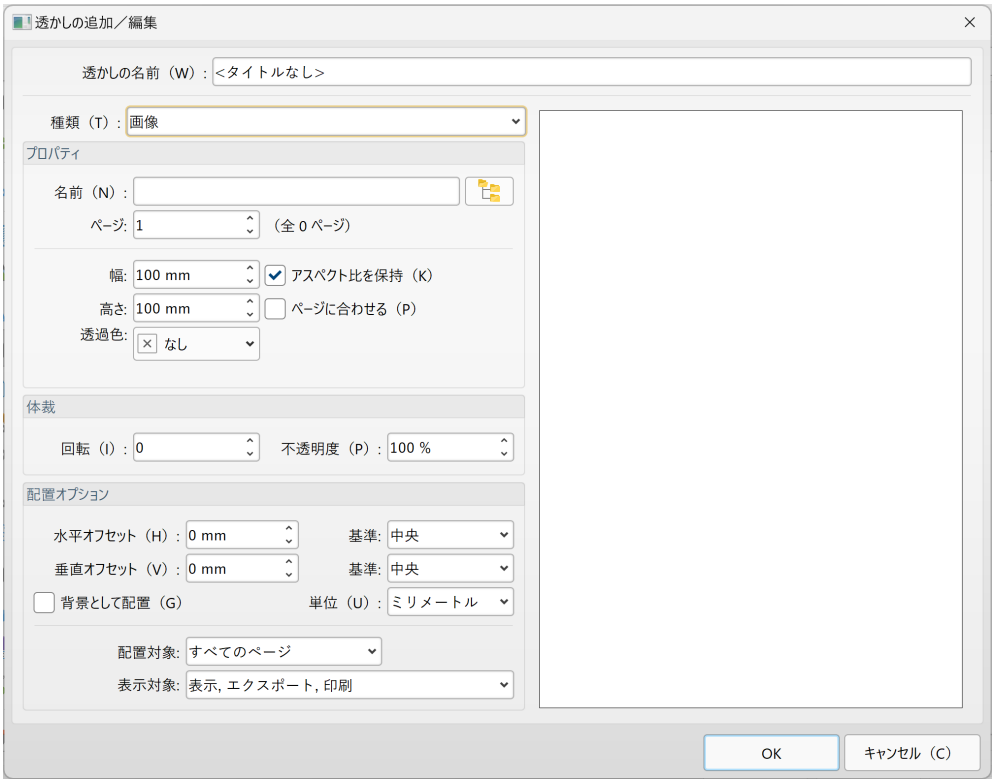


**図 3.** 透かし画像のプロパティ

- **名前** 使用するファイルの名前をテキストボックスに入力するか、アイコンをクリックして手動でファイルを選択します。
- **ページ** 数値ボックスを使用して、透かしの作成に使用するページ番号を指定します。
- **幅**と**高さ** 数値ボックスを使用して、透かしの幅と高さを決定します。
- **アスペクト比を保持** ボックスを選択すると、画像の縦横比が維持されます。
- **ページに合わせる** ボックスを選択すると、画像が印刷されるページのサイズに画像を収めるようにします。
- **透過色** ドロップダウンメニューを使用して、透かしの透明要素の色を決定します。

このダイアログボックスの残りのオプションについては、上記の**(図 2.)**以下で詳しく説明しています。

**OK** をクリックして透かしを保存します。

---

# 4-8. オーバーレイ

**オーバーレイ**の設定は、印刷ドキュメントを既存のドキュメントにオーバーレイするために使用されます。

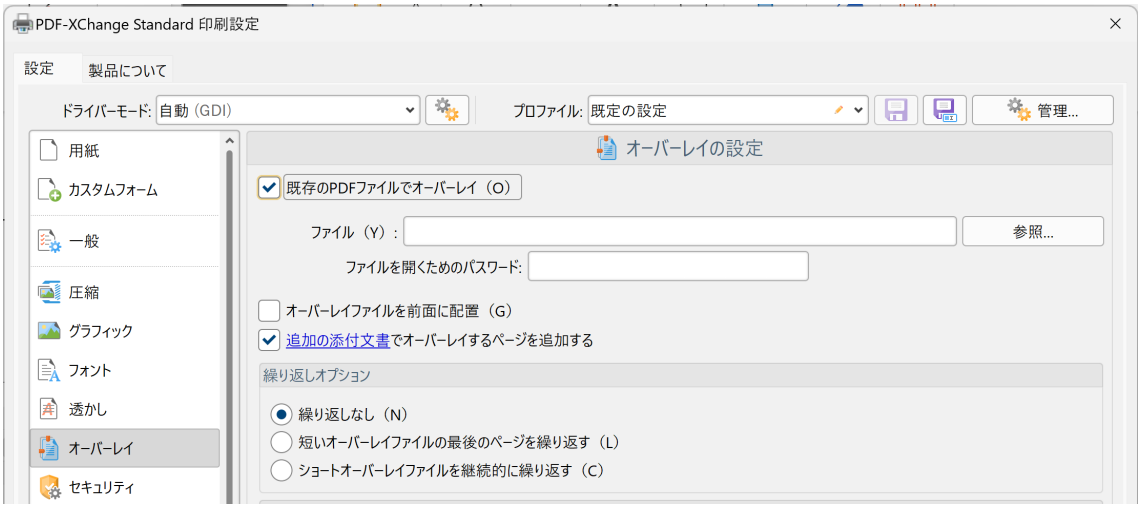


**図 1.** [オーバーレイ]ダイアログボックス

- **既存の PDF ファイルでオーバーレイ** ボックスを選択して、印刷ドキュメントにオーバーレイします。
  - **ファイル** テキストボックスにオーバーレイ・ファイルの名前を入力するか、**参照**をクリックしてファイルを手動で選択します。
  - **ファイルを開くためのパスワード** 選択したファイルがパスワードで保護されている場合はテキストボックスにパスワードを入力します。
- **オーバーレイ・ファイルを全面に配置** ボックスを選択すると、印刷ドキュメントの前面にオーバーレイが配置されます。
- **追加の添付文書でオーバーレイするページを追加** **既定のファイル追加**の機能で追加されたページもオーバーレイされます。
- **繰り返しオプション** オーバーレイ・ドキュメントのページ数が印刷ドキュメントよりも少ない場合の結果を決定します。

- **繰り返しなし** オーバーレイ・ドキュメントを繰り返さない場合に選択します。オーバーレイ・ドキュメントの範囲を超える印刷ドキュメントのページには、オーバーレイは施されません。
- **短いオーバーレイファイルの最後のページを繰り返す** オーバーレイ・ドキュメントの範囲を超える印刷ドキュメントのページにおけるオーバーレイ・ドキュメントの最終ページが繰り返されます。
- **ショートオーバーレイファイルを継続的に繰り返す** オーバーレイ・ドキュメントの範囲を超える印刷ドキュメントのページにおけるオーバーレイ・ドキュメントの最初のページから繰り返されます。

- **位置** 印刷ドキュメントを基準にしたオーバーレイ・ファイルの配置を決定します。
  - **水平方向** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、水平位置を決定します。
  - **垂直方向** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、垂直位置を決定します。
  - **オーバーレイ・ページを新しく作成されたドキュメント・ページに合わせる** ボックスを選択すると、オーバーレイ・ページが印刷ドキュメントのページサイズに合わせられます。
  - **アスペクト比を保持** ボックスを選択すると、**オーバーレイ・ページを新しく作成されたドキュメント・ページに合わせる**のオプションを使用したときに、オーバーレイの縦横比が維持されます。

**OK** をクリックして変更を保存します。

# 4-9. セキュリティ

**セキュリティ**の設定は、印刷ドキュメントのドキュメント・パスワードと権限設定を追加/編集するために使用されます。

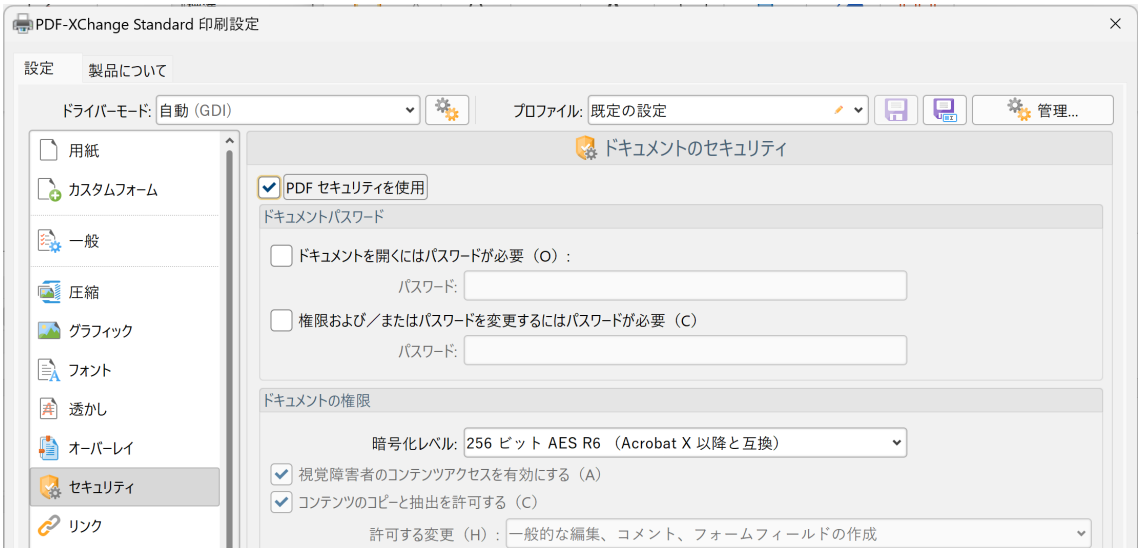


**図 1.** [セキュリティ] ダイアログボックス

- **PDF セキュリティを使用** ボックスを選択して、印刷ドキュメントにパスワードとアクセス権の設定を追加します。
    - **ドキュメントを開くにはパスワードが必要** ボックスを選択してドキュメントのパスワードを設定し、**パスワード**のテキストボックスにパスワードを入力します。
    - **権限および/またはパスワードを変更するにはパスワードが必要** ボックスを選択して、印刷ドキュメントの権限設定やパスワードを変更するためのパスワードを設定し、**パスワード**のテキストボックスにパスワードを入力します。
    - **暗号化レベル** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、印刷ドキュメントの暗号化レベルを決定します。
- **ドキュメントの権限** チェックボックスをオンにして、必要に応じてアクセス権を設定します。

- **ドキュメントにデジタル署名する** ボックスを選択して、印刷ドキュメントに電子署名を追加します。**設定**をクリックして、デジタル署名の設定を決定します。**デジタル署名**のダイアログボックスが開きます**(図 4.)**。
- **タイムスタンプサーバーを使用** ボックスを選択して、デジタル署名にタイムスタンプ検証を含めます。**管理**をクリックして、タイムスタンプサーバーを追加/表示/編集します。**タイムスタンプサーバー一覧**のダイアログボックスが開きます。

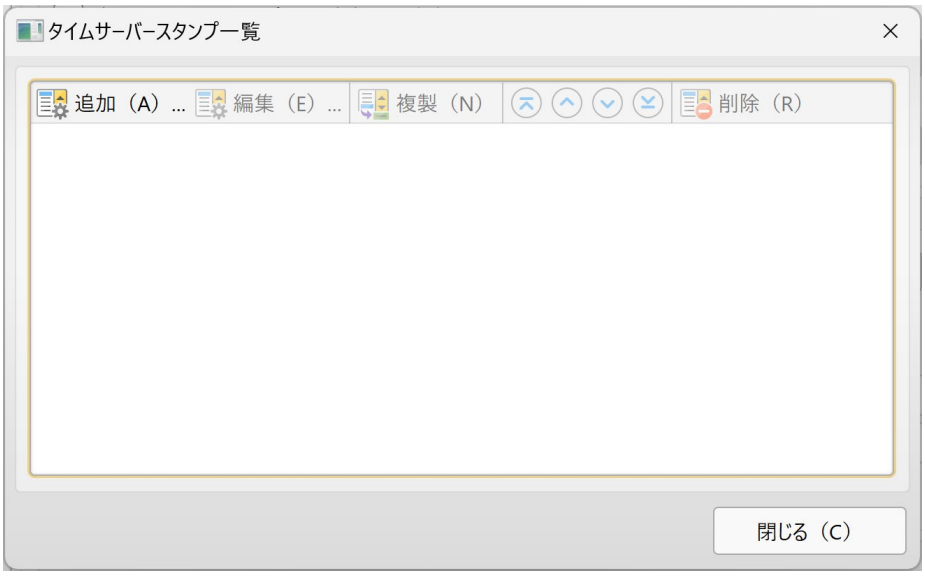


**図 2.** [タイムスタンプサーバー一覧] ダイアログボックス

追加されたタイムスタンプサーバーについては、ダイアログボックスで詳しく説明されます。クリックしてタイムスタンプサーバーを選択します。**追加/編集**をクリックして、タイムスタンプサーバーを追加/編集します。**タイムスタンプサーバー**のダイアログボックスが開きます。

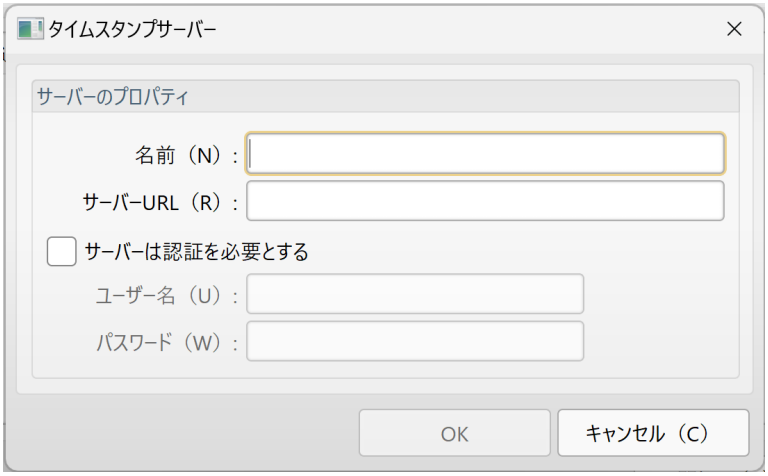


**図 3.** [タイムスタンプサーバー] ダイアログボックス

- **名前** テキストボックスを使用して、タイムスタンプサーバーの名前を追加/編集します。
- **サーバーURL** テキストボックスを使用して、タイムスタンプサーバーの URL を追加/編集します。
- **サーバーは認証を必要とする** タイムスタンプサーバーにログインする必要がある場合は、ボックスを選択し、**ユーザー名**および**パスワード**のテキストボックスにログインの詳細を入力します。

**OK** をクリックして、タイムスタンプサーバーを保存します。

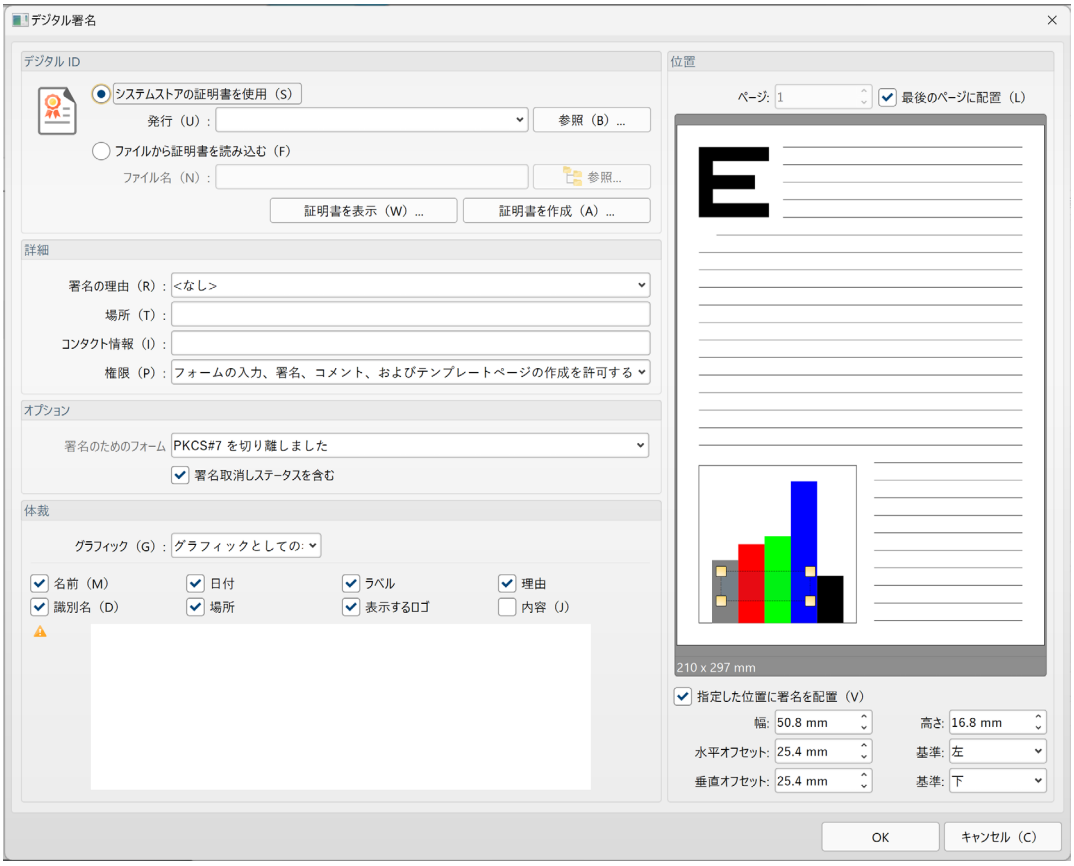


**図 4.** [デジタル署名] ダイアログボックス

- **システムストアの証明書を使用** システムストアの証明書を使用するには、このオプションを選択します。ドロップダウンメニューをクリックして証明書を選択するか、**参照**をクリックして手動で選択します。
- **ファイルからの証明書を読み込む** オプションを選択して、ローカルコンピューターに保存された証明書を使用します。**ファイル名**のテキストボックスに証

明書のファイル名を入力するか、**参照**をクリックして証明書を手動で選択します。

- **証明書を表示** 選択した証明書を表示します。
- **証明書を作成** 新しい証明書を作成します**(図 5.)**。

- **詳細** オプションを使用して、デジタル署名の詳細を編集します。
  - 署名の理由 ドロップダウンメニューでオプションを選択して、ドキュメントに署名する理由を追加します。
  - **場所**と**コンタクト情報** テキストボックスを使用して、必要に応じて場所や連絡先情報を追加します。
  - **権限** ドロップダウンメニューでオプションを選択し、必要に応じて印刷ドキュメントの権限を決定します。
  - **署名のためのフォーム** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、印刷時に使用する署名形式を決定します。
  - **署名取り消しステータスを含む** 必要に応じて、このダイアログボックスをオンまたはオフにします。
- **体裁** オプションを使用して、デジタル署名の体裁について決定します。チェックボックスをオンにして、必要に応じてデジタル署名とともに表示される詳細を決定します。
  - **グラフィック** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、デジタル署名のグラフィック要素を決定します。
    - **グラフィックなし** デジタル署名のグラフィック要素が省略されます。
    - **ファイルからの画像** ファイルを手動で選択し、テキストボックスの右側にある[…]アイコンをクリックして画像を選択します。
    - **グラフィックとしての名前** 署名者の名前をデジタル署名のグラフィックとして使用します。
- **位置** デジタル署名のサイズと場所を決定します。
  - **ページ** 数値ボックスを使用して、電子署名を配置するページを指定するか、**最後のページに配置**を選択して、印刷ドキュメントの最後のページに署名を配置します。
  - **指定した位置に署名を配置** ボックスを選択して表示可能な署名を追加し、数値ボックスを使用して印刷ドキュメント内の署名の位置を指定します。あるいは、画像プレビュー内の境界ボックスをクリックしてドラッグし、デジタル署名を手動で配置します。黄色のコントロールポイントをクリックしてドラッグし、デジタル署名フィールドの寸法を変更します。

## 証明書の作成

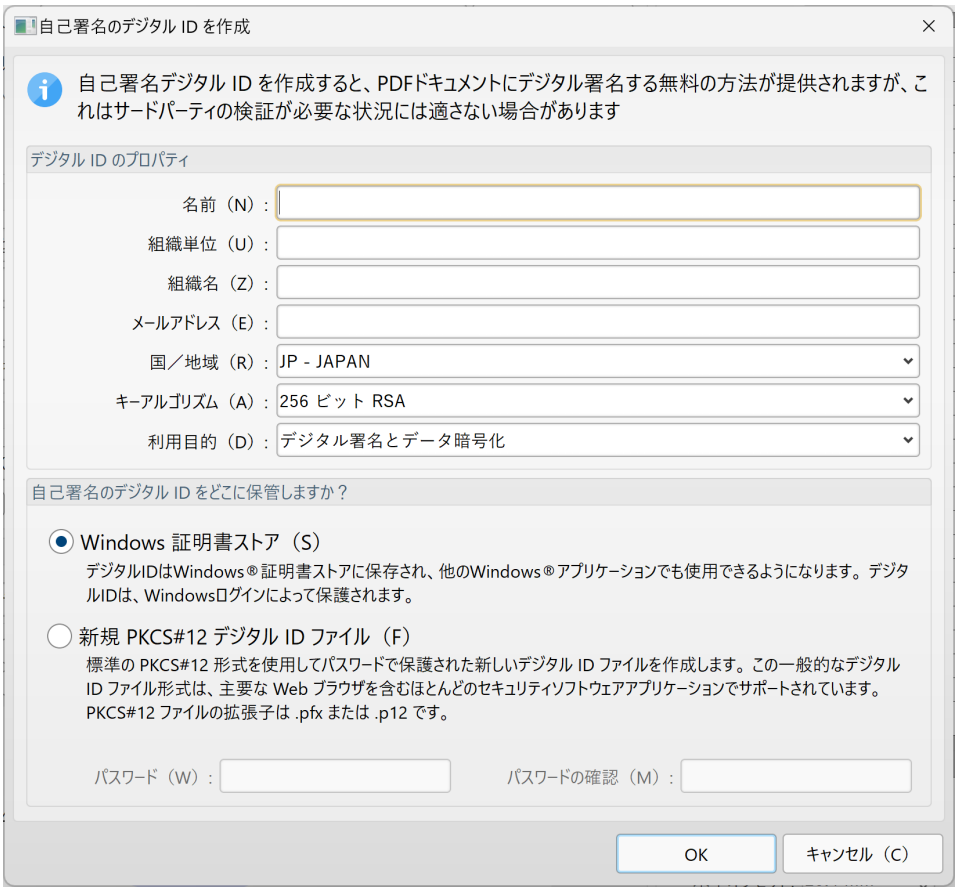


**図 5.** [自己署名のデジタル ID を作成] ダイアログボックス

- 新しいデジタル ID の詳細を**名前**、**組織単位**、**組織名**、および**メールアドレス**のテキストボックスに入力します。
- **国/地域** ドロップダウン メニューから目的の国を選択します。
- **キーアルゴリズム** ドロップダウンメニューでキーアルゴリズムを選択します。
- **利用目的** ドロップダウンメニューでオプションを選択し、デジタル ID の使用方法を決定します。
- デジタル ID の保存場所として **Windows 証明書ストア**または**新規 PKCS#12 デジタル ID ファイル**を選択します。**新規 PKCS#12 デジタル ID ファイル**のオプションを使用する場合は、テキストボックスにデジタル ID のパスワードを入力して確認します。

**OK** をクリックして、新しいデジタル ID を保存します。

# 4-10. リンク

**リンク**の設定は、印刷ドキュメント内の URL のパラメータを決定するために使用されます。

**図 1.** [リンク]ダイアログボックス

- **印字したテキスト内の URL を解析** ボックスを選択して、印刷ドキュメント内のリンク検出を有効にします。
    - **ファイル名を検出して PDF リンクに変換する** ボックスを選択し、印刷ドキュメント内でファイル名が PDF リンクに変換されます。リンクされたファイルは、ローカルコンピューター上に配置されている必要があることにご注意ください。
    - **ファイルが存在することを確認する** ボックスを選択し、リンクの作成時にリンクされたファイルが存在することを確認します。
- **リンクのオプション** 必要に応じて境界線の種類、色、スタイル、幅を決定します。
    - **線の種類**、**線の色**、**線のスタイル**、および**線の太さ**、それぞれのボックスを使用して、リンクについてのパラメータを決定します。
- **デフォルト** リンクをデフォルト設定に戻します。

**OK** をクリックして変更を保存します。

# 4-11. ブックマーク

**ブックマーク**の設定は、印刷ドキュメント内のブックマークのパラメータを決定するために使用されます。

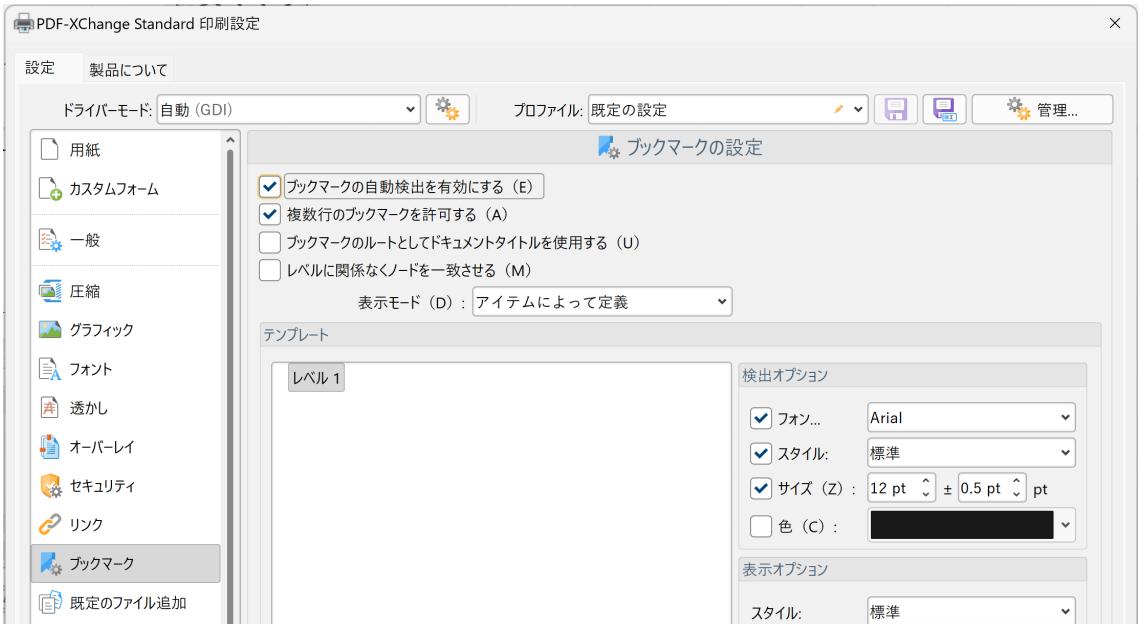


**図 1.** [ブックマーク] ダイアログボックス

- **ブックマークの自動検出を有効にする** ボックス選択で、**PDF-XChange Standard** においての印刷ドキュメント内のブックマークを自動的に検出するようにします。
- **複数行ブックマークを許可する** ボックスを選択すると、ブックマークのタイトルの長さを 1 行を超えるものにすることができます。ブックマークのタイトルを短くできない場合に便利な機能です。
- **ブックマークのルートとしてドキュメントタイトルを使用する** ボックスを選択すると、ドキュメントのタイトルがブックマーク・ツリーのルートとして使用されます。
- **レベルに関係なくノードを一致させる** ボックスを選択すると、ブックマーク・ツリー内の位置に関係なくブックマークがリンクされます。このボックスをオフにすると、一部のブックマークが認識されない場合があります。

・**表示モード** ドロップダウンメニューを使用して、ブックマーク・レベルの初期表示を決定します。

・**すべて開く** ブックマーク・ツリーのすべてのレベルが展開されます。

・**すべて閉じる** ブックマーク・ツリーのすべてのレベルが折りたたまれます。

・**アイテムによって定義　表示オプション**の設定の**状態**ボックスを参照して、ブックマーク・レベルを展開されているか折りたたまれているかを判定します。

・**ノードレベルで開く** このオプションが選択された際に表示される**レベル**の数値ボックスに入力されているレベルのブックマークが開きます。

・**テンプレート** ウィンドウに現在の設定のブックマーク・ツリーのテンプレートが表示されます。**追加**/**削除**をクリックしてブックマーク・レベルを追加/削除し、**検出オプション**および**表示オプション**を使用して、各レベルのブックマークの検出方法と表示方法を決定します。

・**検出オプション** ドキュメントの印刷時にブックマークに変換するドキュメント・テキストの**フォント**、**スタイル**、**サイズ**、および**色**を決定します。

・表示オプション　印刷ドキュメントのブックマークの**スタイル**と**色**を指定します。**展開している**ボックスを選択すると、ドキュメントの印刷時にブックマーク・レベルが展開されます。

OK をクリックして変更を保存します。

---

# 4-12. 既定のファイル追加

**既定のファイル追加**の設定は、印刷ドキュメントを挿入するために使用されます。

**図 1.** ［既定のファイル追加］ダイアログボックス

- **PDF ファイルを出力の先頭に追加する** ボックスを選択して、印刷ドキュメントの先頭に既存のファイルを挿入します。
    - 挿入するファイルの名前を**ファイル**のテキストボックスに入力するか、**参照**をクリックしてファイルを手動で選択します。
    - **パスワード** ファイルがパスワードで保護されている場合は、テキストボックスにパスワードを入力します。
- **PDF ファイルを出力の末尾に追加する** ボックスを選択して、印刷ドキュメントの末尾に既存のファイルを挿入します。
    - 挿入するファイルの名前を**ファイル**のテキストボックスに入力するか、**参照**をクリックしてファイルを手動で選択します。
    - **パスワード** ファイルがパスワードで保護されている場合は、テキストボックスにパスワードを入力します。

**OK** をクリックして変更を保存します。

# 4-13. ヘッダとフッタ

**ヘッダ/フッタ**の設定は、印刷ドキュメントにヘッダとフッタを追加するために使用されます。

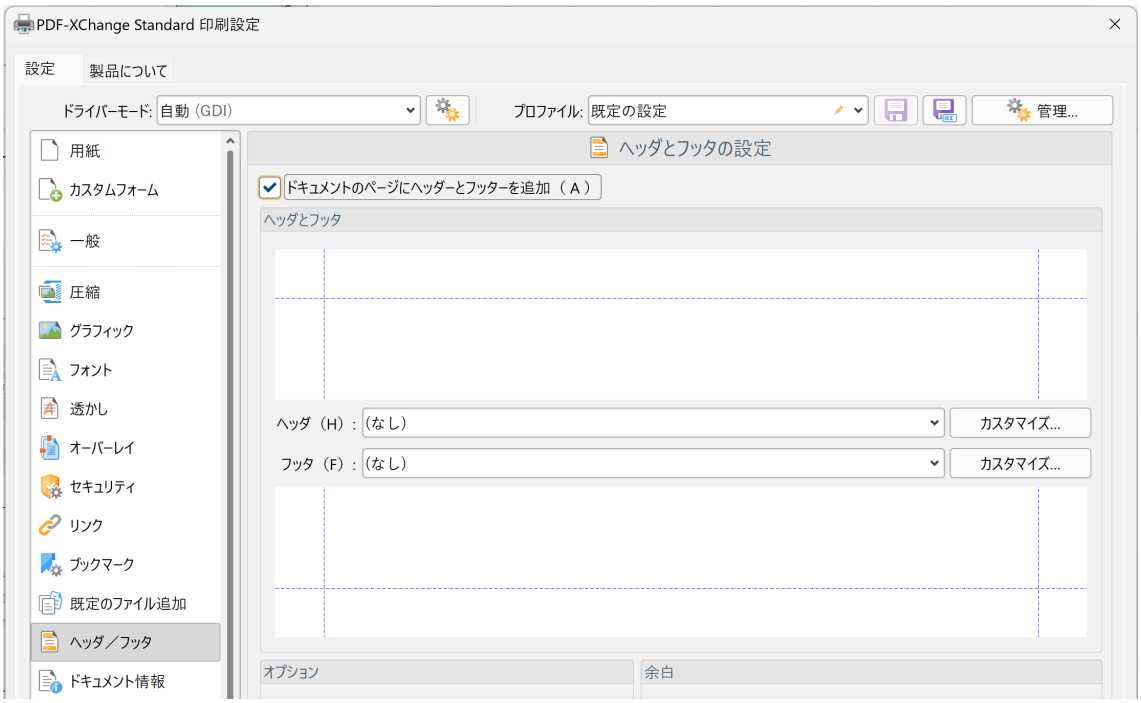


**図 1.** [ヘッダ/フッタ]ダイアログボックス

- **ドキュメントのページにヘッダとフッタを追加** ボックスを選択して、ヘッダとフッタの機能を有効にします。
    - **ヘッダ/フッタ** ドロップダウンメニューを使用して、ドキュメントのヘッダ/フッタの形式を決定します。次の既定の形式を使用できます。
        - **1 ページ** 各ドキュメントページのページ番号を追加します。
        - **?ページ中 1 ページ** ドキュメントページの合計数を「？」として、「？ページ中」の何ページというように、各ドキュメントページにページ番号を追加します。
        - **ドキュメント** 各ドキュメントページにドキュメントのタイトルが追加されます。

- **?ページ中 1 ページ;<現在の日付>;1 ページ** 各ドキュメントページのページ番号を左のヘッダ/フッタとして、現在の日付を中央のヘッダ/フッタとして、ページ番号を右のヘッダ/フッタとして追加します。
- **1 ページ;C:¥My Documents¥Document** ファイルのフルパスの最後のセクションを追加します。
- **<現在のユーザー>;1 ページ;<現在の日付>** 現在のユーザーを左のヘッダ/フッタとして、各ドキュメントページのページ番号を中央のヘッダ/フッタとして、現在の日付を右のヘッダ/フッタとして追加します。
- **<現在のユーザー> <現在の日付>で作成;1 ページ** 「<現在のユーザー><現在の日付>で作成」というテキストが中央のヘッダ/フッタとして、各ドキュメントページのページ番号が右側のヘッダ/フッタとして追加されます。

- **カスタマイズ** ヘッダ/フッタのフォントスタイルを編集したり、**マクロ**を追加したりします。**カスタマイズ**のダイアログボックスが開きます(図 2)。

- **最初のページ番号** ドロップダウンメニューを使用して、印刷ドキュメントのヘッダやフッタを含む最初のドキュメントページを決定します。
- **余白** 数値ボックスを使用して、ヘッダとフッタに使用する余白を決定します。プレビューペインの余白は加えられた変更が反映された状態で更新されます。

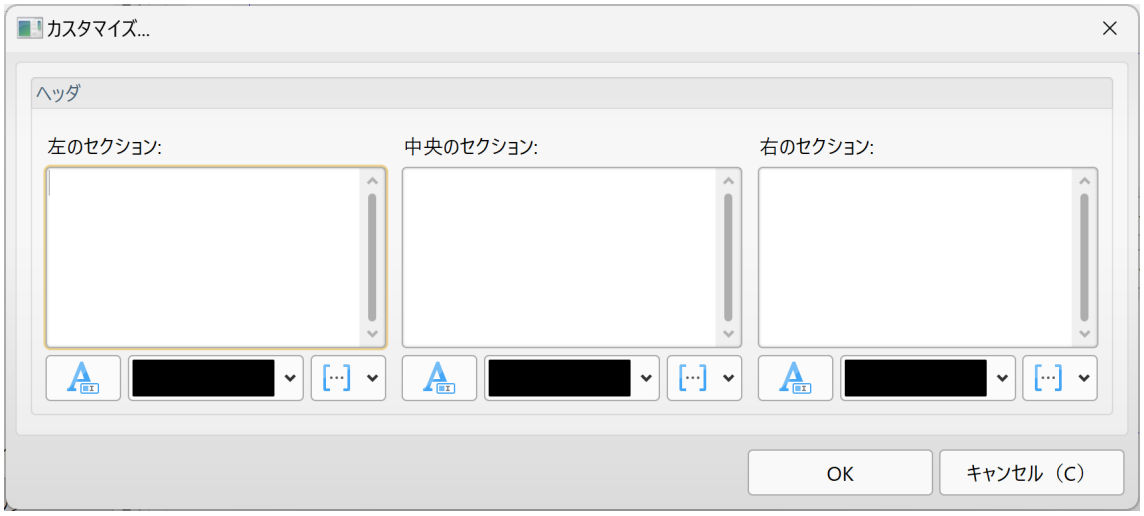


**図 2.** [カスタマイズ]ダイアログボックス

- **左のセクション**、**中央のセクション**、および**右のセクション**のペインにテキストを入力して、左、中央、および右のヘッダ/フッタとして使用するテキストを決定します。
- アイコンをクリックして、フォントのパラメータを編集します。
- 色のドロップダウンメニューを使用して、フォントの色を編集します。

- アイコンのドロップダウンメニューをクリックして、ヘッダ/フッタに**マクロ**を追加します。

**OK** をクリックして変更を保存します。

---

# 4-14. ドキュメント情報

ドキュメント情報の設定は、印刷ドキュメントの PDF 情報を決定するために使用されます。

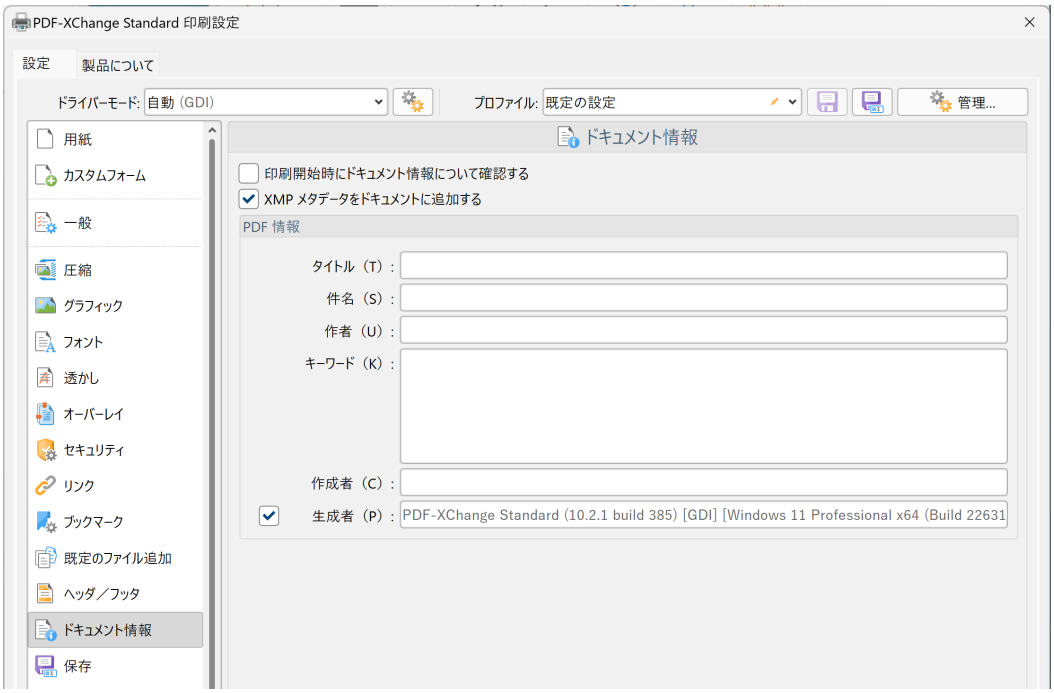


**図 1.** [ドキュメント情報]ダイアログボックス

- **印刷開始時にドキュメント情報について確認する** ボックスを選択して、ドキュメントの印刷時にドキュメント情報を入力します。
- **XMP メタデータをドキュメントに追加する** ボックスを選択して、ドキュメントに（XMP）情報を追加します。
- **PDF 情報** 必要に応じて、テキストボックスにデータを入力します。
    - **生成** ボックスを選択すると、PDF 生成情報をドキュメントの情報に追加し、ボックスをオフにすると、PDF 生成情報をドキュメントから除外します。

**OK** をクリックして変更を保存します。

# 4-15. 保存

**保存**の設定は、PDF-XChange Standard において印刷ドキュメントに名前を付けて保存する方法を決定するために使用されます。

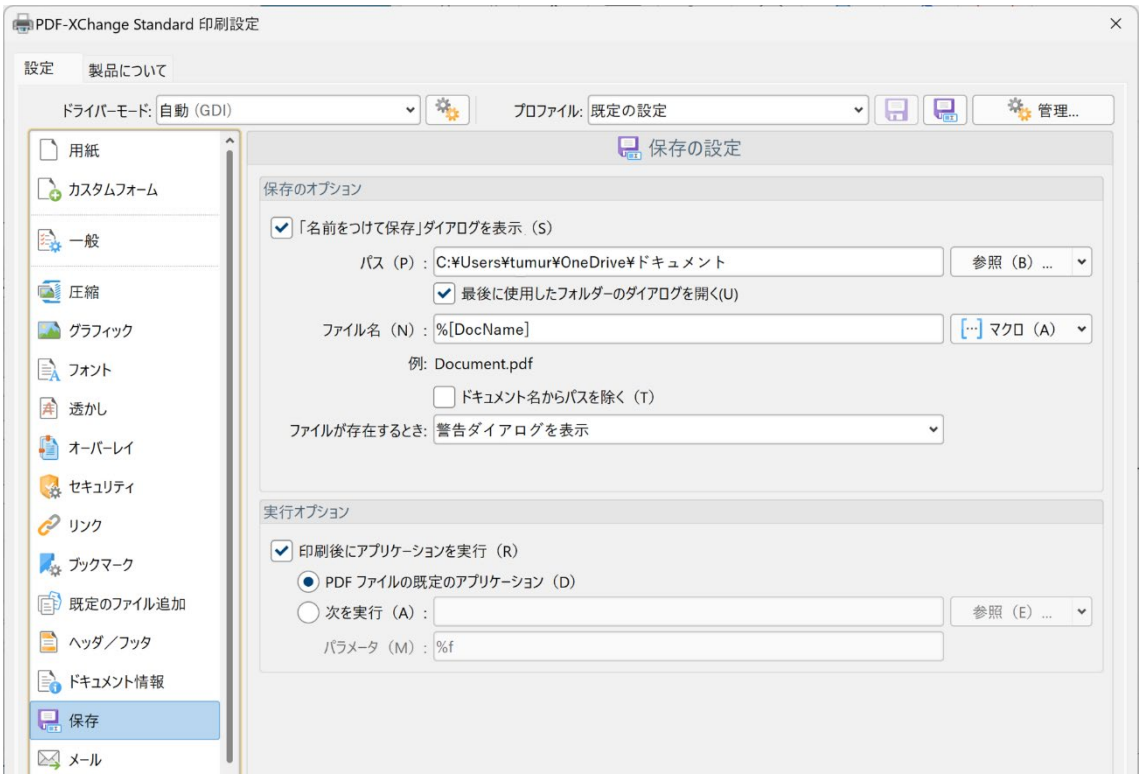


**図 1.** [保存]ダイアログボックス

- **「名前を付けて保存」ダイアログを表示** ボックスを選択すると、印刷ドキュメントの**名前を付けて保存**のダイアログが起動し、保存されるファイルの名前と場所を指定することができます。あるいは、ドキュメントのパスとファイル名を**パス**のテキストボックスと**ファイル名**のテキストボックスに入力します。
    - **参照** 保存場所を手動で選択するか、ドロップダウンの矢印を使用して**デスクトップ**や**マイドキュメント**などの標準とする保存場所を選択します。
    - **マクロ** ファイル名にマクロを追加します。マクロは、入力データから出力データへのフローを改善する動的な方法です。テキストボックス下の例が更新され、マクロ

が**ファイル名**テキストボックスに追加されると、出力ファイル名が表示されます　。PDF-XChange Standard のマクロの詳細については、**こちら**を参照してください。

- **ドキュメント名からパスを除く**　必要に応じてボックスを選択します。
- **ファイルが存在するとき**　オプションを選択し、ファイル名が既に使用されている場合に実行するアクションを決定します。
  - **警告ダイアログの表示**　警告が表示され、ユーザーにアクションを求めるプロンプトが表示されます。
  - **常に上書き**　新しいファイルが既存のファイルに上書き保存されます。
  - **自動採番**　同じファイル名に番号が付加されます。
  - **既存と(マージ)結合（末尾に追加）**　新しいファイルを既存のファイルに追加します。
  - **既存と(マージ)結合（先頭に挿入）**　新しいファイルを既存のファイルの先頭に追加します。
  - **新しいファイルの名前をたずねる**　ユーザーに新しいファイル名の入力を求めます。

- **印刷後にアプリケーションを実行**　ボックスを選択すると、印刷後すぐにドキュメントが表示されます。
  - **PDF ファイルの既定のアプリケーション**　印刷ドキュメントがローカルのコンピューターの既定の PDF ビューアに表示されます。
  - **その他のアプリケーション(次を実行)**　印刷ドキュメントをローカルのコンピューターの既定の PDF ビューアの以外のアプリケーションで表示できます。**その他のアプリケーション**のテキストボックスにアプリケーションの名前を入力するか、**参照**をクリックしてアプリケーションを手動で選択します。
  - **パラメータ**　テキストボックスを使用して、必要に応じてアプリケーション固有の印刷パラメータを入力します。

OK をクリックして変更を保存します。

---

# 4-16. メール

**メール**の設定は、印刷ドキュメントを電子メールで送信するために使用されます。

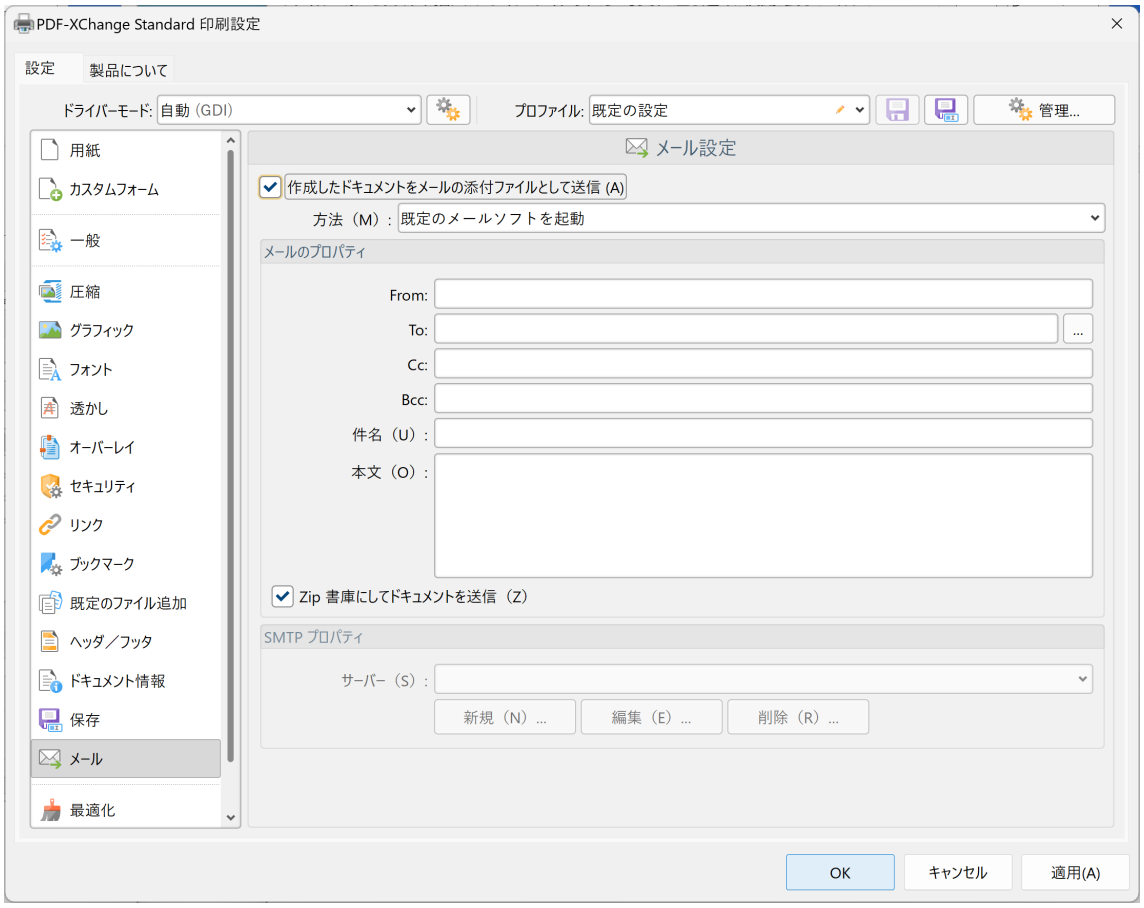


**図 1.** [メール] ダイアログボックス

- **作成したドキュメントをメールの添付ファイルとして送信** ボックスを選択すると、印刷ドキュメントが自動的に電子メールで送信されます。
- **方法** ドロップダウンメニューを使用して、ドキュメントの電子メール送信方法を決定します。
    - **既定メールソフトを起動** ドキュメントの印刷時にローカルのコンピューターの既定の電子メールクライアントが起動するので、電子メールを手動で送信します。**電子**

**メールのプロパティ**のテキストボックスに入力した値は、電子メールのデフォルト値として使用されます。

- **既定メールソフトで送信**　印刷ドキュメントがローカルコンピューターのデフォルトの電子メールクライアントで送信されます。このオプションを使用すると、ドキュメントは自動でメール送信され、電子メールのプロパティを編集するオプションは使用できません。
- **直接 SMTP サーバーに送信**　**SMTP プロパティ**のセクションの**サーバー**のテキストボックスで指定したサーバーを使用して、印刷ドキュメントを電子メールで送信します。**新規**、**編集**、および**削除**ボタンを使用して、サーバーを作成/編集/削除します。

- **メールのプロパティ**　テキストボックスを使用して、電子メールの送信に使用するパラメータを決定します。
  - **ZIP 圧縮してドキュメントを送信**　ボックスを選択すると、ファイルは（***.zip**）形式で送信されます。

**OK** をクリックして変更を保存します。

# 4-17. 最適化

**最適化**の設定は、印刷ドキュメントを最適化するために使用されます。

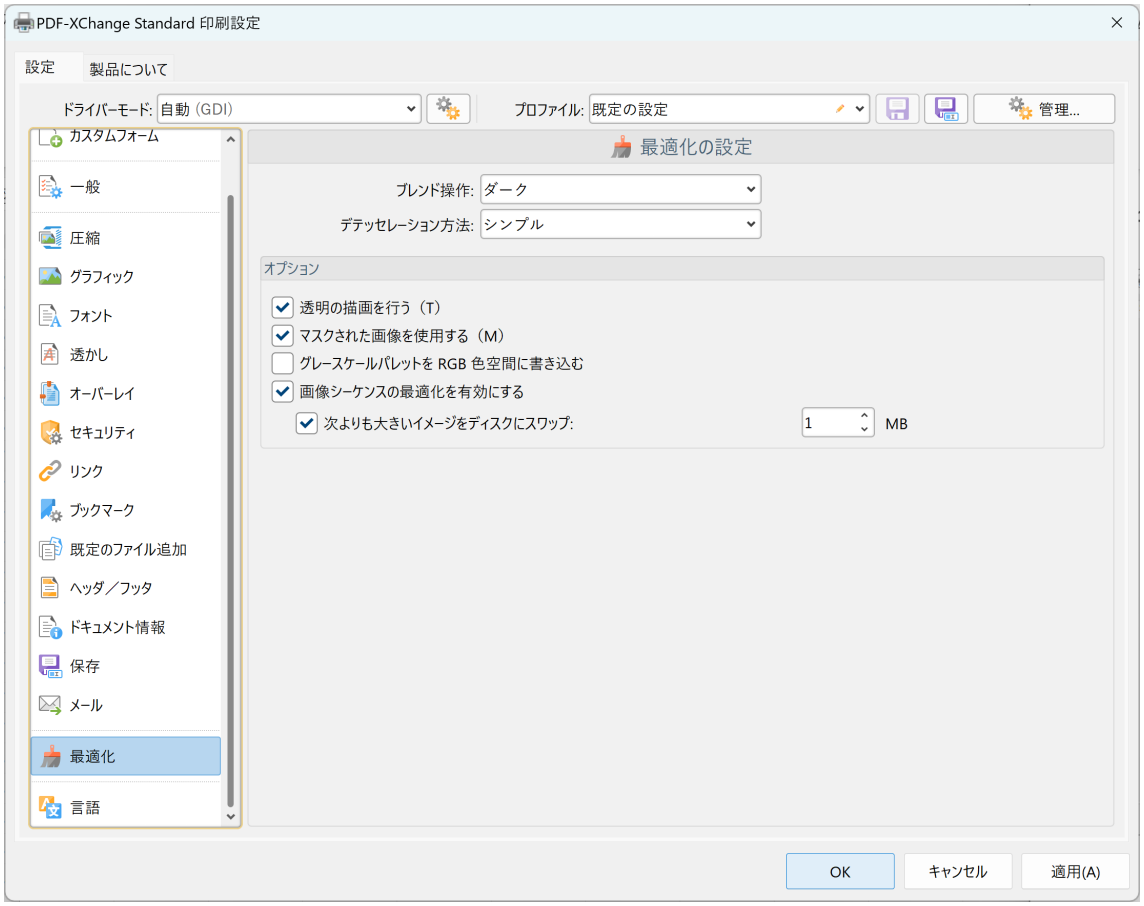


**図 1.** [最適化]ダイアログボックス

- **ブレンド操作** ドロップダウンメニューを使用して、ドキュメントで使用するブレンドモードを決定します。
  - **ノーマル（標準）** 選択した**塗りつぶしの色**が維持されます。
  - **乗算　塗りつぶしの色**の値とその下になるコンテンツの色値を乗算します。結果の色は、少なくともソースの色の 1 つと同じ暗さになります。

- **スクリーン　塗りつぶしの色**の値の補数と下になるコンテンツの色値を乗算し、その結果を補完します。結果の色は、少なくともソースの色の 1 つと同じくらい明るくなります。
- **オーバーレイ**　下になるコンテンツの色値に応じて、**塗りつぶしの色**の値をそれと乗算またはスクリーン化します。**塗りつぶしの色**は、ハイライトとシャドウを維持しながら、下のコンテンツをオーバーレイします。下になるコンテンツの色は、その色合いを反映するために塗りつぶしの色とブレンドされます。
- **比較（暗）**　塗りつぶしの色の値と下にあるコンテンツの色の値のうち、暗い方が選択されます。
- **比較（明）**　塗りつぶしの色の値と下にあるコンテンツの色の値のうち、明るい方が選択されます。
- **覆い焼きカラー**　下にあるコンテンツの色を明るくして、**塗りつぶしの色**を反映します。**塗りつぶしの色**として黒を使用すると、効果がないことに注意してください。
- **焼き込みカラー**　下にあるコンテンツの色を暗くして、**塗りつぶしの色**を反映します。**塗りつぶしの色**として白を使用すると、効果がないことに注意してください。
- **ハードライト　塗りつぶしの色**の値に応じて、**塗りつぶしの色**の値と下になるコンテンツの色値を乗算するか、スクリーン化します。これにより、下の色に強いスポットライトを当てているような効果が得られます。
- **ソフトライト　塗りつぶしの色**の値に応じて色を暗くしたり明るくしたりします。これにより、下の色に拡散したスポットライトを当てているような効果が得られます。
- **差の絶対値**　明るい色から構成色の暗い色を減算します。
- **除外　差の絶対値**のオプションのコントラストの低いバージョンを実行します。

- **テッセレーション解除方法**　ドロップダウンメニューを使用して、複雑なオブジェクトのテッセレーションの解除を有効/無効にし、ファイルのサイズを縮小し、表示速度を最適化します。
  - **透明の描画を行う**　ボックスを選択すると、ドキュメントの印刷後に透明度が復元されます。古いバージョンの Adobe Acrobat Reader を使用する場合は、透明の描画と互換性があるとは限らないため、このボックスはオフにする必要があります。
  - **マスクされた画像を使用する**　ボックスを選択して、イメージング・プロセスを簡素化します。このプロセスにより、場合によってはバグが発生する可能性があることに注意してください。
  - **グレースケールパレットを RGB 色空間（カラースペース）に書き込む**　RGB 色空間にグレースケールパレットを含む際に選択します。これにより、グレースケールパレット/色空間に関連して発生するバグが解決される可能性があります。
  - **画像シーケンスの最適化を有効にする**　ボックスを選択して、**PDF-XChange Standard** で画像シーケンスを最適化できるようにします。

- **次よりも大きいイメージをディスクにスワップ** ボックスを選択して、イメージをディスクにスワップするサイズを指定します。数値ボックスに値を入力します。

AutoCAD および同様のプログラムを使用してドキュメントを印刷するときに、透明化/フラット化に関連して問題が発生した場合は、**ブレンド操作**の設定が**ノーマル**に設定されていることを確認してください。

**OK** をクリックして変更を保存します。

---

# 5. MS Office ツールバー・アドイン

**MS Office ツールバー・アドイン**は **PDF-XChange Standard** と共にインストールされ、**Microsoft Word**、**Excel**、および **PowerPoint** のツールバーに表示されます。つまり、これらのアプリケーションに対して異なる印刷設定を必要に応じて決定でき、異なるアプリケーションからドキュメントを印刷するときに設定をその都度変更する必要がなくなります。**PDF に変換**のオプションを使用して、Microsoft Office アプリケーションからドキュメントを PDF に印刷できます。**PDF-XChange** のタブをクリックして、オプションを表示します。

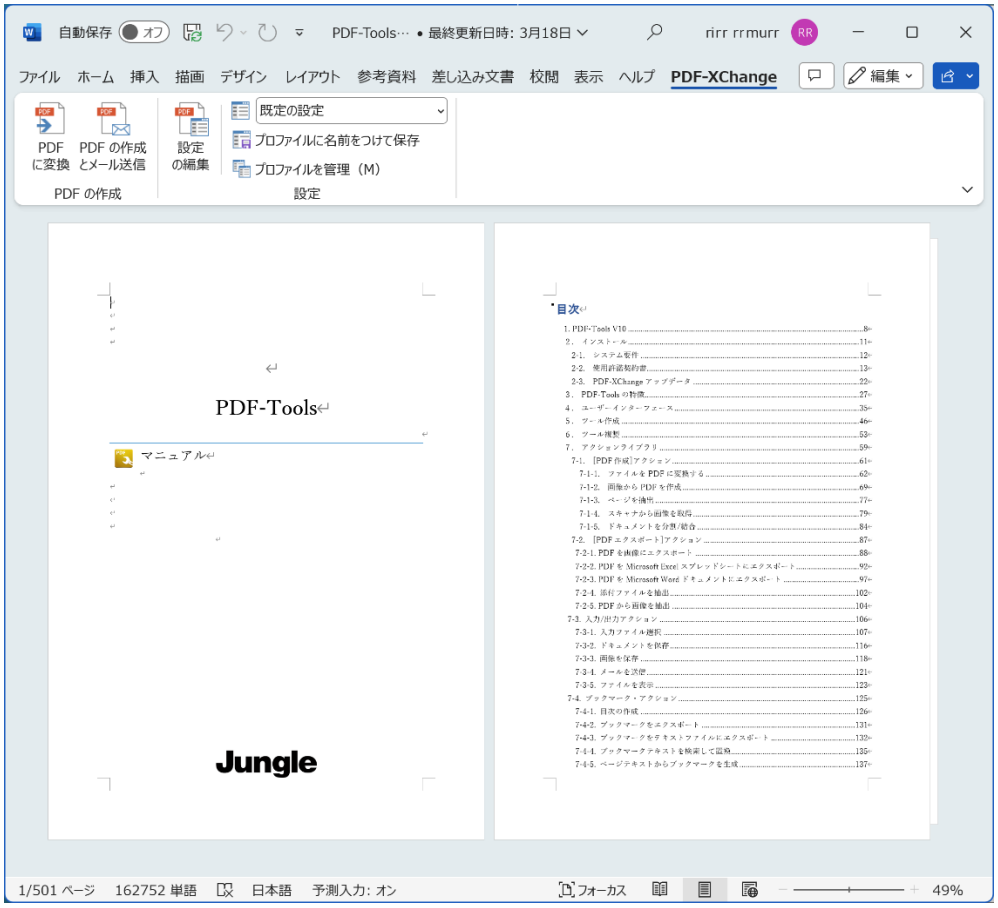


**図 1.** MS Office ツールバー・アドイン、Microsoft Word

- **PDF に変換**　作業中のドキュメントを PDF に変換します。
- **PDF の作成とメール送信**　作業中のドキュメントを PDF に変換し、**メール**設定から電子メールで送信します。
- **設定の編集**　以下で詳しく説明するように、PDF-XChange Standardの設定を表示/編集します。
- ドロップダウンメニューを使用して、ドキュメントの印刷に使用する印刷プロファイルを決定します。
- **プロファイルに名前をつけて保存**　現在の設定を新しいプロファイルに保存します。
- **プロファイルを管理**　既存のプロファイルを管理します。

---

# 5-1. 設定

**設定の編集**をクリックして、使用中の **Microsoft Office** アプリケーションの印刷設定を編集します。**PDF-XChange の設定**のダイアログボックスが開きます。使用可能な設定は、すべての **Microsoft Office** アプリケーションが共有する設定と、アプリケーション固有の設定の 2 つのセクションに分けることができます。設定の変更によって出力が決定されるのは、**MS Office ツールバー・アドイン**にアクセスしたアプリケーションからのドキュメントのみであることに注意してください。また、これらの設定を利用するには、**MS Office ツールバー・アドイン**のコマンドを使用する必要があります。代わりに**ファイル**のメニューから印刷するオプションを選択した場合は、**PDF-XChange** の **Windows** 設定が使用されます。

**・共有設定**

共有設定は、すべての **Microsoft Office** アプリケーションの **Microsoft Office ツールバー**で同じです。

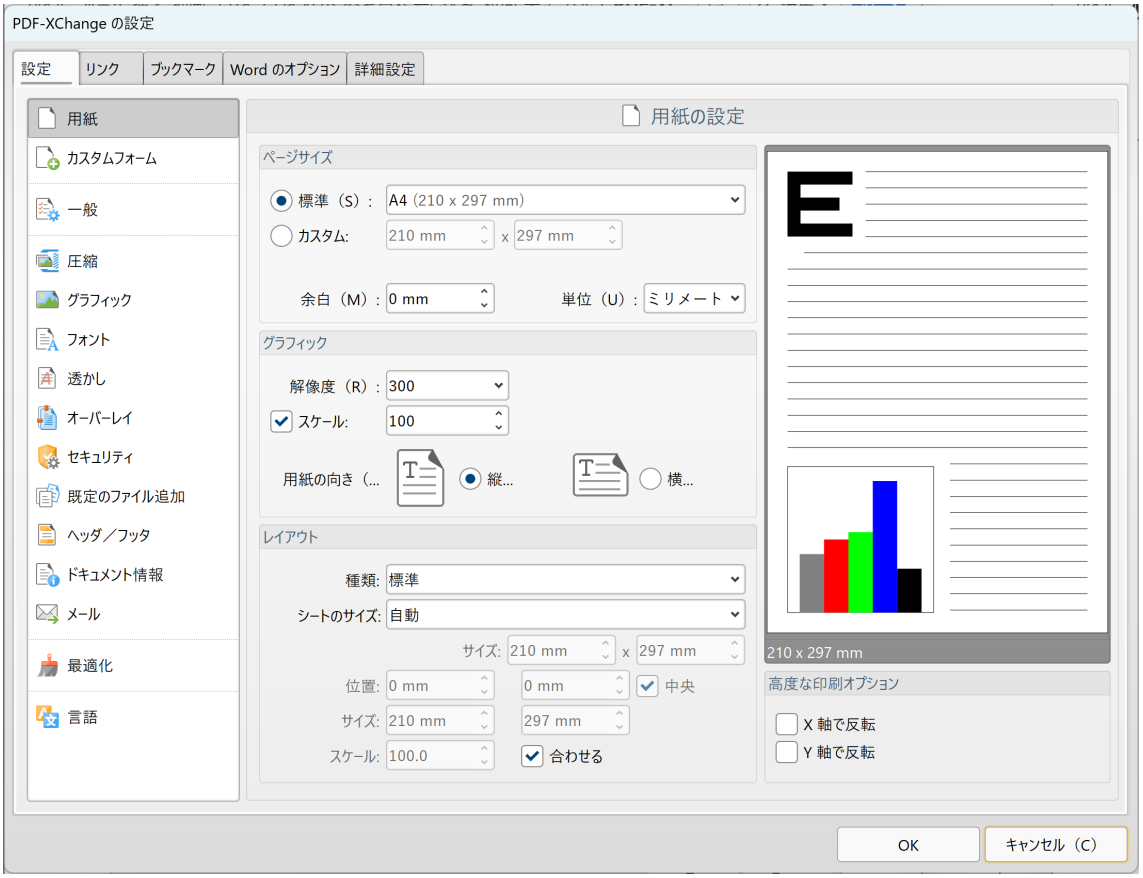


**図 1.** [PDF-XChange の設定]ダイアログボックス、[設定]タブ

これらの設定は、このマニュアルの前のセクションで詳しく説明したように、印刷パラメータを決定するために使用されます。

# 5-2. リンク

**リンク**の設定は、印刷ドキュメント内のリンクのオプションを決定するために使用されます。

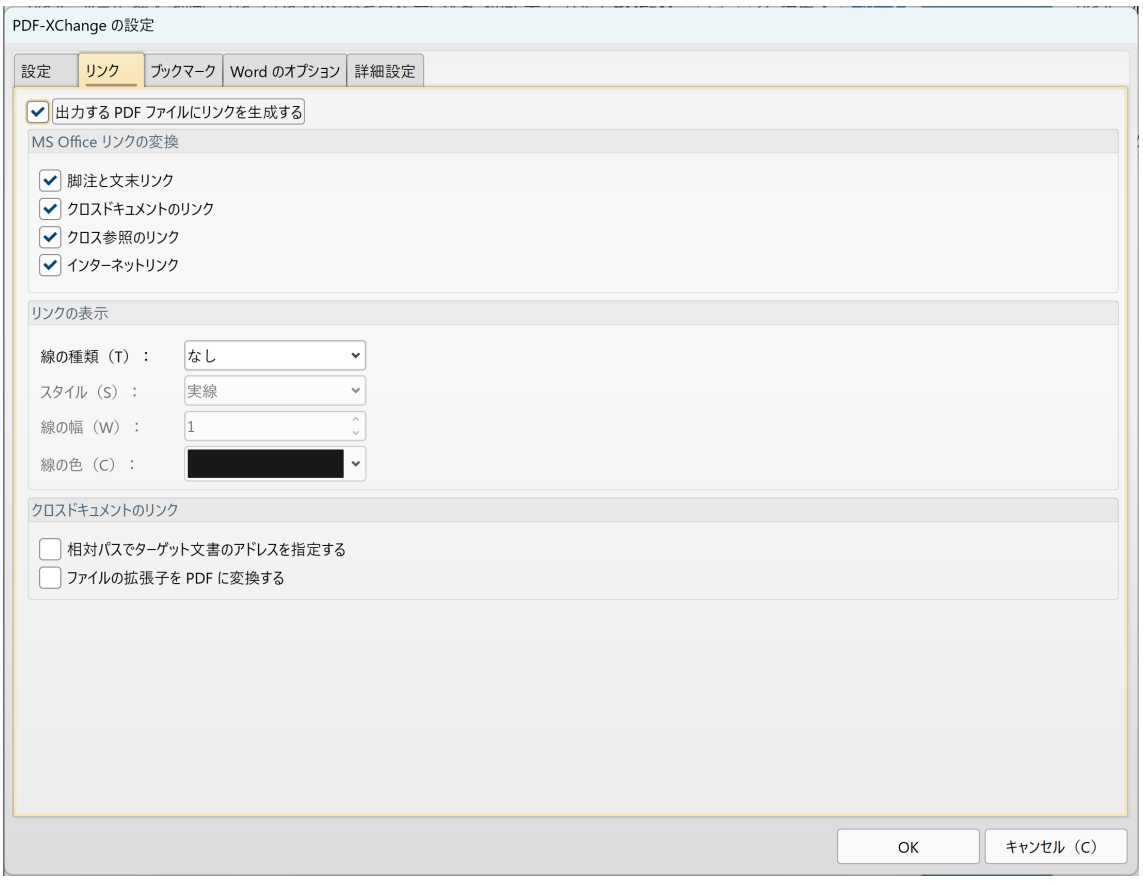


**図 1.** [PDF-XChange の設定]ダイアログボックス、[リンク]タブ

- **出力する PDF ファイルにリンクを生成する** ボックスをオンまたはオフにして、印刷ドキュメント内のリンクを有効または無効にします。
- **MS Office リンクの変換** チェックボックスを使用して、関連するリンク形式のリンク変換を有効/無効にします。

- **リンクの表示** ドロップダウンメニューを使用して、リンクのスタイルオプションを決定します。
    - **相対パス名でターゲット文書のアドレスを指定する** ボックスを選択すると、完全修飾パス名のリンクがアクティブな（使用中の）ドキュメントを基準とした相対パス名に変換されます。 これは、ドキュメントがフォルダー階層で管理されている場合に便利な機能です。
    - **ファイルの拡張子を PDF に変更する** ボックスを選択して、既存のファイル拡張子を **(*.pdf)**に変更します。 これは、使用中のドキュメントが PDF 形式に変換される他のドキュメントを指している場合に便利な機能です。

---

# 5-3. ブックマーク

**ブックマーク**のタブは、**Microsoft Word** の **MS Office ツールバー・アドイン**でも使用できます。

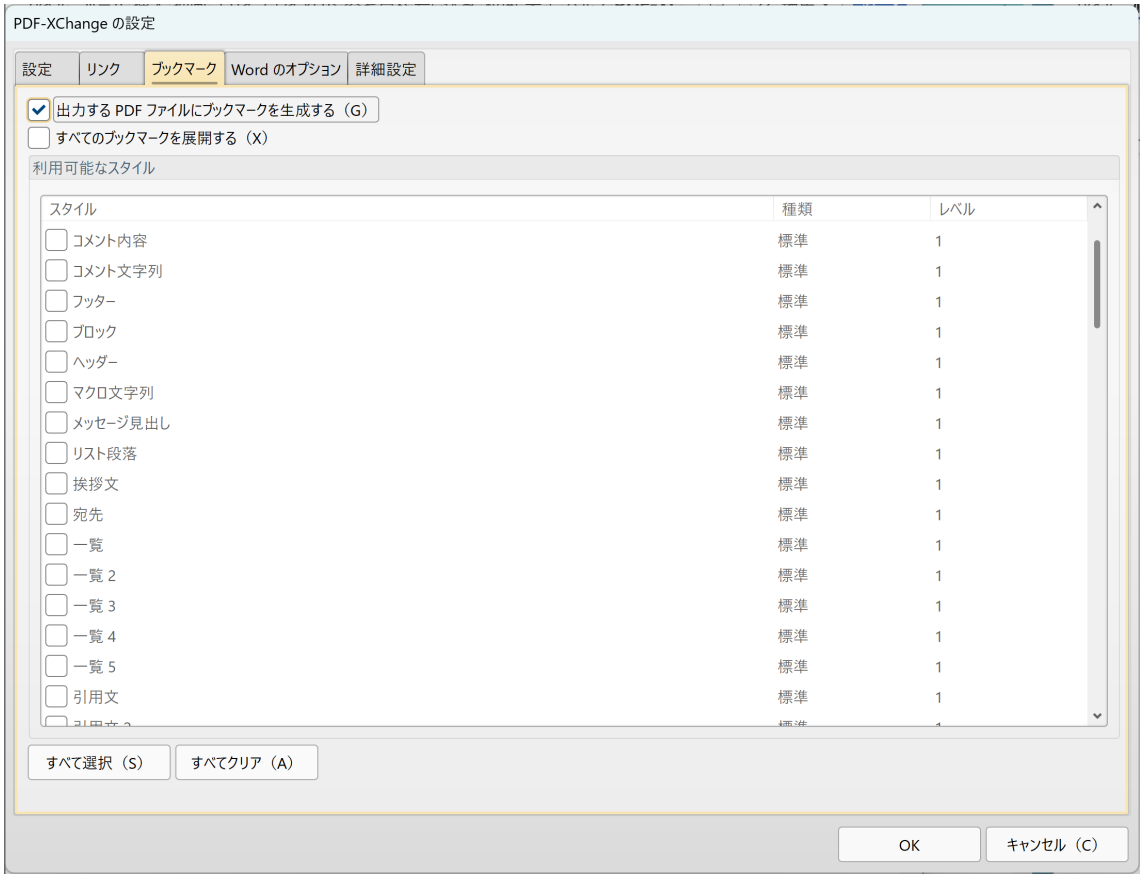


**図 1.** [PDF-XChange の設定]ダイアログボックス、[ブックマーク]タブ

- **出力する PDF ファイルにブックマークを生成する** ボックスを選択して、印刷ファイルにブックマークを生成します。

- **すべてのブックマークを展開する** ボックスを選択すると、印刷ファイル内で作成されたすべてのブックマークが展開されます。
- **利用可能なスタイル** ここで各種スタイルを選択して、ブックマークのスタイルを決定します。

**OK** をクリックして変更を保存します。

# 5-4. Word/Excel/PowerPoint オプション

**Microsoft Word**、**Excel**、**PowerPoint** はそれぞれ、**MS Office ツールバー・アドイン**のアプリケーション固有のタブを備えています。これらの設定により、それぞれのアプリケーションの出力オプションが決まります。

## ・Microsoft Excel のオプション

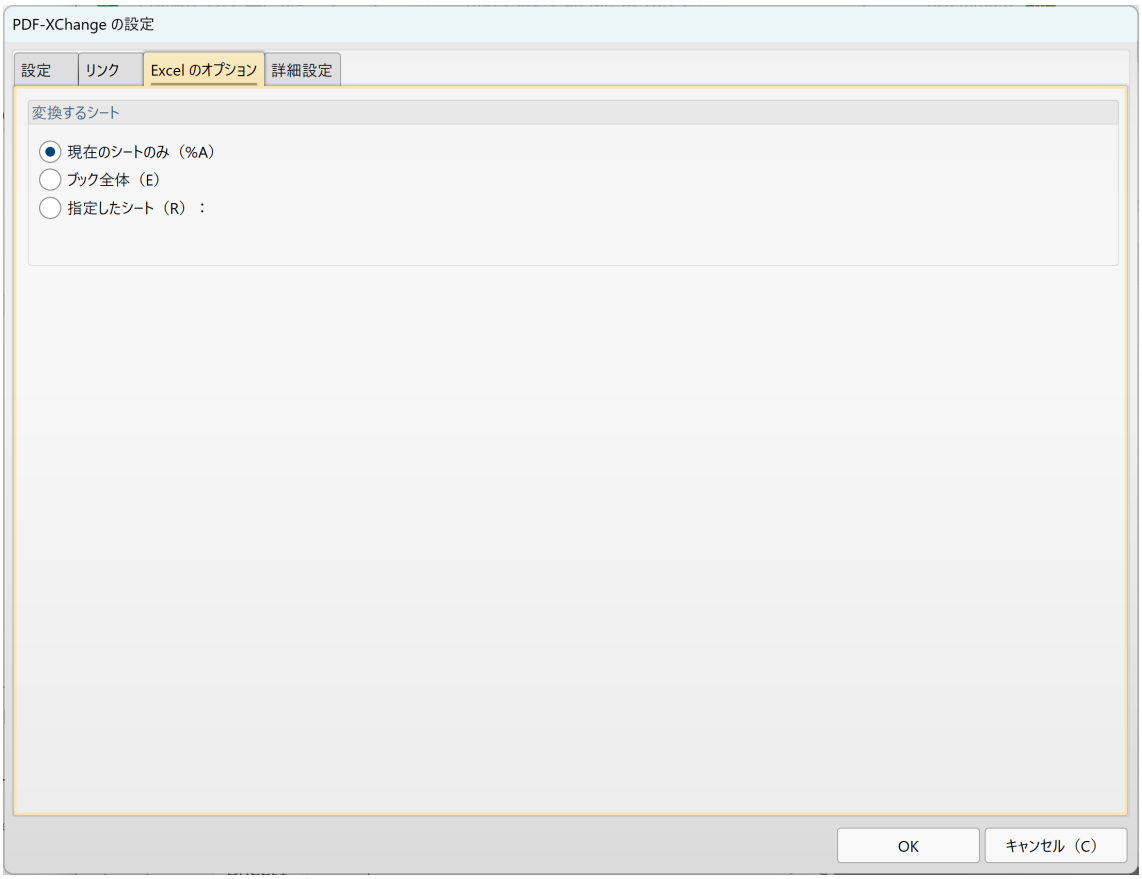


**図 1.** [PDF-XChange の設定]ダイアログボックス、[Excel のオプション]タブ

- **現在のシートのみ** ボックスを選択すると、現在アクティブなシートのみが PDF に変換されます。
- **ブック全体** ボックスを選択して、ブック全体を PDF に変換します。
- **指定したシート** ボックスを選択して、任意の範囲のシートを変換します。このオプションを選択すると、2 つの数値ボックスが開きます。希望の範囲の最初と最後のページを入力します。

### ・Microsoft PowerPoint オプション

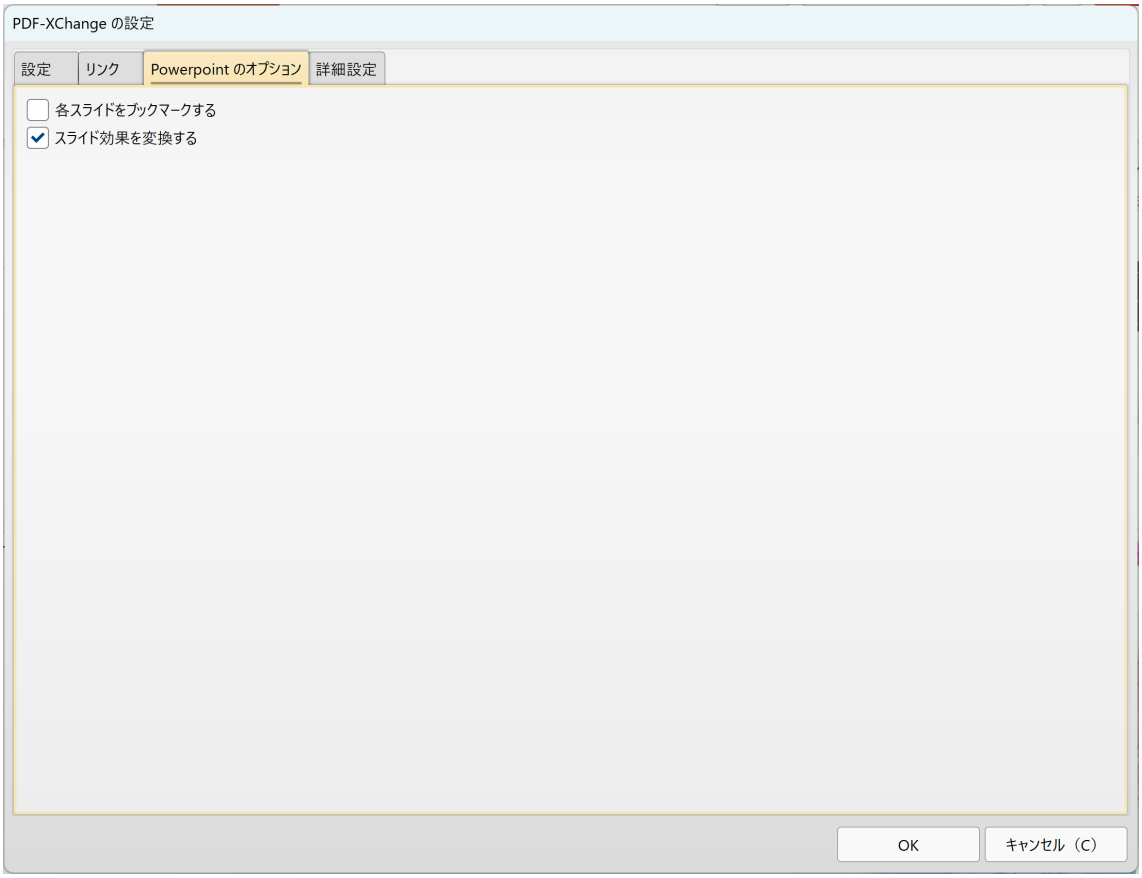


**図 2.** [PDF-XChange の設定]ダイアログボックス、[PowerPoint のオプション]タブ

- **各スライドをブックマークする** ボックスを選択して、プロジェクト内の各スライドからブックマークを作成します。
- **スライド効果を変換する** ボックスを選択して、印刷ファイルのトランジション（遷移）のスライドを変換します。

## ・Microsoft Word のオプション

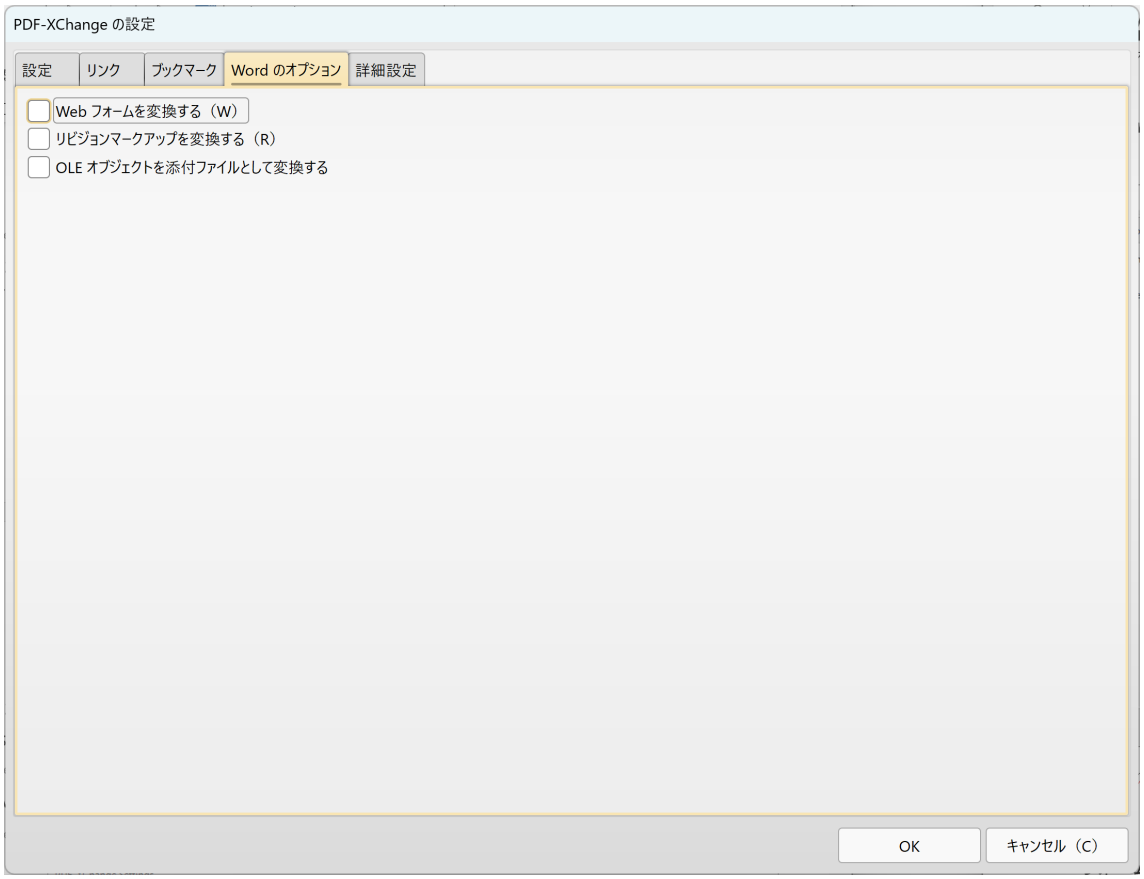


**図 3.** [PDF-XChange の設定]ダイアログボックス、[Word のオプション]タブ

- **Web フォームを変換する** ボックスを選択して、PDF への変換に Web フォームを含めます。
- **リビジョンマークアップを変換する** ボックスを選択して、リビジョンマークアップを PDF への変換に含めます。

# 5-5. 詳細設定

**詳細設定**は、印刷ドキュメントの詳細オプションを決定するために使用されます。

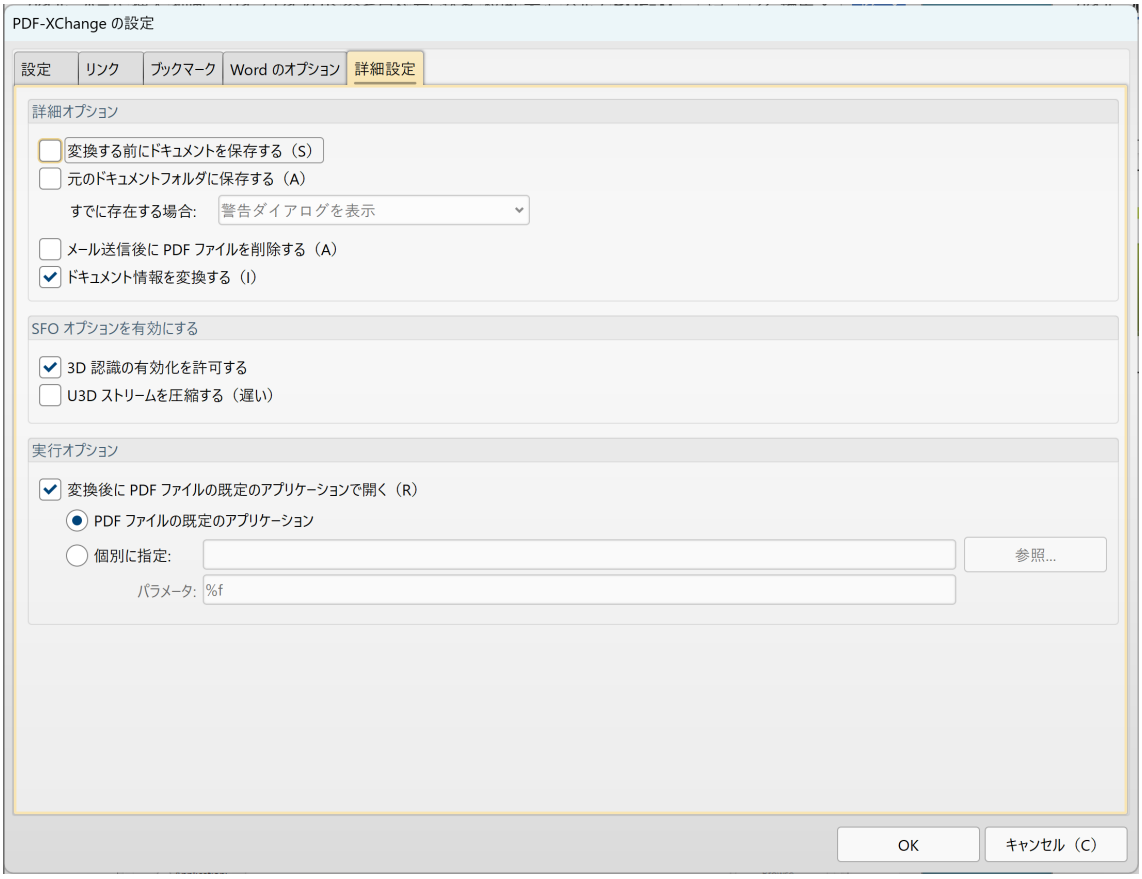


**図 1.** [PDF-XChange の設定]ダイアログボックス、[詳細設定]タブ

- **変換する前にドキュメントを保存** ボックスを選択すると、PDF に変換する前にドキュメントが保存されます。
- **元のドキュメントフォルダーに保存** ボックスを選択すると、変換されたドキュメントがソースのフォルダーに保存されます。

- **すでに存在する場合** ドロップダウンメニューを使用して、ドキュメントフォルダーに新規ドキュメントと同じ名前のドキュメントが既に含まれている場合に実行されるアクションを決定します。

- **メール送信後に PDF ファイルを削除する** ボックスを選択して、印刷および電子メールで送信された PDF ファイルを削除します。
- **ドキュメント情報を変換する** ボックスを選択すると、ソースのファイルのドキュメントのプロパティが印刷ファイルに含められます。
- **Actify 3D 認識を許可する** ボックスを選択すると、**PDF-XChange Standard** で **Actify** ベースの 3D グラフィックを認識してエンコードできるようにします。
- **U3D ストリームを圧縮する(遅い)** ボックスを選択すると、Universal 3D(ユニバーサル3D)ファイルのサイズは小さくなりますが、処理に時間がかかる場合があります。
- **変換後に PDF ファイルの既定のアプリケーションで開く** ボックスを選択して、ファイル変換後にデフォルトの PDF ビューアを起動します。
    - **PDF ファイルの既定のアプリケーション** ボックスを選択すると、変換されたドキュメントがデフォルトの PDF アプリケーションで開きます。
    - **他のアプリ** ボタンを選択して、変換された電子メールを開くためのその他のアプリケーションを指定します。テキストボックスにアプリケーションの名前を入力するか、**参照**をクリックしてアプリケーションを手動で選択します。

---

# 6. MS Outlook アドイン

**PDF-XChange MS Outlook アドイン**は、**PDF-XChange Standard** とともにインストールされ、**Microsoft Outlook** に表示されます。 これにより、電子メールの PDF への即時変換が可能になり、電子メールのアーカイブに使用するときに電子メール クライアントが不要になります。**PDF-XChange** タブは、**Microsoft Outlook** のメインウィンドウで使用できます。

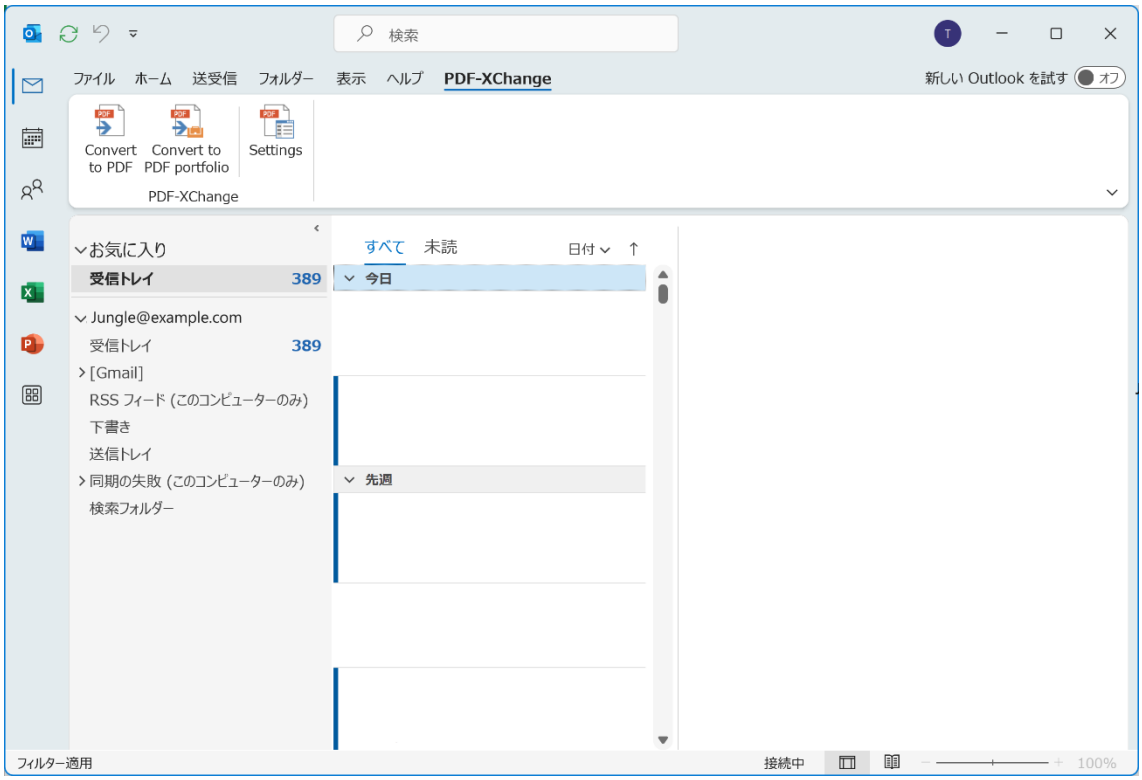


**図 1.** MS Outlook のメインウィンドウ、PDF-XChange タブ

- **PDF に変換** 現在の電子メールを PDF に変換します。
- **PDF ポートフォリオに変換** 現在の電子メールを PDF ポートフォリオ・ファイルに変換します。

- **設定　MS Outlook アドイン**の設定を決定します。**設定**のダイアログボックスが開きます。

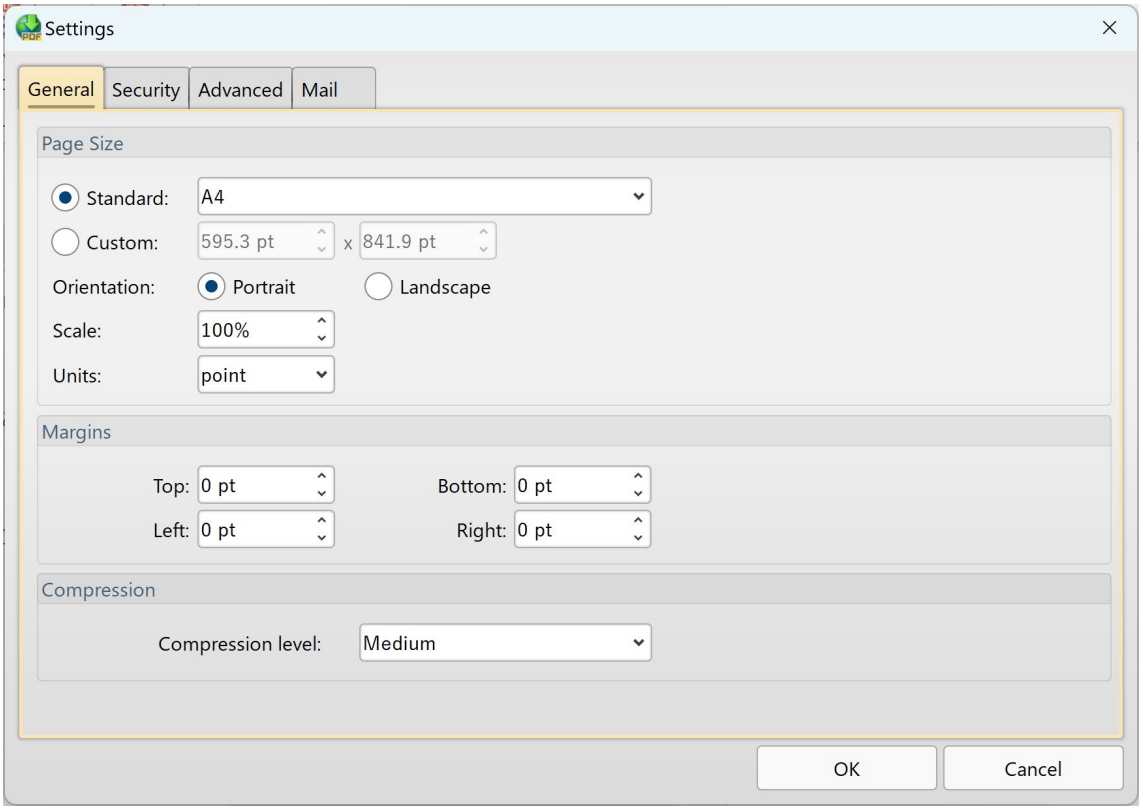


**図 2.** [設定]ダイアログボックス、［一般］タブ

- **ページサイズ　標準規格**のドロップダウンメニューを使用して、変換された電子メールのページサイズを決定します。あるいは、**カスタム**で数値ボックスと単位ドロップダウンメニューを使用して、任意のサイズを決定します。
- **向き**　変換された電子メールの向きとして**縦**または**横**を選択します。
- **余白**　数値ボックスを使用して、変換された電子メールのページ余白のサイズを決定します。

**セキュリティ**のタブをクリックして、セキュリティ設定を決定します。

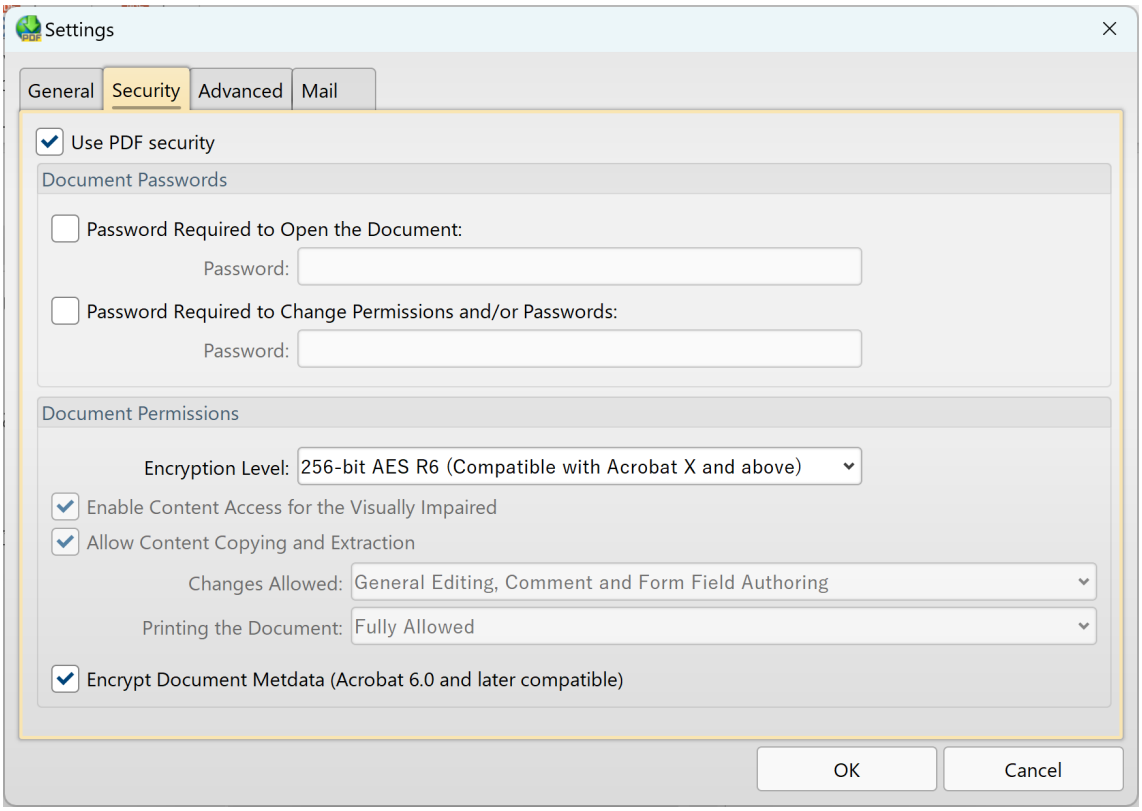


**図 3.** [設定]ダイアログボックス、［セキュリティ］タブ

- **PDF セキュリティを使用**　ボックスを選択して、PDF のセキュリティを有効にします。
- **ドキュメントを開くために必要なパスワード**　ボックスを選択してドキュメントのパスワードを設定し、**パスワード**のテキストボックスにパスワードを入力します。
- **アクセス権やパスワードの変更に必要なパスワード**　ボックスを選択して、ドキュメントのアクセス権やパスワードを変更するためのパスワードを設定し、**パスワード**のテキストボックスにパスワードを入力します。
- **ドキュメントのアクセス権**　ここのオプションを使用して、ドキュメントの暗号化レベルとアクセス権の設定をします。
- **暗号化レベル**　ドロップダウンメニューで希望の暗号化レベルを選択し、必要に応じてチェックボックスをオンにして、追加の設定を決定します。

**詳細設定**のタブをクリックして、電子メールの変換の詳細設定を決定します。

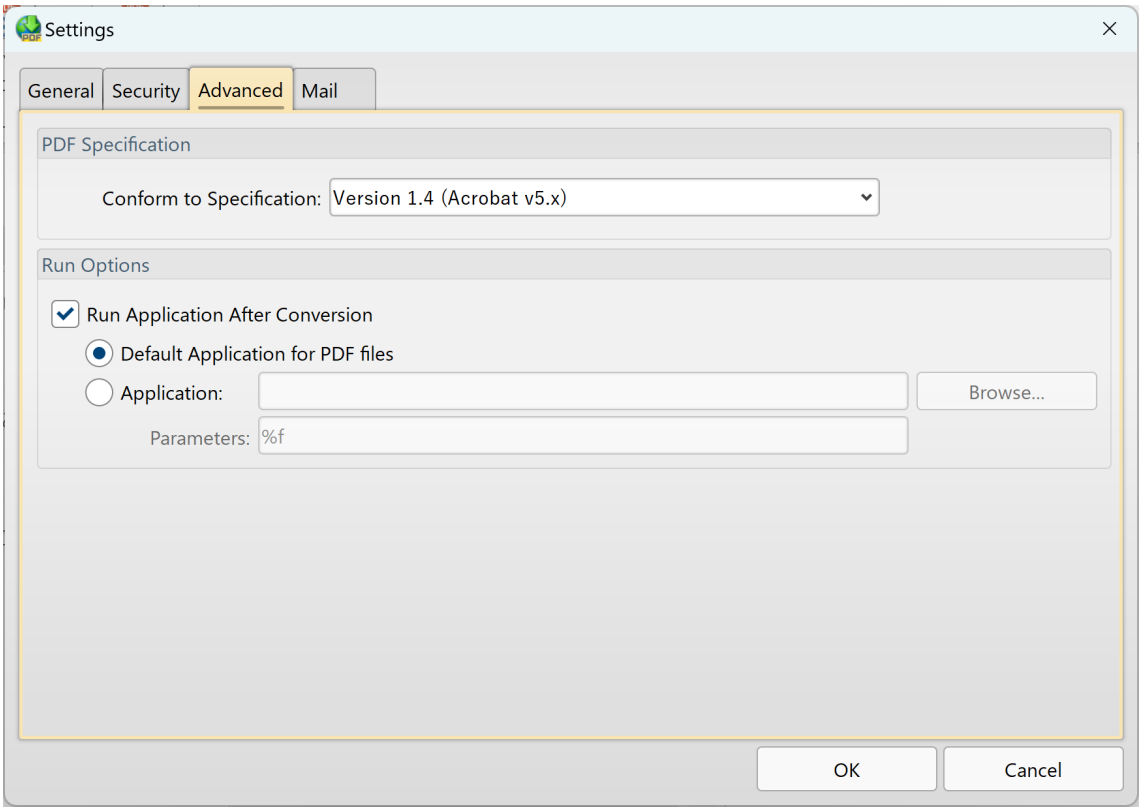


**図 4.** [設定]ダイアログボックス、［詳細設定］タブ

- **仕様に準拠** ドロップダウンメニューを使用して、変換された電子メールの PDF 仕様を決定します。
- **変換後にアプリケーションを実行する** 選択し、電子メールの変換後に PDF ビューアが起動させます。
  - **PDF ファイル用の既定のアプリケーション** ボタンを選択すると、既定の PDF ビューアが起動し、新しいドキュメントが表示されます。
  - **その他アプリケーション** ボタンを選択して、変換された電子メールを開いて表示するその他のアプリケーションを指定します。アプリケーションへのパス(例えば、**PDF-XChange Editor** はデフォルトで **PDFXEdit.exe** のパスを使用します)をテキストボックスに入力するか、**参照**をクリックしてアプリケーションを手動で選択します。
  - **パラメータ** テキストボックスを使用して、**その他アプリケーション**のテキストボックスで指定したアプリケーションの追加の実行パラメータを入力します。

**メール**のタブをクリックして、電子メールの添付ファイルについての設定を決定します。

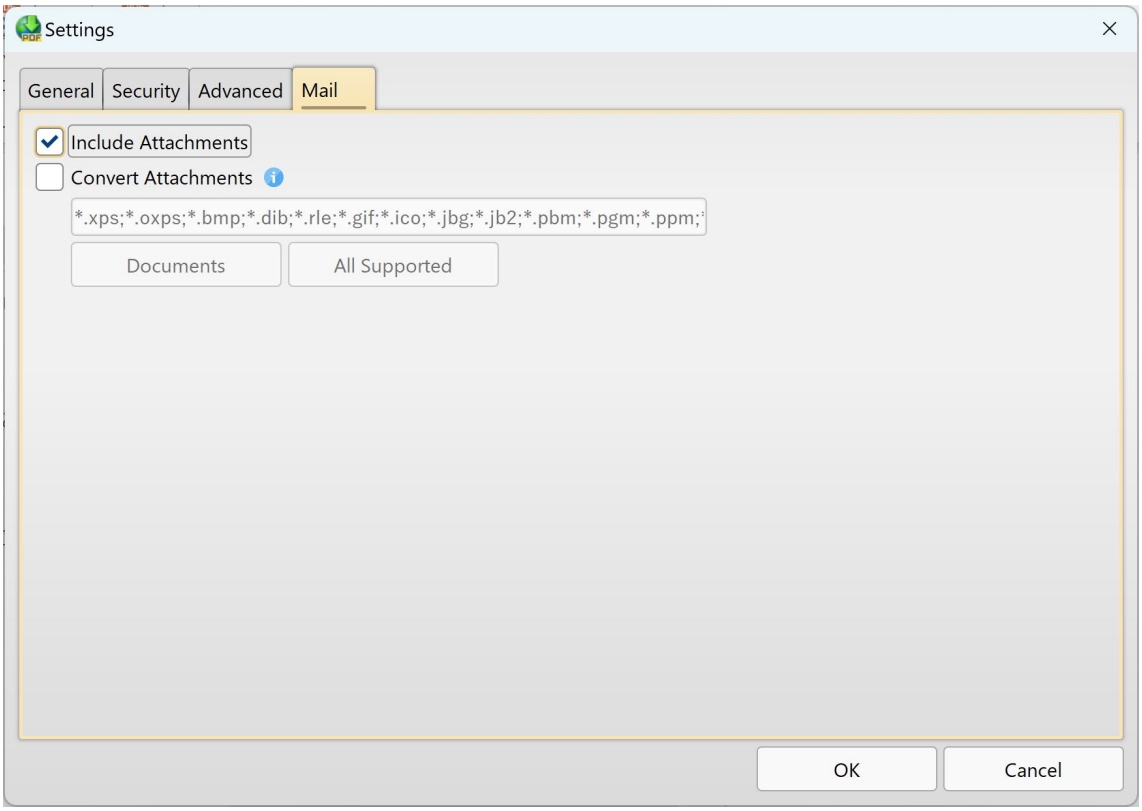


**図 5.** [設定]ダイアログボックス、［メール］タブ

- **添付ファイルを含める** ボックスを選択して、電子メールに添付ファイルを含めます。
- **添付ファイルの変換** ボックスを選択して、電子メールの添付ファイルを変換に含めます。ただし、**添付ファイルの変換**は、**PDF-XChange Editor** がインストールされている場合にのみ使用できます。一部の Office ドキュメントについては **Microsoft Office** もインストールされている必要があります。

**OK** をクリックして変更を保存します。

# 7. Office2PDF

**Office2PDF** は、**Microsoft Word**、**Excel**、および **HTML** ドキュメントの PDF へのバッチ変換を可能とする便利な機能です。**Microsoft Word/Excel** ドキュメントを変換するには、**Microsoft Word/Excel** をローカルのコンピューターにインストールする必要があることに注意してください。

**Windows** の検索ボックスに「office2PDF」と入力し、**PDF-XChange Office2PDF** をクリックし、この機能を起動します。

**Office To PDF** のダイアログボックスが開きます。

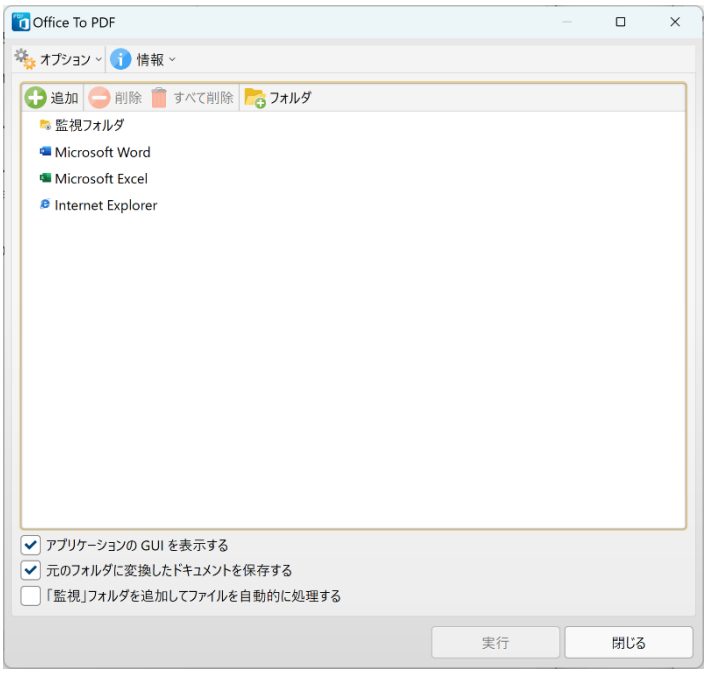


**図 1.** Windows 検索ボックスでの検索結果　　**図 2.** [Office To PDF]ダイアログボックス

- **監視フォルダー** ここのリストには、デフォルトで **Microsoft Word**、**Microsoft Excel**、**Internet Explorer** の 3 つのエントリが含まれています。**Office2PDF** 機能は、これらのアプリケーションからの出力（つまり、**Microsoft Word/Excel**ドキュメントと**(*.html)**ファイル）と互換性があります。ソースとなる元ファイルは、**Office2PDF** のダイアログボックスに追加されると、関連付けられた親アプリケーションの子として表示されます　。
- **追加**、**削除**、**すべて削除** 追加されたすべてのファイルを追加/削除/削除します。
- **フォルダー** **Office2PDF** の機能にフォルダーを追加します。**Office2PDF** 機能と互換性のあるファイルは、リストに記載されているフォルダーに追加されると、自動的に PDF に変換されます。
- **アプリケーションの GUI を表示する** ボックスをオンまたはオフにして、ファイル変換時のアプリケーションの UI の表示を有効/無効にします。
- **元のフォルダーに変換したドキュメントを保存する** ボックスを選択すると、変換されたファイルが元のファイルと同じ場所に保存されます。
- **「監視」フォルダーを追加してファイルを自動的に処理する** ボックスを選択すると、ファイルが**監視フォルダー**のリストのフォルダーに追加されたときに自動的に処理されます。
- ファイル/フォルダーを **Office2PDF** のダイアログボックスにドラッグすることもできます。
- **オプション** ドロップダウンメニューには 2 つのオプションがあります。
    - **設定** **PDF-XChange Standard** の印刷パラメータを決定します。詳しくは**こちら**を参照してください。
    - **閉じる** **OFFice2PDF** を終了します。
- **情報** ドロップダウンメニューには 2 つのオプションがあります。
    - **ヘルプ** **PDF-XChange** Web サイトのヘルプセクションを起動します。
    - **製品について** **Office2PDF** のバージョンなどの詳細が表示されます。

**実行**をクリックし、ファイルを PDF に変換します。

---

# 8. マクロ

マクロは、**PDF-XChange Standard** 全体で使用されます。「マクロ」は「マクロ命令」の略語で、対応する出力を得るために入力文字を入力する方法を指定するルールを表すコンピューターサイエンスの用語です。つまり、入力プロセス中に出力プロセスのコンポーネントを簡素化できるため、関連する作業の負荷が軽減され、より動的になります。必要に応じて、複数のマクロを同時に使用することができます。

特定の記号はマクロと互換性がないため、ドキュメント名には使用できないことに注意してください。ファイルの保存時に使用した名前と最終的なファイル名の間に不一致が見られた場合は、ファイルの保存時に使用する名前を変更することをお勧めします。

マクロの形式は次のとおりです。

**%[<Macro Name>]**、またはカスタマイズ可能な場合は**%[<Macro Name>:<Parameter>]**。**<Parameter>**のステップは、環境変数マクロを除くすべてのケースで省略可能です。

たとえば、**ページ番号**マクロを使用して、ページの採番の形式を指定できます。**ページ番号**マクロの構文規則は**%[Page:<Parameter>]**で、次のパラメータを使用できます。

- **'r'** は小文字のローマ数字の使用を指定します – **%[Page:r]**。
- **'R'** は大文字のローマ数字の使用を指定します – **%[Page:R]**。
- **'L'** は、ページラベルが指定されている場合に、ページ番号の形式としてページラベルを指定します。ページラベルが指定されていない場合は、標準のページ番号（**%[Page:L]**）が使用されます。
- **'<integer>**は、使用される最小桁数を指定します。この値は 1 から 12 までの任意の正の整数で、例えば**%[Page:4]**は**"0001, 0002, 0003..."**として番号付けを開始します。

マクロが使用可能な場合は、マクロのアイコンが表示されます。

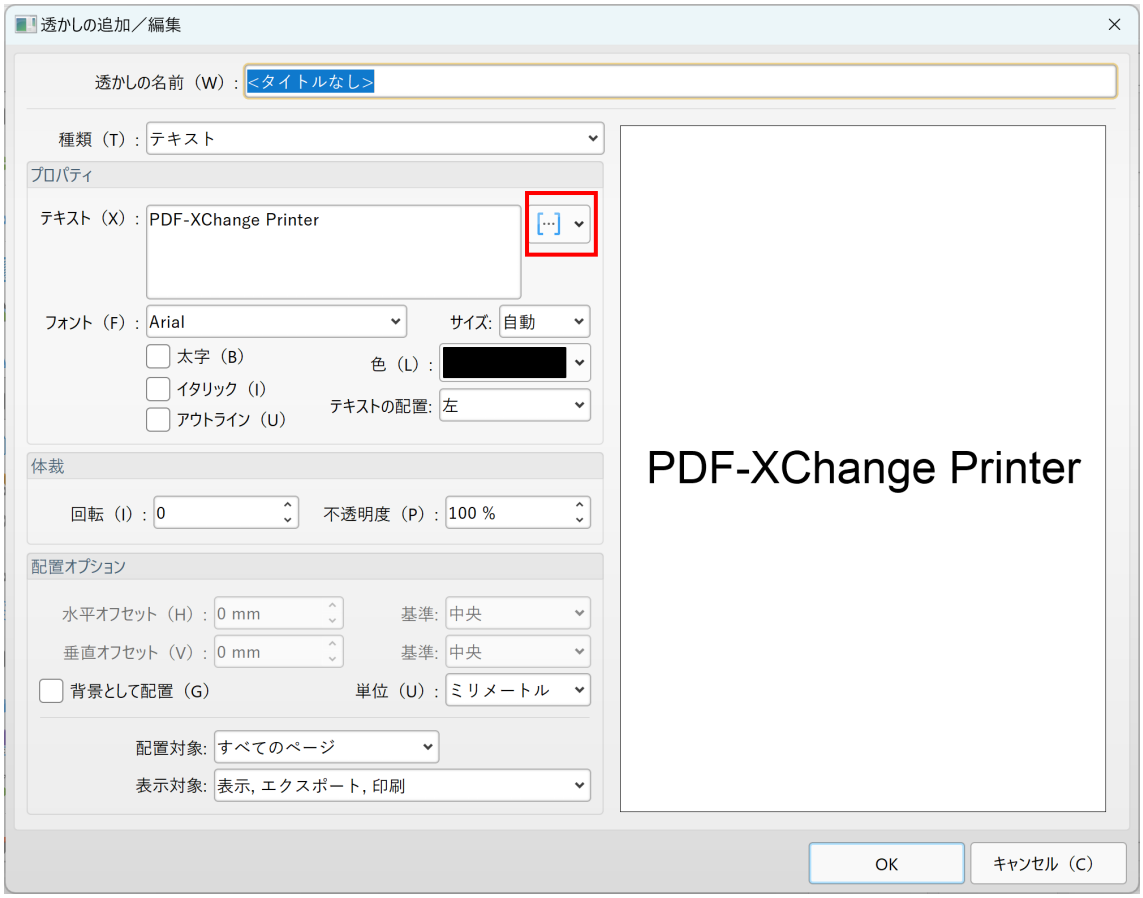


**図 1.** [マクロ]アイコン

マクロのアイコンをクリックして使用可能なオプションのリストを表示し、クリックして関連するテキストボックスにマクロを追加します。すべてのマクロの詳細を以下に示します。

- **アプリケーション名**
- **コンピューター名**
- **日付と時刻のマクロ**
- **ドキュメント名**
- **ドキュメントパス**
- **環境変数**
- **ページ番号**
- **ページ数**
- **ユーザー名**

# 8-1. アプリケーション名

**アプリケーション名**マクロは、PDF-XChange Standard を呼び出してドキュメントを印刷するアプリケーションの実行可能なファイル名を追加します。

このマクロの構文規則は**%[AppName]**です。

## 例

以下の手順に従って、**アプリケーション名**マクロを使用して透かしを作成します。

1. 設定メニューの**透かし**をクリックし、**追加**をクリックします。

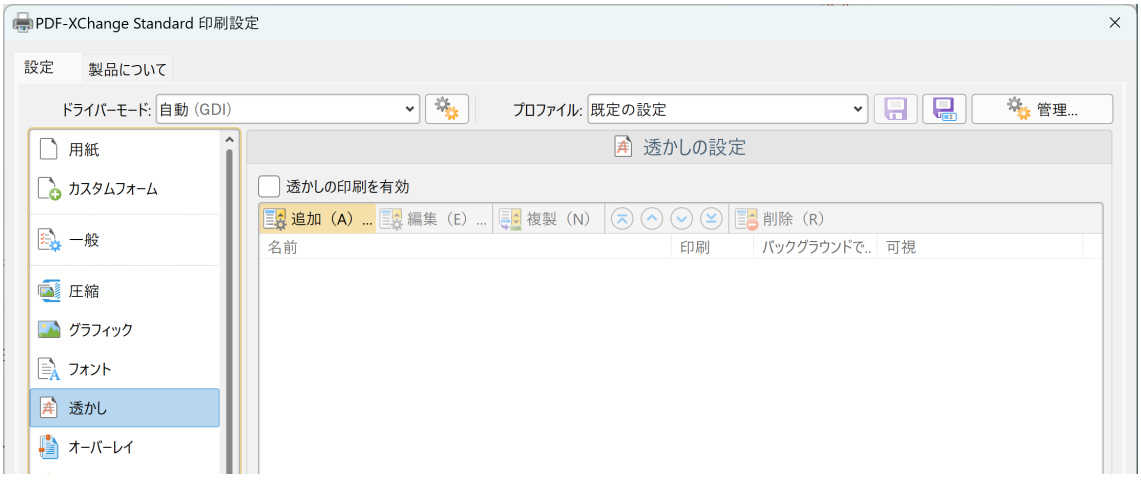


**図 1.** [透かし]ダイアログボックスの[追加]ボタンが強調表示

**透かしの追加/編集**のダイアログボックスが開きます。

2. **テキスト**のテキストボックスをクリアし、マクロのアイコンをクリックして、ドロップダウンメニューの**アプリケーション名**をクリックします。

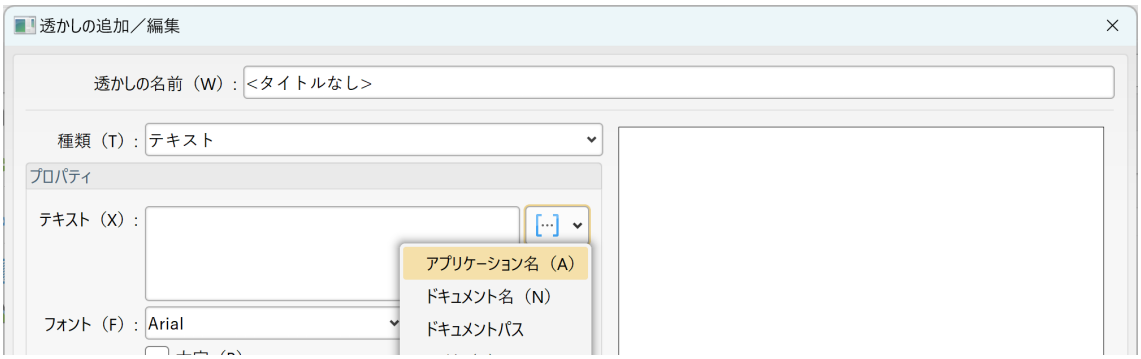


**図 2.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、[アプリケーション名]マクロが選択状態

次に、**%[AppName]**のマクロがテキストボックスに追加され、透かしのテキストが **PDF-XChange Standard** を呼び出してドキュメントを印刷するアプリケーションの名前に更新されます。たとえば、**Microsoft Word** を使用すると、「**WINWORD**」が追加されます。

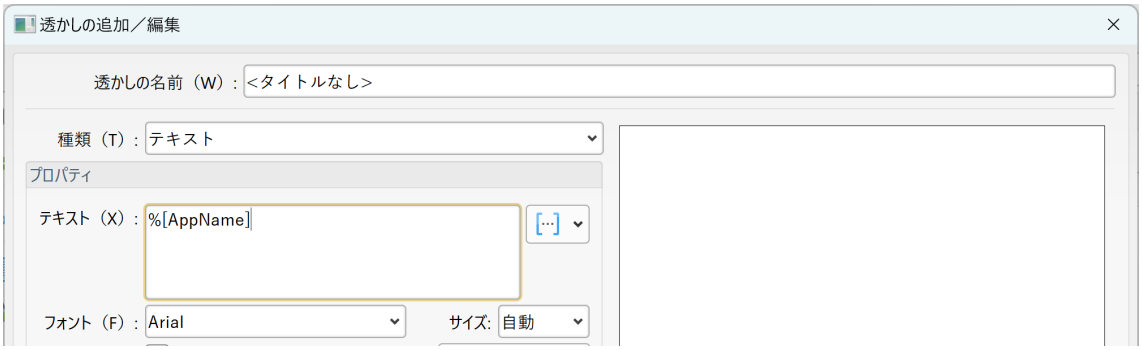


**図 3.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、%[AppName]マクロの例

# 8-2. ドキュメント名

**ドキュメント名**のマクロは、印刷ドキュメントの名前を追加します。

このマクロの構文規則は**%[DocName]**です。

**例**

**ドキュメント名**マクロを使用して、ドキュメントの名前をテキスト形式で含む透かしを作成するには、次の手順に従います。

1. 設定メニューの**透かし**をクリックし、**追加**をクリックします。

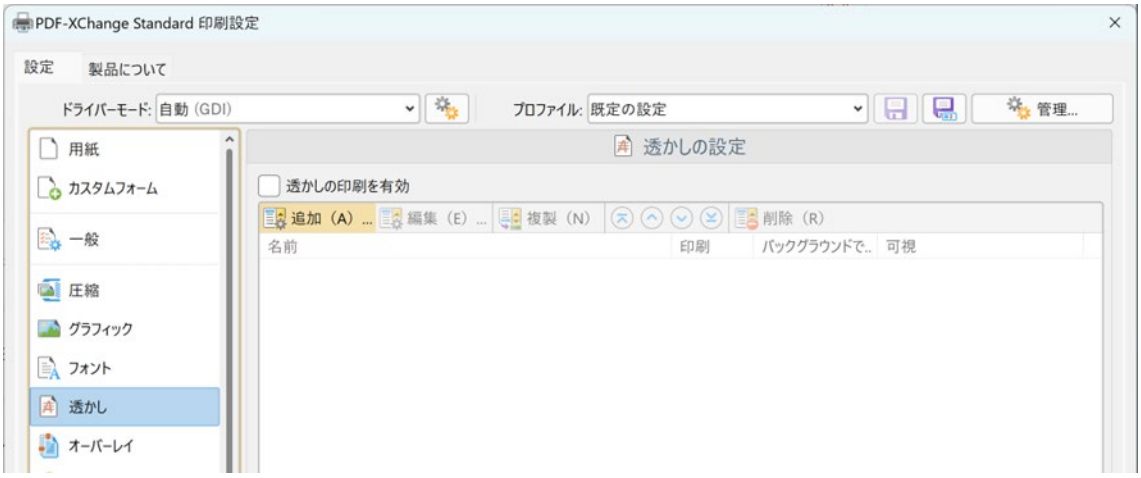


**図 1.** [透かし]ダイアログボックスの[追加]ボタンが強調表示

**透かしの追加/編集**のダイアログボックスが開きます。

2. **テキスト**のテキストボックスをクリアし、マクロのアイコンをクリックして、ドロップダウンメニューの**ドキュメント名**をクリックします。

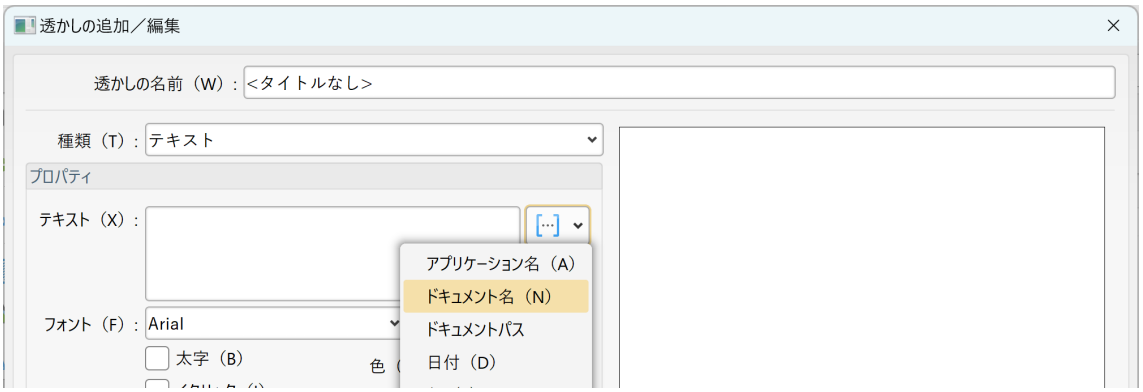


**図 2.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、[ドキュメント名]マクロが選択状態

次に、**%[DocName]**のマクロがテキストボックスに追加され、透かしのテキストがドキュメントの名前に更新されます。

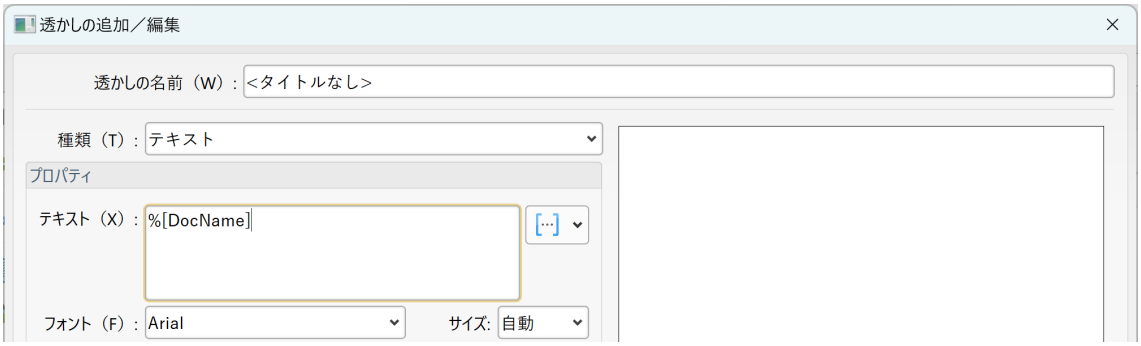


**図 3.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、%[DocName]マクロの例

プレビューウィンドウには、既定値である「**Document**」という単語が表示されます。透かしのテキストは、印刷時にドキュメントの名前に更新されます。たとえば、上記の設定を使用して「**Lorem Ipsum**」というタイトルのドキュメントを印刷すると、次のように印刷されます。

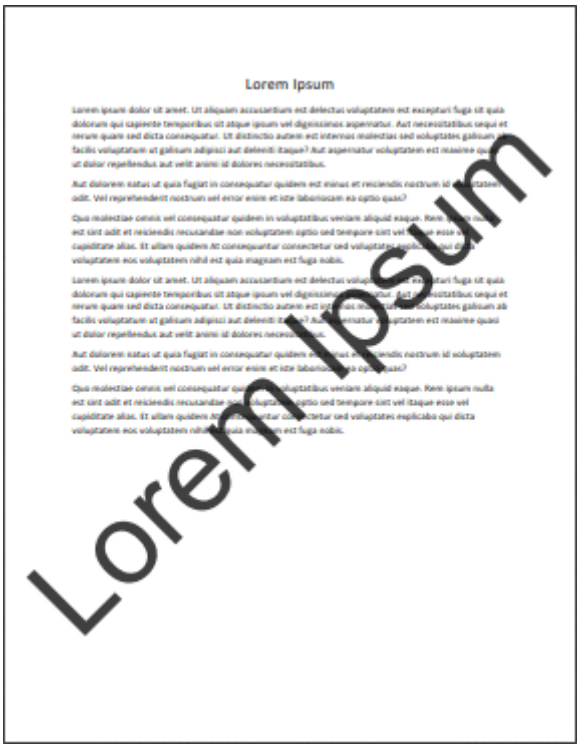


**図 4.** %[DocName] マクロ出力の例

## 詳細情報

**titrules.js** JavaScript の **getDocumentName** の機能は、印刷時のドキュメント名を使用してこのマクロを定義します。この JavaScript は、ドキュメントを保存するときに **PDF-XChange Standard** を他のアプリケーションよりも優先するために含まれています。これは、**Microsoft** がドキュメント名を定義する方法が複雑なため、必要なプロセスとなっています。**titjules.js** JavaScript の変更は、経験豊富な JavaScript プログラマーのみが実行する必要がある複雑なプロセスであることに注意してください。

# 8-3. ドキュメントパス

**ドキュメントパス**のマクロは、印刷ドキュメントのソースのパスを追加します。

このマクロの構文規則は**%[DocPath]**です。

### 例

以下の手順に従って、**ドキュメントパス**のマクロを使用して透かしを作成します。

1. 設定メニューの**透かし**をクリックし、**追加**をクリックします。

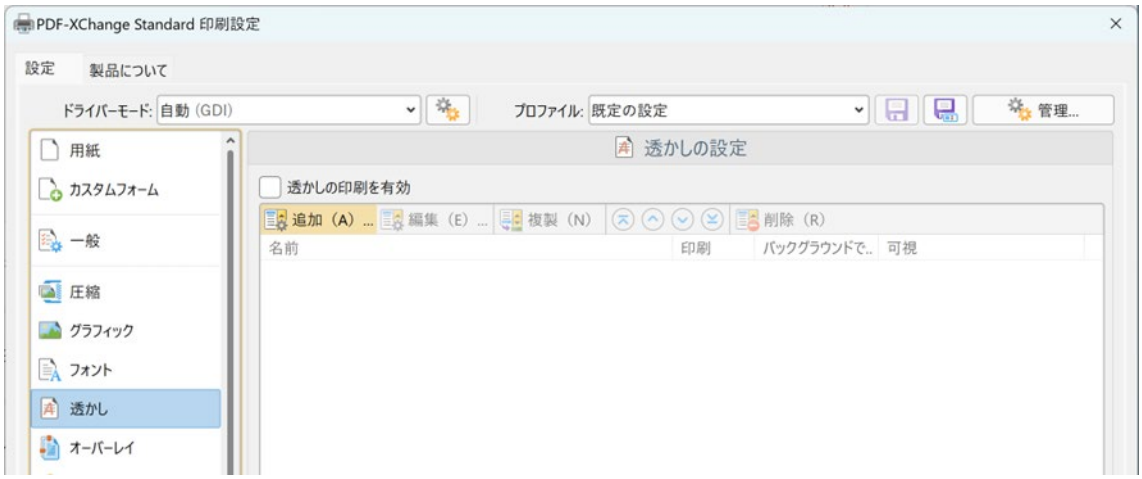


**図 1.** [透かし]ダイアログボックスの[追加]ボタンが強調表示

**透かしの追加/編集**のダイアログボックスが開きます。

2. **テキスト**のテキストボックスをクリアし、マクロのアイコンをクリックして、ドロップダウンメニューの**ドキュメントパス**をクリックします。

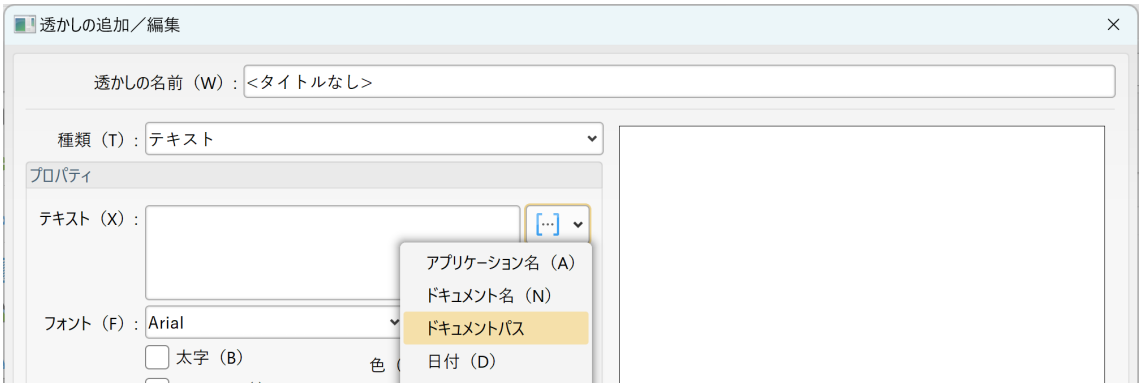


**図 2.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、[ドキュメントパス]マクロが選択状態

次に、**%[DocPath]**のマクロがテキストボックスに追加され、透かしのテキストがドキュメントパスに更新されます。

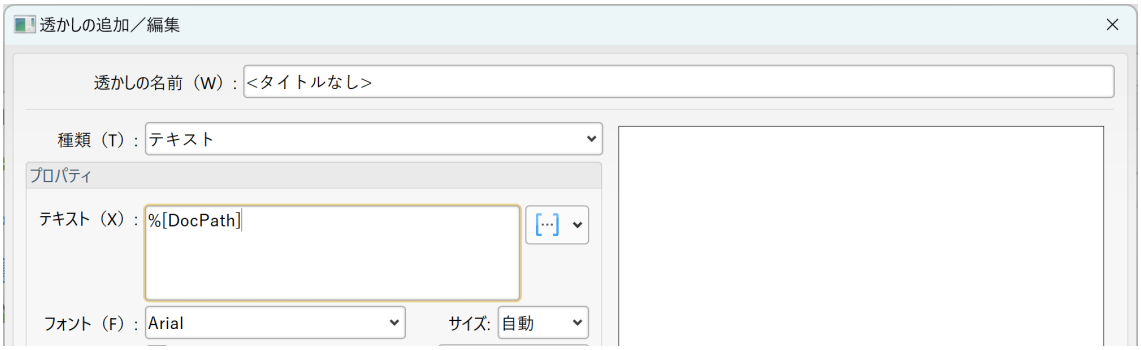


**図 3.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、%[DocPath]マクロの例

プレビューウィンドウには、既定値「**C:¥My Documents**」が表示されます。透かしテキストは、印刷時にドキュメントのパスに更新されます。たとえば、上記の設定を使用してデスクトップにあるドキュメントを印刷すると、次のように印刷されます。

**図 4.** %[DocPath] マクロ出力の例

一部の印刷アプリケーションは印刷ドキュメントのパスを識別できないため、このマクロはそのような場合にはデータを返さないことに注意してください。さらに、参照されるためにはパスが存在する必要があることに注意してください - たとえば、保存されていないドキュメントは、このマクロを使用するとデータを返しません。

## 8-4. 日付と時刻のマクロ

**PDF-XChange Standard** には、日付と時刻の出力を作成するために使用されるマクロがいくつかあります。これらは同じ方法で動作し、多くの場合、互いに組み合わせて使用されます。日付と時刻のマクロについては、以下で詳しく説明します。

**%[Date]**

**%[Date]**マクロは、現在の日付を追加します。次のパラメータを使用できます。

- **d** 日付を挿入し、1 桁の値の場合は 0 を省略します。
- **dd** 日付を挿入し、1 桁の値の場合は 0 を含めます。
- **ddd** 曜日を漢字1文字の省略形として挿入します。
- **dddd** 曜日を挿入します。
- **M** 月を数値として挿入し、1 桁の値の場合は 0 を省略します。
- **MM** 月を数値として挿入し、1 桁の値の場合は 0 を含めます。
- **MMM** 月を数値として挿入し、1 桁の値の場合は 0 を省略します。
- **MMMM** 月名を挿入します。
- **yy** 年を 2 桁で挿入し、値が 10 未満の場合は 0 を加算します。
- **yyyy** 年を挿入します。

パラメータを使用する場合のこのマクロの構文規則は**%[Date:<Parameter>]**です。

カスタマイズされた日付を挿入するために、いくつかのパラメータを順番に使用できることに注意してください。たとえば、**%[Date:dddd, dd MMMM yyyy]**は、曜日の後に日付、月名、および年を 4 桁で挿入します。

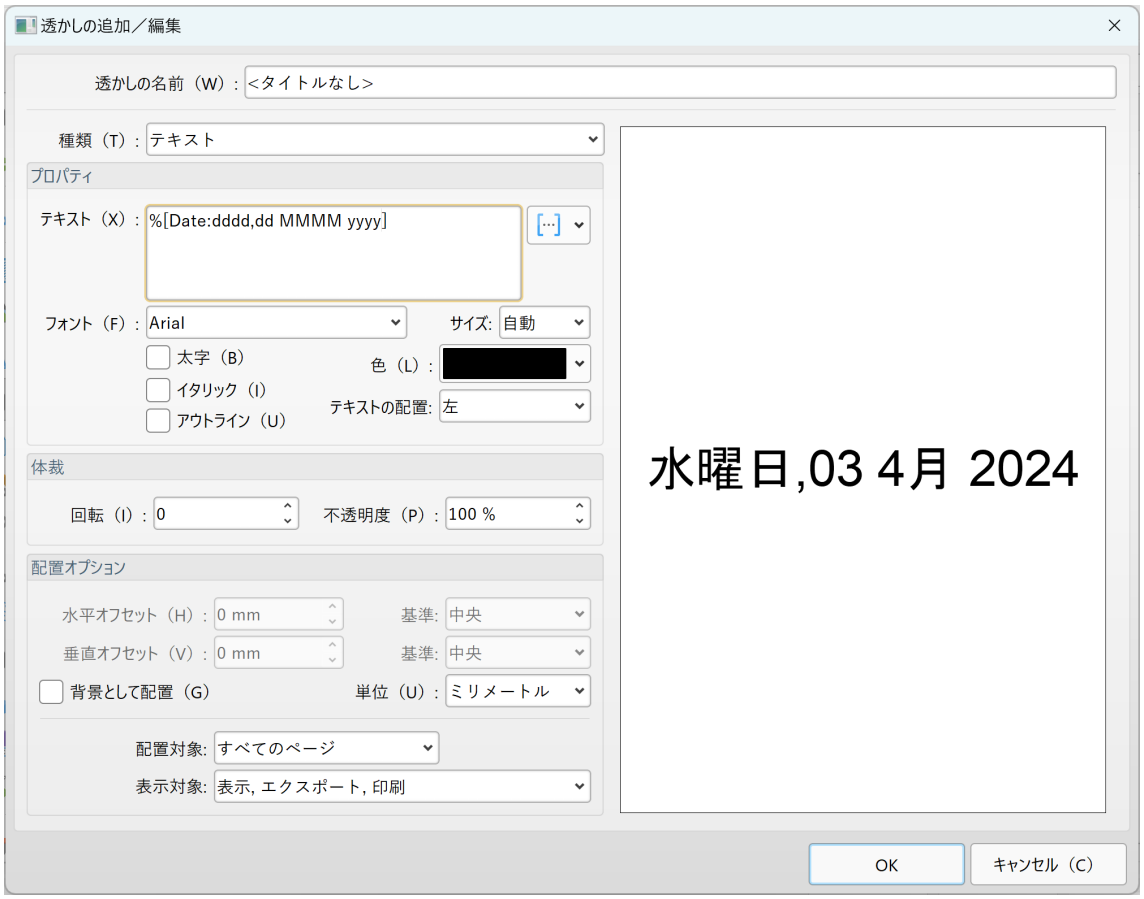


**図 1.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、%[Date]マクロの例

このマクロにパラメータが指定されていない場合、出力はデフォルト（**d/M/yyyy** 形式)に戻ります。

### %[Year]

**%[Year]**マクロは、現在の年を 4 桁の値として加えます。

### %[Month]

**%[Month]**マクロは、現在の月を 1 から 12 までの数値として加えます。

### %[Day]

**%[Day]**マクロは、現在の日付を 2 桁の値として加えます。

**%[Time]**

**%[Time]**マクロは、現在の時刻を加えます。次のパラメータを使用できます。

- **h** 時間を挿入し、1 桁の値の場合は 0 を省略します。
- **hh** 時間を挿入し、1 桁の値の場合は 0 を含めます。
- **H** 時間を挿入し、1 桁の値の場合は 0 を含み、24 時間制を使用します。
- **m** 分を挿入し、1 桁の値の場合は 0 を省略します。
- **mm** 分を挿入し、1 桁の値の場合は 0 を含めます。
- **s** 秒を挿入し、1 桁の値の場合は 0 を省略します。
- **ss** 秒を挿入し、1 桁の値の場合は 0 を含めます。
- **tt** 午前/午後の変数を示すために**午前**または**午後**の文字を挿入します。

パラメータを使用する場合のこのマクロの構文規則は**%[Time:<Parameter>]**です。

カスタマイズされた時間を挿入するために、いくつかのパラメータを順番に使用できることに注意してください。たとえば、**%[Time:H:mm tt]**は、現在の時間と分を挿入し、a.m./p.m.変数を示すために 2 文字を挿入します。

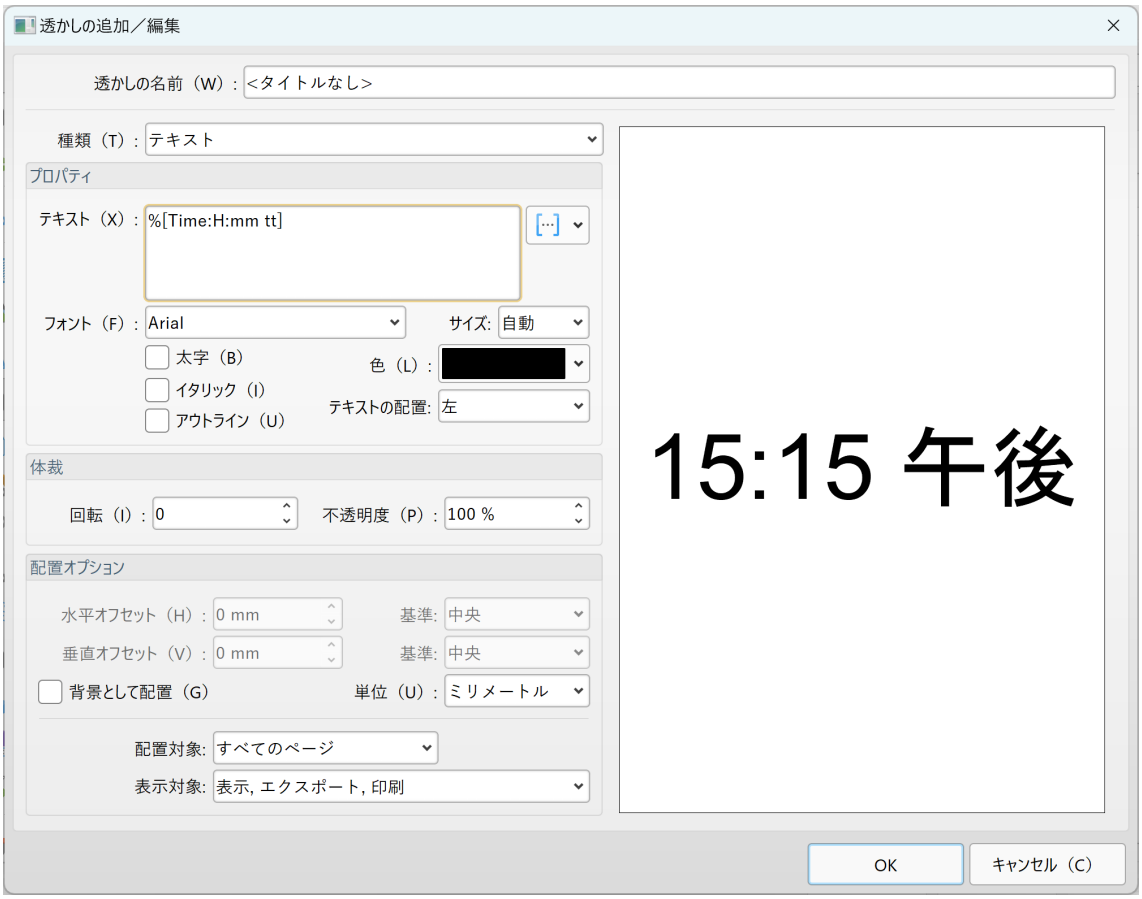


**図 2.** [透かしの追加／編集]ダイアログボックス、%[Time]マクロの例

### %[Hour]

**%[Hour]**マクロは、現在の時刻から時間の値を加えます。

### %[Minute]

**%[Minute]**マクロは、現在の時刻から分の値を加えます。

### %[Seconds]

**%[Seconds]**マクロは、現在の時刻から秒の値を加えます。

なお、これらのマクロは必要に応じて組み合わせることができるます。

---

# 8-5. コンピューター名

**コンピューター名**のマクロは、**Windows のコンピューター名**で定義されているローカルのコンピューターの名前を追加します。

このマクロの構文規則は**%[Computer]**です。

## 例

以下の手順に従って、**コンピューター名**のマクロを使用して透かしを作成します。

1. 設定メニューの**透かし**をクリックし、**追加**をクリックします。

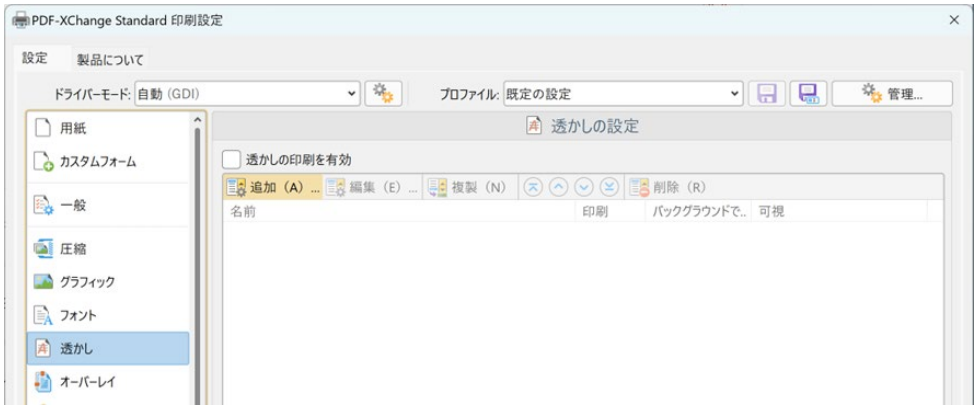


**図 1.** [透かし]ダイアログボックスの[追加]ボタンが強調表示

**透かしの追加/編集**のダイアログボックスが開きます。

2. **テキスト**のテキストボックスをクリアし、マクロのアイコンをクリックして、ドロップダウンメニューの**コンピューター名**をクリックします。

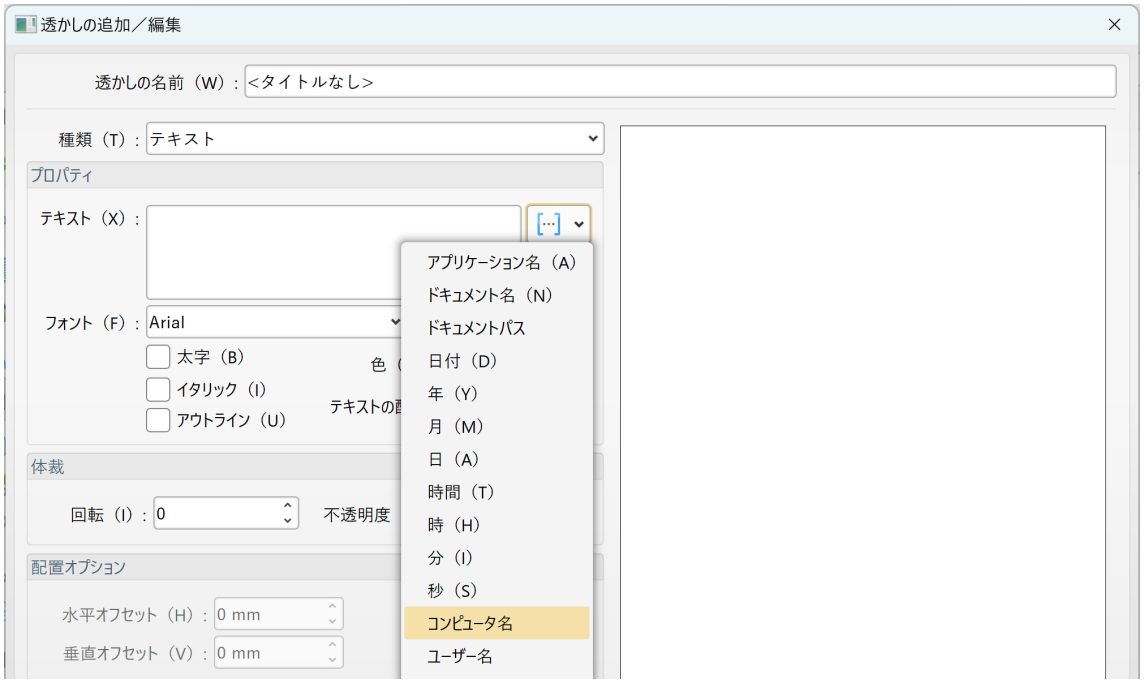


**図 2.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、[コンピューター名]マクロが選択状態

次に、**%[Computer Name]**のマクロがテキストボックスに追加され、透かしのテキストがローカルのコンピューターの名前に更新されます。

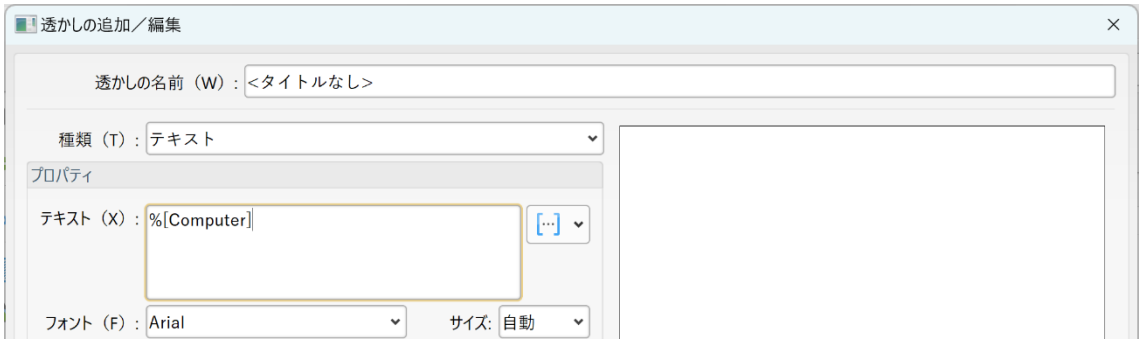


**図 3.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、%[Computer Name]マクロの例

# 8-6. ユーザー名

**ユーザー名**のマクロは、現在のユーザーの名前を追加します。

このマクロの構文規則は**%[User]**です。

**例**

以下の手順に従って、**ユーザー名**のマクロを使用して透かしを作成します。

1. 設定メニューの**透かし**をクリックし、**追加**をクリックします。

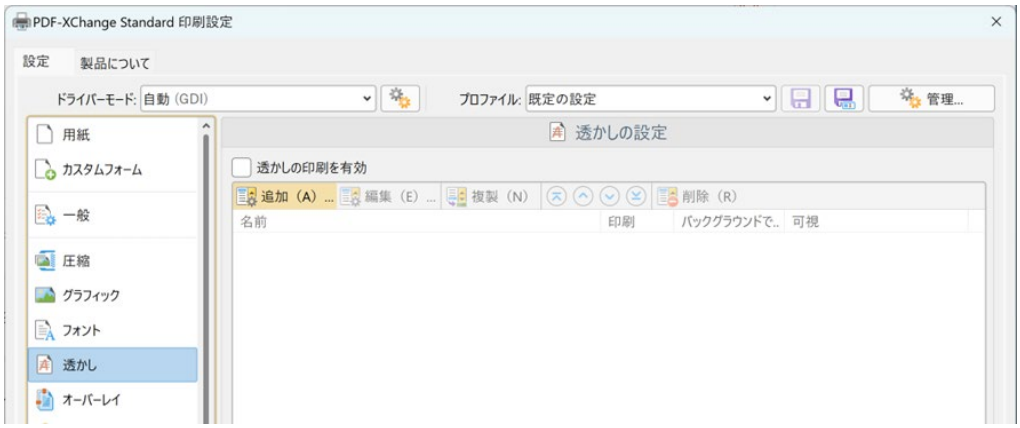


**図 1.** [透かし]ダイアログボックスの[追加]ボタンが強調表示

**透かしの追加/編集**のダイアログボックスが開きます。

2. **テキスト**のテキストボックスをクリアし、マクロのアイコンをクリックして、ドロップダウンメニューの**ユーザー名**をクリックします。

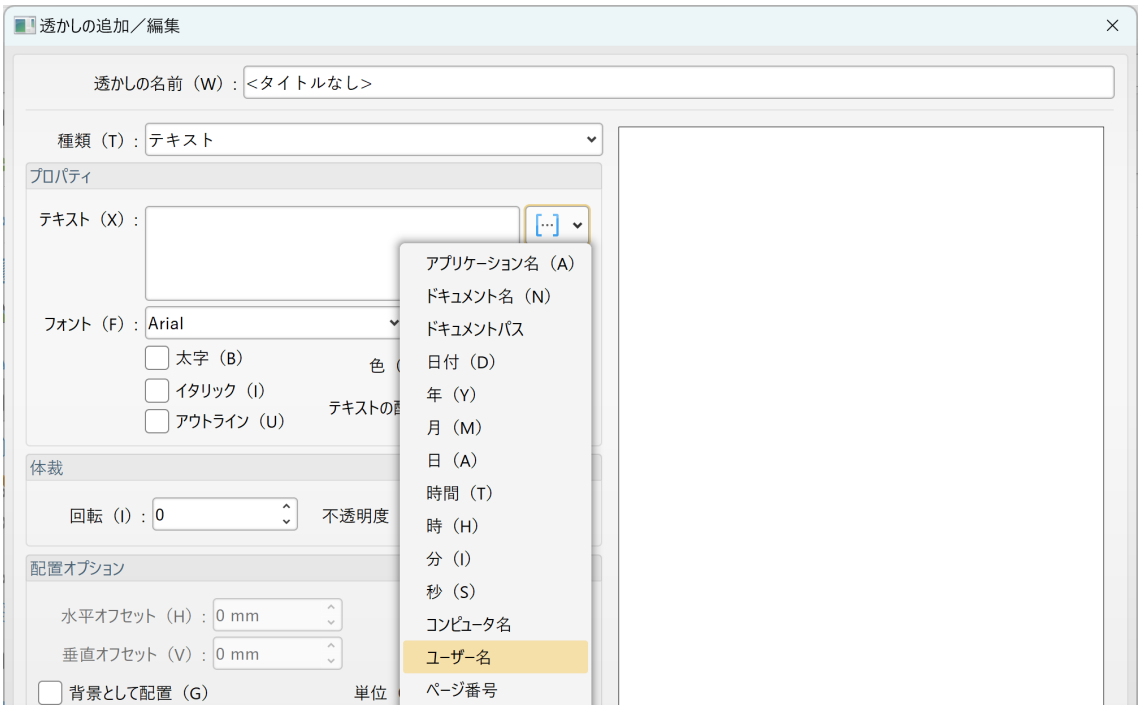


**図 2.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、[ユーザー名]マクロが選択状態

次に、**%[User]**のマクロがテキストボックスに追加され、透かしのテキストが現在のユーザーの名前に更新されます。

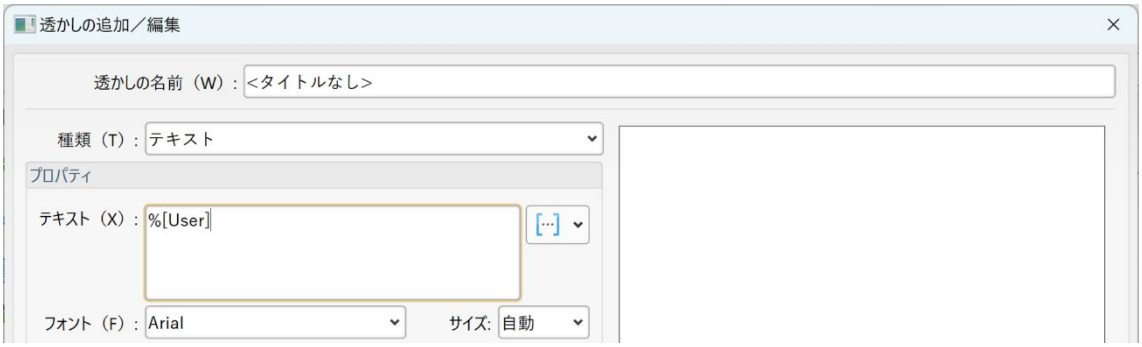


**図 3.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、%[User]マクロの例

# 8-7. ページ番号

**ページ番号**のマクロは、ソースとなるページのページ番号を追加します。

このマクロの構文規則は**%[Page]**です。

## 例

以下の手順に従って、**ページ番号**のマクロを使用して透かしを作成します。

1. 設定メニューの**透かし**をクリックし、**追加**をクリックします。

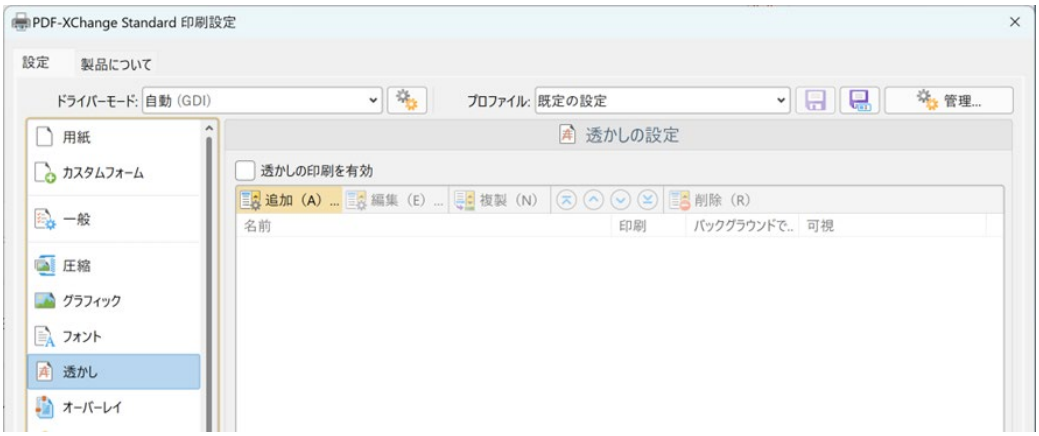


**図 1.** [透かし]ダイアログボックスの[追加]ボタンが強調表示

**透かしの追加/編集**のダイアログボックスが開きます。

2. **テキスト**のテキストボックスをクリアし、マクロのアイコンをクリックして、ドロップダウンメニューの**ページ番号**をクリックします。

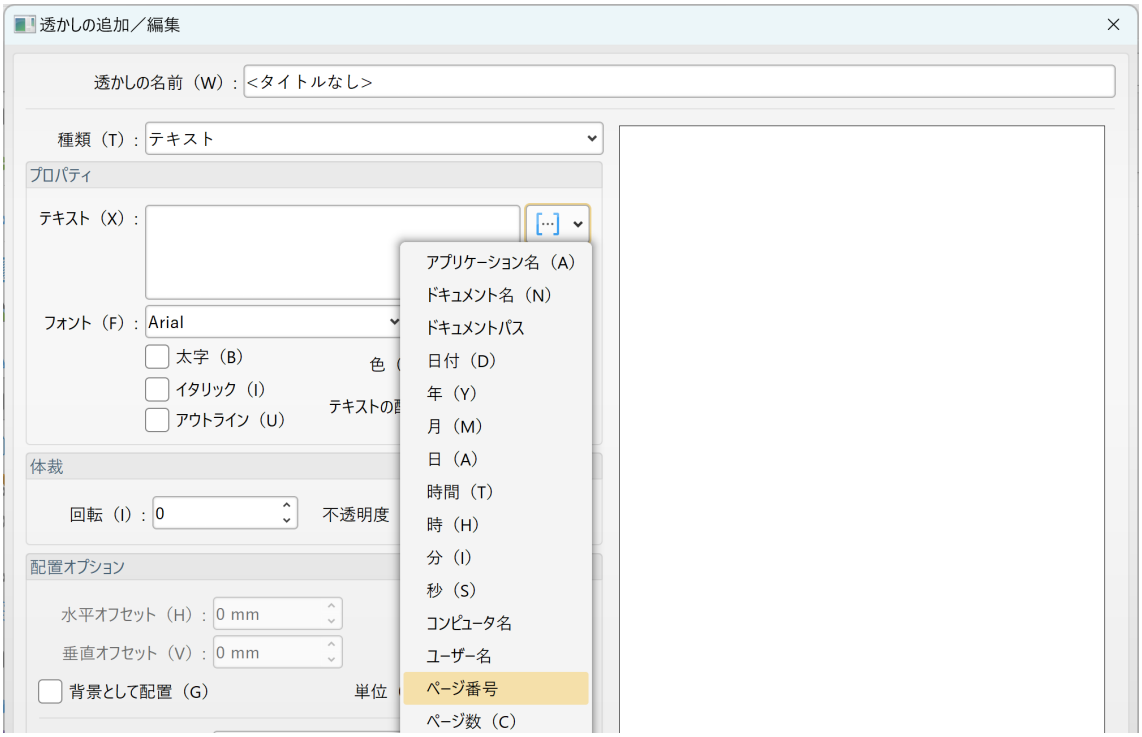


**図 2.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、[ページ番号]マクロが選択状態

次に、**%[Page]**のマクロがテキストボックスに追加され、透かしのテキストがページ番号に更新されます。

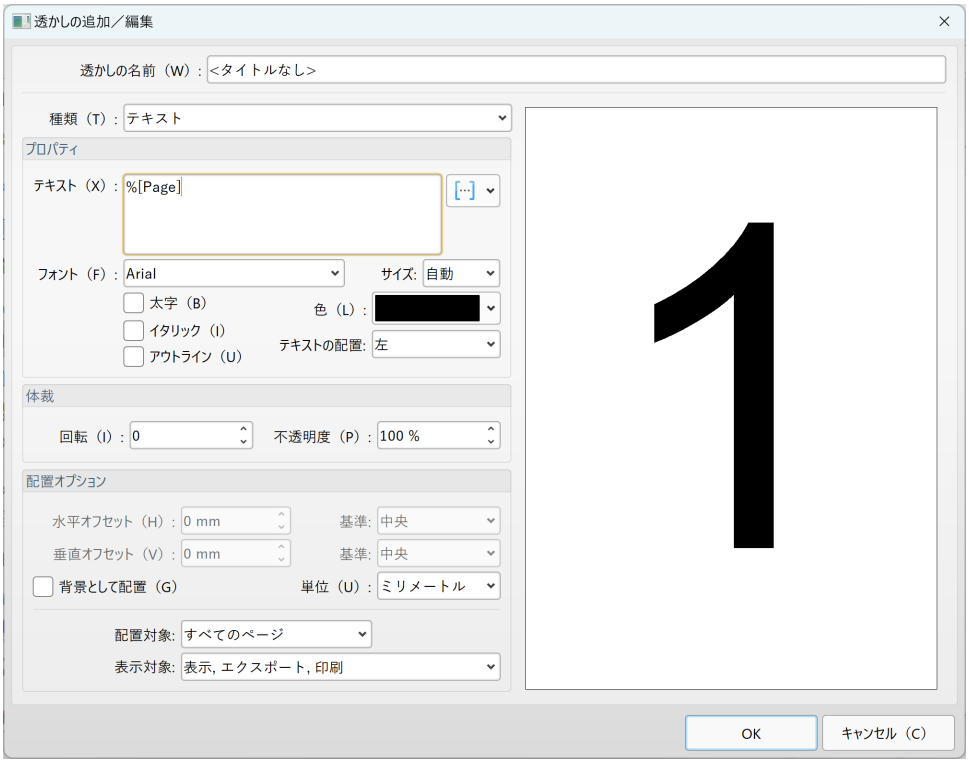


**図 3.** [透かしの追加／編集]ダイアログボックス、%[Page]マクロの例

プレビューウィンドウにはデフォルト値が表示され、これは最初のページを表すため、「1」であることに注意してください。 たとえば、3 ページのドキュメントを印刷するときに**ページ番号**マクロを使用すると、出力ページは次のように表示されます。

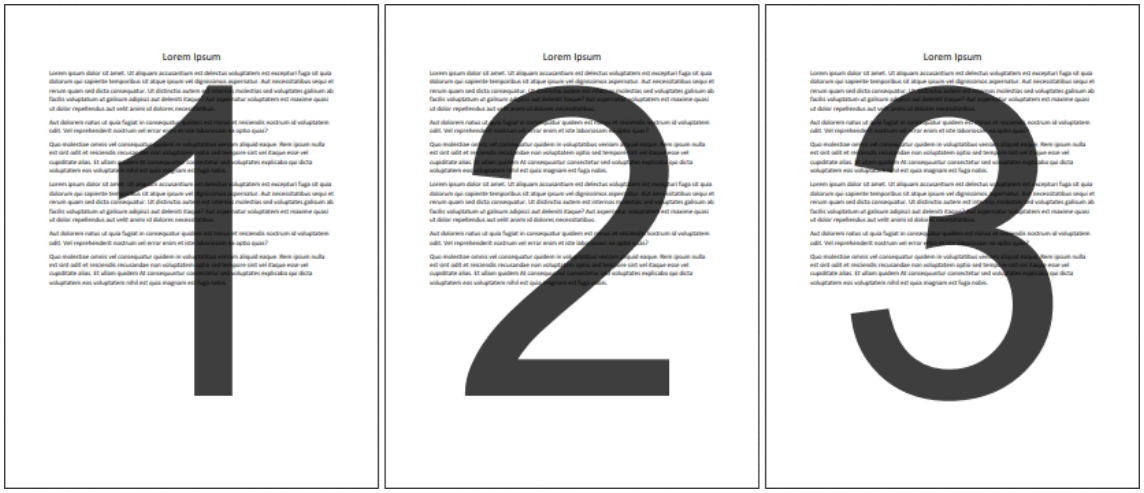


**図 4.** %[Page] マクロ出力例、3 ページのドキュメント

# 8-8. ページ数

**ページ数**のマクロは、ドキュメントのページ数を追加します。

このマクロの構文規則は**%[Pages]**です。

### 例

以下の手順に従って、**ページ数**のマクロを使用して透かしを作成します。

1. 設定メニューの**透かし**をクリックし、**追加**をクリックします。

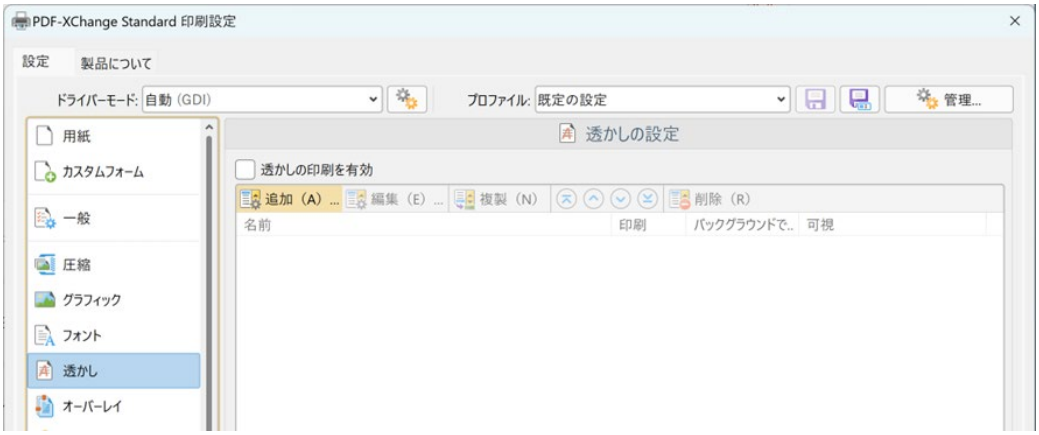


**図 1.** [透かし]ダイアログボックスの[追加]ボタンが強調表示

**透かしの追加/編集**のダイアログボックスが開きます。

2. **テキスト**のテキストボックスをクリアし、マクロのアイコンをクリックして、ドロップダウンメニューの**ページ数**をクリックします。

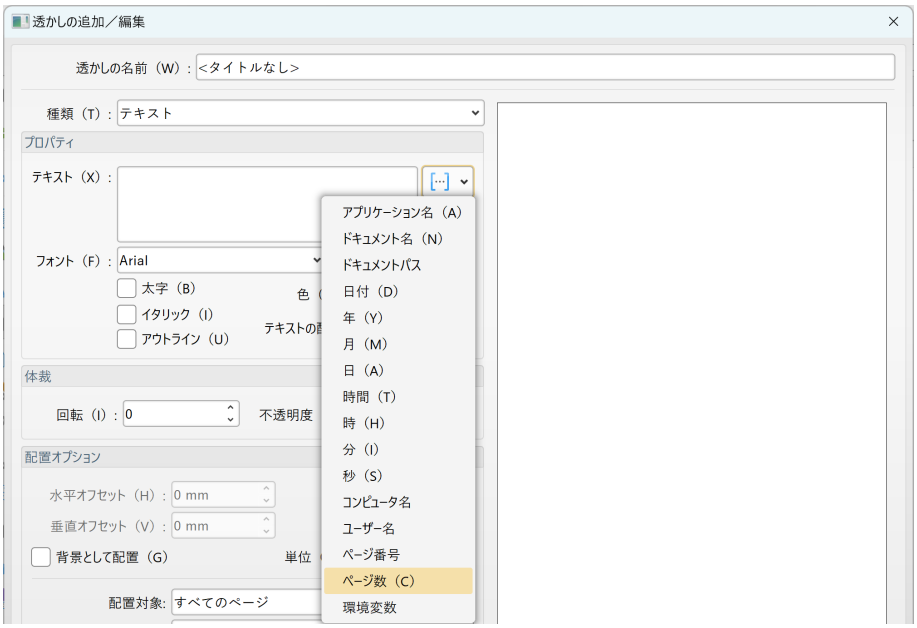


**図 2.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、[ページ番号]マクロが選択状態

次に、**%[Pages]**のマクロがテキストボックスに追加され、透かしのテキストがページ番号に更新されます。たとえば、3 ページのドキュメントでは、次のように表示されます。

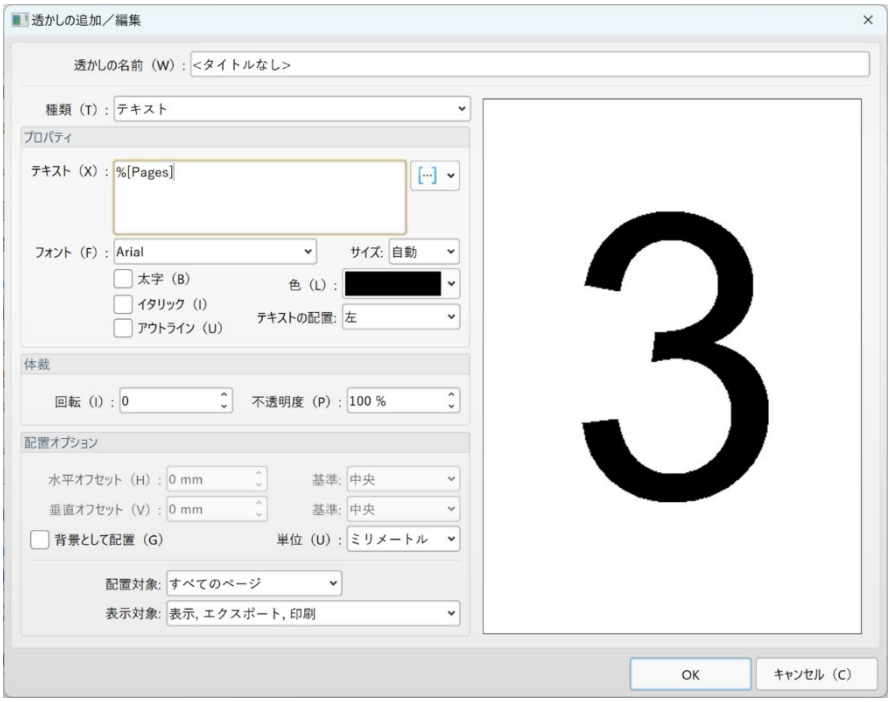


**図 3.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、%[Pages]マクロの例

# 8-9. 環境変数

**環境変数**のマクロは、ユーザー指定の変数から取得した情報を追加します。情報を返すためには、このマクロをパラメータで修飾する必要があります。

このマクロの構文規則は**%[Env:<Parameter>]**で、次のパラメータを使用できます。

**パラメータ**

- **ALLUSERSPROFILE** *All Users* のプロファイル・ディレクトリへのフルパスを挿入します。
- **APPDATA** 現在のユーザーの *Application Data* のディレクトリへのフルパスを挿入します。
- **CommonProgramFiles** *Common Files* のディレクトリへのフルパスを挿入します。
- **CommonProgramFiles(x86)** 64 ビット版の **Windows** の *(x86)Common Files* のディレクトリへのフルパスを挿入します。
- **CommonProgramFilesW6432** 64 ビット版の **Windows** の *Common Files* のディレクトリへのフルパスを挿入します。
- **COMPUTERNAME** コンピューター名を挿入します。
- **HOMEDRIVE** ユーザーの Home ディレクトリに接続されているローカルのコンピューターにドライブ文字を挿入します。
- **HOMEPATH** ユーザーのアカウント・プロパティで定義された、現在のユーザーの *Home* ディレクトリの完全なパスを挿入します。
- **LOCALAPPDATA** 現在のユーザーの *Application Data* ディレクトリへの完全なパスを挿入します。
- **LOGONSERVER** クライアントのログオン要求を認証したドメインコントローラの名前を挿入します。
- **OS** オペレーティングシステムの名前を挿入します。
- **PROCESSOR_ARCHITECTURE** CPU のチップアーキテクチャを挿入します。

- **ProgramData** *All Users* のプロファイル・ディレクトリへのフルパスを挿入します。
- **ProgramFiles** *Program Files* のディレクトリへのフルパスを挿入します。
- **ProgramFiles(x86)** 64 ビット版の **Windows** の *(x86)Program Files* のディレクトリへのフルパスを挿入します。
- **ProgramFilesW643** 64 ビット版の **Windows** の *Program Files* のディレクトリへのフルパスを挿入します。
- **PUBLIC** *Public(公開)*ディレクトリへのフルパスを挿入します 。
- **SESSIONNAME** クライアントがターミナル・サーバー経由で接続されている場合、セッション名とセッション番号を挿入します。
- **SystemDrive** システムフォルダが配置されたドライブの名前を挿入します。
- **SystemRoot** システムフォルダの名前を挿入します。
- **TEMP** オペレーティングシステムで使用される既定の一時フォルダーの名前および現在ユーザーが使用できるアプリケーション名を挿入します。
- **TMP** オペレーティングシステムで使用される既定の一時フォルダーの名前および現在ユーザーが使用できるアプリケーション名を挿入します。(一部のアプリケーションでは、**TEMP** 環境変数を使用しますが、他では環境変数 **TMP** を必要としますので、両方の値は同じである必要があります)。
- **USERDOMAIN** 現在のユーザーのアカウントを含むユーザードメインの名前を挿入します。
- **USERDOMAIN_ROAMINGPROFILE** RDS または標準の移動プロファイルパスのユーザードメインの名前を挿入します。
- **USERNAME** 現在のユーザーの名前を挿入します。
- **USERPROFILE** 現在のユーザーのプロファイル・ディレクトリの場所を挿入します。
- **windir** *Windows* ディレクトリへのフルパスを挿入します。

## 例

以下の手順に従って、**環境変数**のマクロを使用して、*Common Files* のディレクトリへのフルパスから透かしを作成します。

1. 設定メニューの**透かし**をクリックし、**追加**をクリックします。

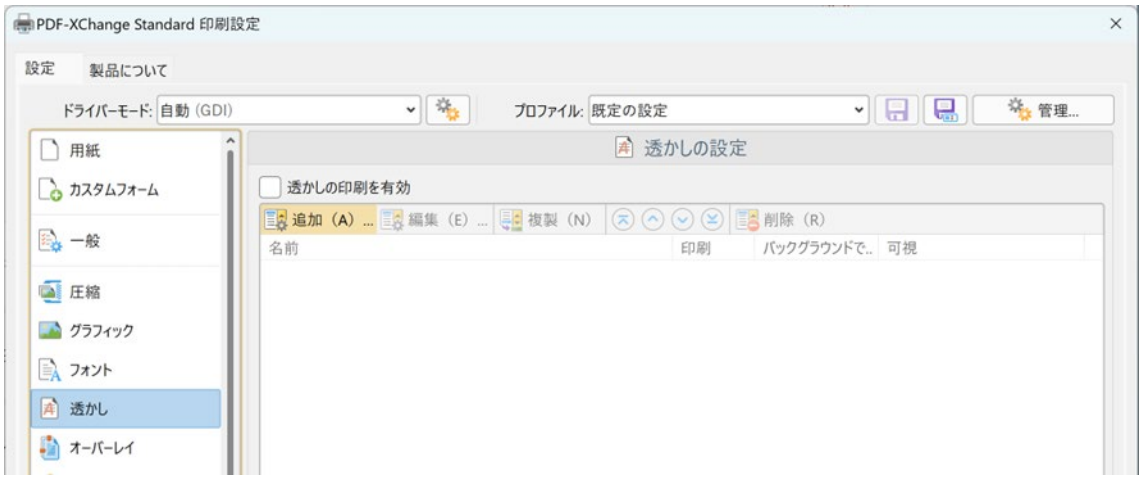


**図 1.** [透かし]ダイアログボックスの[追加]ボタンが強調表示

**透かしの追加/編集**のダイアログボックスが開きます。

2. **テキスト**のテキストボックスをクリアし、マクロのアイコンをクリックして、ドロップダウンメニューの**環境変数**をクリックします。

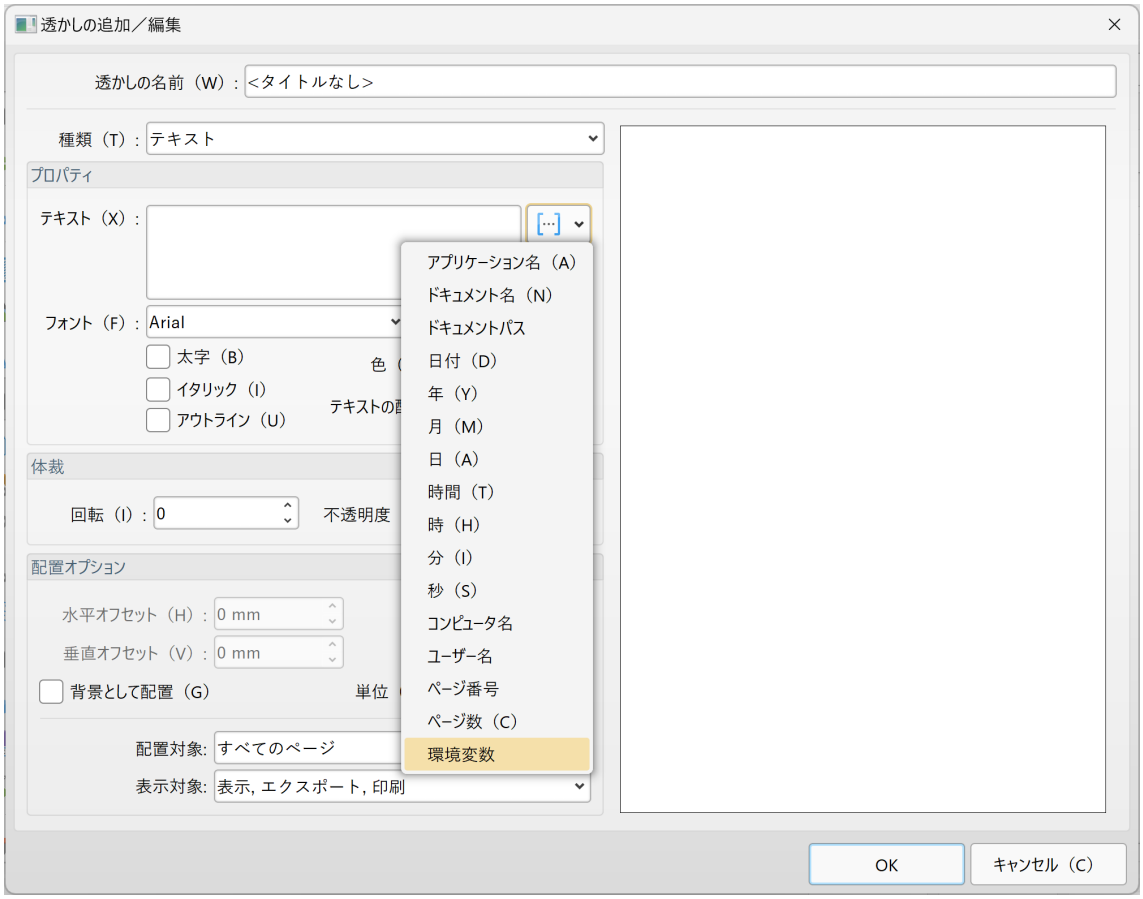

**図 2.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、[環境変数]マクロが選択状態

次に、**%[Env]**マクロがテキストボックスに追加されます。

3. マクロに「**:CommonProgramFiles**」というテキストを追加します。

透かしのテキストは、*Common Files* ディレクトリへのフルパスに更新されます　。

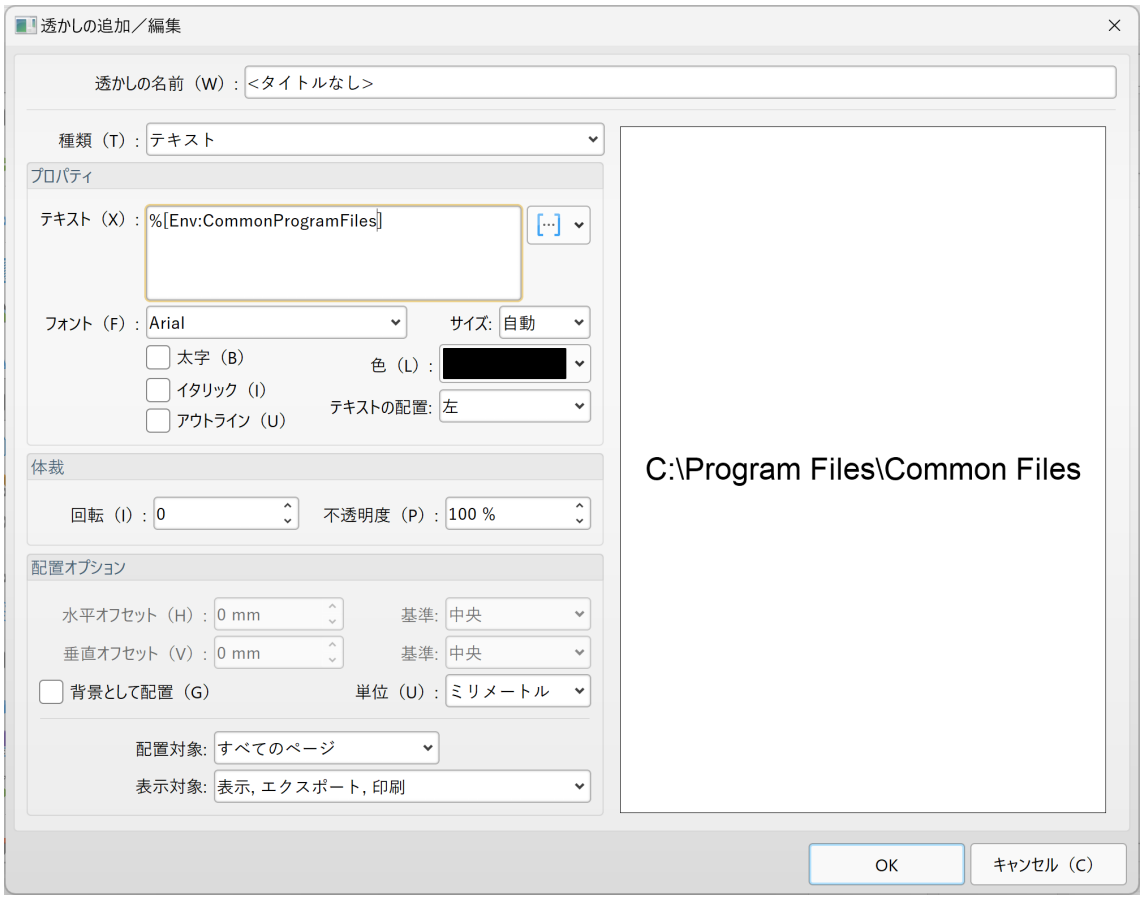


**図 3.** [透かしの追加/編集]ダイアログボックス、%[Env:CommonProgramFiles]マクロの例